

近畿大学 薬学部 活動報告集 (令和 7 年度)

Activity Reports of Faculty of Pharmacy,
Kindai University
No.19, 2025

近畿大学 薬学部

Faculty of Pharmacy, Kindai University

令和 8 年 9 月

近畿大学薬学部活動報告書 令和 7 年度版 発刊に寄せて

薬学部長 川崎直人

近畿大学薬学部は、近畿大学の建学の精神である「実学教育と人格の陶冶」に則り、未来志向の教育を展開しております。6 年制の医療薬学科では、「薬に関する高度な知識と臨床技能を有し、優れたコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた薬剤師の養成」を、4 年制の創薬科学科では、「医薬品の創製・開発・適用などの分野において人類の健康と福祉に貢献する創造性豊かな薬学研究者・技術者の育成」を教育目標として掲げています。

この目標の実現に向けて、医療・薬学を取り巻く社会的要請や環境の変化を踏まえ、教育内容・方法の継続的な見直しを進めております。医療薬学科では新しい薬学教育モデル・コア・カリキュラムに対応した新カリキュラムを導入し、令和 6 年 4 月以降の入学生から薬学実践実習（アドバンスト実習）を導入して、トライアルを開始しているところです。また、創薬科学科では臨床検査技師の資格取得のためのカリキュラムや外国語教育、キャリア教育などを充実させ、幅広い教養と専門性、柔軟な思考力、高い倫理観を備えた人材の育成に努めています。

また、建学の精神に基づく「実学教育」の実践として、研究活動によって得られた成果を積極的に社会へ発信し、実用化による社会貢献にも取り組んでおります。さらに、本学部は文部科学省の令和 7 年度予算事業「薬学教育における創薬研究人材養成のための調査研究」において、「次世代創薬人材育成アカデミー—基礎研究・治験・製造・品質保証」（代表：大阪大学）に連携校として参画することとなりました。本事業では、基礎研究から治験、製造、品質保証に至るまで創薬の全過程を網羅した博士課程プログラムを構築し、創薬に貢献する人材の育成強化を目的としております。近畿大学のほか、京都大学、和歌山県立医科大学、立命館大学が参画し、5 大学間の連携・協力によって実践的かつ高度な教育研究体制の構築を進めてまいります。

薬学を取り巻く環境が急速に変化する中で、今後も時代の要請に的確に応えるべく、教育・研究体制のさらなる充実を図っていく所存です。

本報告書は、近畿大学薬学部の令和 7 年度の教育・研究活動の成果をとりまとめたものです。ご高覧のうえ、忌憚のないご意見・ご助言を賜れますと幸いです。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

目次

令和7年度 近畿大学薬学部行事一覧	1
Topics	
1. 教員の受賞など	2
2. 学会等における学生の受賞	4
3. 研究成果	9
4. 産学連携	14
5. メディア	18
6. 就職・進路状況	19
7. その他	21
研究室・部門・研究所 報告	29
医療薬学科	
化学療法学研究室	30
公衆衛生学研究室	33
生化学研究室	39
製剤学研究室	42
病態分子解析学研究室	49
病態薬理学研究室	51
薬物治療学研究室	55
薬物動態学研究室	58
有機薬化学研究室	62
臨床薬学部門	
社会薬学分野	67
医療薬剤学分野	71
医薬品情報学分野	74
教育専門部門	77
創薬科学科	
医薬品化学研究室	80
創薬分子設計学研究室	82
分子細胞生物学研究室	84
薬品分析学研究室	86
薬用資源学研究室	88
薬学総合研究所	
機能性植物工学研究室	92
食品薬学研究室	95
先端バイオ医薬研究室	104
教養・基礎教育部門	110

令和7年度 近畿大学薬学部行事一覧

- 4/1 令和7年度 年度開始・オリエンテーション
- 4/2 英語・専門科目プレイスメントテスト
- 4/2 大学院 履修ガイダンス
- 4/3 オリエンテーション・白浜研修（～4/4）
- 4/5 入学式
- 4/7 前期授業開始 履修登録（～4/16）
- 7/5 博士前期・修士課程 学内推薦入学選抜
- 7/5 医療薬学科 卒論発表会（ポスター発表）
- 7/12 医療薬学科 卒論発表会（口頭発表）
- 7/28 前期定期試験（～8/2）
- 8/1 研究室配属説明 紹介動画視聴期間（～9/5）
- 8/5 CBT体験受験
- 9/11 卒業式（9月卒業生対象）
- 9/12 後期授業開始
- 9/13 大学院入試（学内選考・一般選考・社会人選考）
- 10/11 前期留学生入試
- 11/22 薬学部 推薦入試（～11/23）
- 11/29 OSCE試験
- 12/6 薬学部 推薦入試（～12/7）
- 12/23 CBT本試験

令和8年 1/24 一般前期（A日程）入試（～1/25）

- 1/29 後期定期試験（～2/6）
- 2/5 博士論文公聴会
- 2/6 創薬科学科 卒論発表会
- 2/7 大学院 修士論文発表会
- 2/11 一般前期（B日程）入試（～2/14）
- 2/18 第72回 臨床検査技師国家試験
- 2/21 後期留学生入試
- 2/21 大学院入試（一般選考）
- 2/21 第111回 薬剤師国家試験（～2/22）
- 2/28 大学院 臨床薬学シンポジウム
- 3/8 一般後期入試（～3/9）
- 3/19 大学院 学位授与式（3月期）
- 3/21 卒業式

TOPICS

1. 教員の受賞など

1-1. 薬学総合研究所 食品薬学研究室 森川敏生 教授の論文が、令和 7 年度生薬学会論文賞を受賞

薬学総合研究所 食品薬学研究室 森川敏生 教授の論文が、令和 7 年度生薬学会論文賞を受賞しました。

本論文は、令和 6 年度に Journal of Natural Medicines 誌に掲載された論文の中でも学術上特に優れた内容を有するものと認められた論文におくられるものです。

Saeki T, Yamamoto S, Akaki J, Tanaka T, Nakasone M, Ikeda H, Wang W, Inoue M, Manse Y, Ninomiya K, Morikawa T.

Ameliorative effect of bofutsushosan (Fangfengtongshengsan) extract on the progression of aging-induced obesity

J. Nat. Med., 78, 576-589 (2024).

https://www.jsphcg.or.jp/award/ronbunsho_recipient/

1-2. 「世界で最も影響力のある研究者トップ 2%」に本学研究者がランクイン

スタンフォード大学とエルゼビア社が 2025 年 9 月 19 日に更新・発表した世界のトップ 2% の科学者を特定する包括的なリスト「標準化された引用指標に基づく科学者データベース（更新版）」に、本学から「生涯」(career-long) の区分に 2 名、「単年」(single recent year) の区分に 4 名がランクインしました。

このリストは、影響力の大きい科学論文を執筆した世界中の科学者を対象として作成されたものです。文献データベース (Scopus) に基づき、総被引用回数 (自己引用を除く)、h-index、単著論文数、個別引用論文数、共著調整指数、総被引用回数と個別引用論文数の比率などによって研究者の論文への貢献度を重視した標準化された情報を算出し、ランキングがされています。様々な複合指標を基にした多角的な解析がされているため、世界で最も影響力のある科学者のランキングの一つと言われています。

career-long (生涯) の区分

川畑 篤史 (薬学部 医療薬学科/薬学研究科/薬学総合研究所 教授)

森川 敏生 (薬学総合研究所 薬学研究科/アンチエイジングセンター 教授)

※公表データ順

single recent year (単年) の区分

森川 敏生 (薬学総合研究所 薬学研究科/アンチエイジングセンター 教授)

川畑 篤史 (薬学部 医療薬学科/薬学研究科/薬学総合研究所 教授)

長井 紀章 (薬学部 医療薬学科/薬学研究科 教授)

緒方 文彦 (薬学部 医療薬学科/薬学研究科 准教授)

※公表データ順

参考サイト： August 2025 data-update for "Updated science-wide author databases of standardized citation indicators" - Elsevier BV

1-3. 病態薬理学の坪田 真帆 准教授が JAPAN PAIN WEEK にて最優秀発表賞を受賞

病態薬理学の 坪田真帆准教授が JAPAN PAIN WEEK にて最優秀発表賞を受賞しました。

学会名：JAPAN PAIN WEEK - JOINT CONFERENCE of 47th JASP, 18th JAMP, 29th JAPR and 30th JSOP

賞：最優秀発表賞

演題名：Oxaliplatin 誘発性末梢神経障害の発現には血小板および好中球由来 HMGB1 が関与する

受賞者：坪田真帆 准教授

2. 学会等における学生の受賞

2-1. 7名の学生が日本薬学会第145年会（2025年3月26日～29日、福岡）において、学生優秀発表賞を受賞

<口頭発表>

- ・曾我部 倅大さん（公衆衛生学研究室）

金属塩化物共存下で焼成した化石サンゴを用いたリン酸の吸着能

<ポスター発表>

- ・津田 波音さん（医薬品化学研究室）

ブロモクロロメタンを用いたカルボン酸のクロロアルキル化反応の開発

- ・片桐 龍也さん（医薬品化学研究室）

オルト位の置換基効果に着目した新規 PMB 型保護基の開発

- ・岡口 莉子さん（医薬品化学研究室）

硫黄化合物を活性化剤とした不活性な芳香環のハロゲン化反応の開発

- ・水野 友理さん（公衆衛生学研究室）

人工腸液条件下における健康食品と生活習慣病治療薬との相互作用に関する研究

- ・山田 玲実さん（食品薬学研究室）

Gedunin 型リモノイドの HSF-1 経路活性化を介したメラニン産生抑制活性

- ・鈴木 璃子さん（有機薬化学研究室）

毛乳頭細胞増殖作用を有するエビネ成分 Calanthoside 誘導体の合成とその構造活性相関研究

日本薬学会第145年会 公式 HP

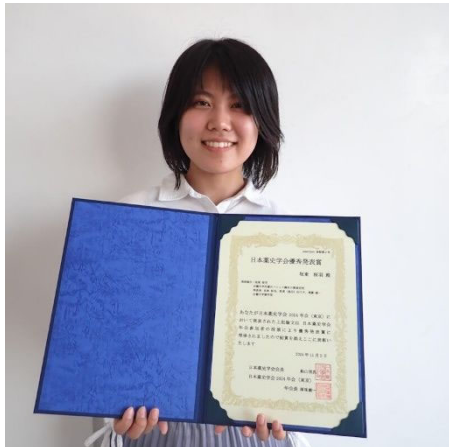
<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/pharm145>

2-2. 日本薬史学会 2024 年会にて薬学部学生が優秀発表賞を受賞

日本薬史学会 2024 年会が 2024 年 11 月 2 日に開催され、薬用資源学研究室の学生が優秀発表賞を受賞しました。

坂東 桜羽 （薬学部創薬科学科 薬用資源学研究室）

演題：近畿大学所蔵のペニツク標本の調査研究



2-3. 第 147 回日本薬理学会近畿部会で優秀発表賞を受賞

第 147 回日本薬理学会近畿部会で優秀発表賞を受賞しました。

学会名：第 147 回日本薬理学会近畿部会 (<https://rm.pharmacol.or.jp/147kinki/>)

受賞学生：酒井貴之

演題名：アトピー性皮膚炎病態の IgE 抗体産生におけるケモカイン CCL28 の役割の解明

受賞学生：急式杏樹

演題名：ケモカイン CCL28 が気管支喘息において気道上皮細胞に与える影響の解析

2-4. 第 42 回和漢医薬学会学術大会（2025 年 8 月 23-24 日）にて優秀発表賞【口頭発表】を受賞

第 42 回和漢医薬学会学術大会（2025 年 8 月 23-24 日）にて、薬学総合研究所 食品薬学研究室の学生が優秀発表賞【口頭発表】を受賞しました。

O4-2★

高田 隆矢（薬学研究科薬学専攻博士課程 1 年 薬学総合研究所 食品薬学研究室）

「"地膚子" 含有 momordin Ic の脂質吸収抑制作用」

<https://med-gakkai.jp/wakan42/>

<https://www.wakan-iyaku.gr.jp/news/2025/09/19/11417/>

2-5. 日本生薬学会第 71 回年会（2025 年 9 月 14-15 日，熊本，崇城大学薬学部）にて薬学総合研究所 食品薬学研究室の所属学生が優秀発表賞【口頭発表】を受賞

日本生薬学会第 71 回年会（2025 年 9 月 14-15 日、熊本、崇城大学薬学部）にて薬学総合研究所 食品薬学研究室の所属学生が優秀発表賞【口頭発表】を受賞しました。

O04-1 西川 勝悟（薬学研究科薬科学専攻博士前期課程 2 年 薬学総合研究所 食品薬学研究室）

「クジン（*Sophora flavescens* Aiton, 根）の新規プレニルフラボノイドおよび抗炎症作用成分」

<https://smartconf.jp/content/jsp71/award>

2-6. 第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（2025 年 10 月 4 日，同志社女子大学 京田辺キャンパス）にて本学の学生 6 名が優秀賞を受賞

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（2025 年 10 月 4 日，同志社女子大学 京田辺キャンパス）にて本学の学生 6 名が優秀賞を受賞しました。

【優秀口頭発表賞】

前田 湧斗（薬学部創薬科学科 4 年 薬物動態学研究室）

演題名：「レオウイルスによる免疫細胞の腫瘍内浸潤活性化機構に関する検討」

曾我部 倖大（薬学研究科薬科学専攻 1 年 公衆衛生学研究室）

演題名：「リン酸イオン吸着剤としての化石サンゴの処理に適した無機塩の探索」

【優秀ポスター発表賞】

西川 陽斗（薬学部創薬科学科 4 年 有機薬化学研究室）

演題名：「天然薬物 Mamea siamensis 由来ゲラニル多置換クマリン Kayeassamin A の全合成研究」

浦 明里（薬学部医療薬学科 5 年 薬学総合研究所 食品薬学研究室）

演題名：「Dorema ammoniacum に含有されるセスキテルペンクマリンの構造解析」

石倉 優斗（薬学部創薬科学科 4 年 病態薬理学研究室）

演題名：「線維筋痛症モデルマウスにおける結腸過敏：核内タンパク HMGB1 の関与について」

田中 理愛（薬学部創薬科学科 4 年 製剤学研究室）

演題名：「カルボポールを基剤としたイソコナゾール経皮適用ゲルの開発と皮膚浸透性挙動の評価」

<https://shibu-pharm-kansai.hcom.co.jp/award.php>

2-7. 創薬科学科の学生が第 48 回日本分子生物学会年会の【MBSJ-EMBO Poster Award 2025】を受賞

創薬科学科の学生が、第 48 回日本分子生物学会年会の【MBSJ-EMBO Poster Award 2025】を受賞しました。

受賞者：創薬科学科 4 年生（薬学総合研究所 先端バイオ医薬研究室）緒方来実

演題番号：1P-972

演題：FoxO3a はミトコンドリアダイナミクスを制御することで皮膚の恒常性維持に寄与する

受賞に係る web ページ：https://www.aeplan.jp/mbsj2025/mbsj_embo.html

2-8. 病態薬理学研究室所属の学生が第 99 回日本薬理学会年会において優秀発表賞を受賞

学会名：第 99 回日本薬理学会年会

賞：年会優秀発表賞

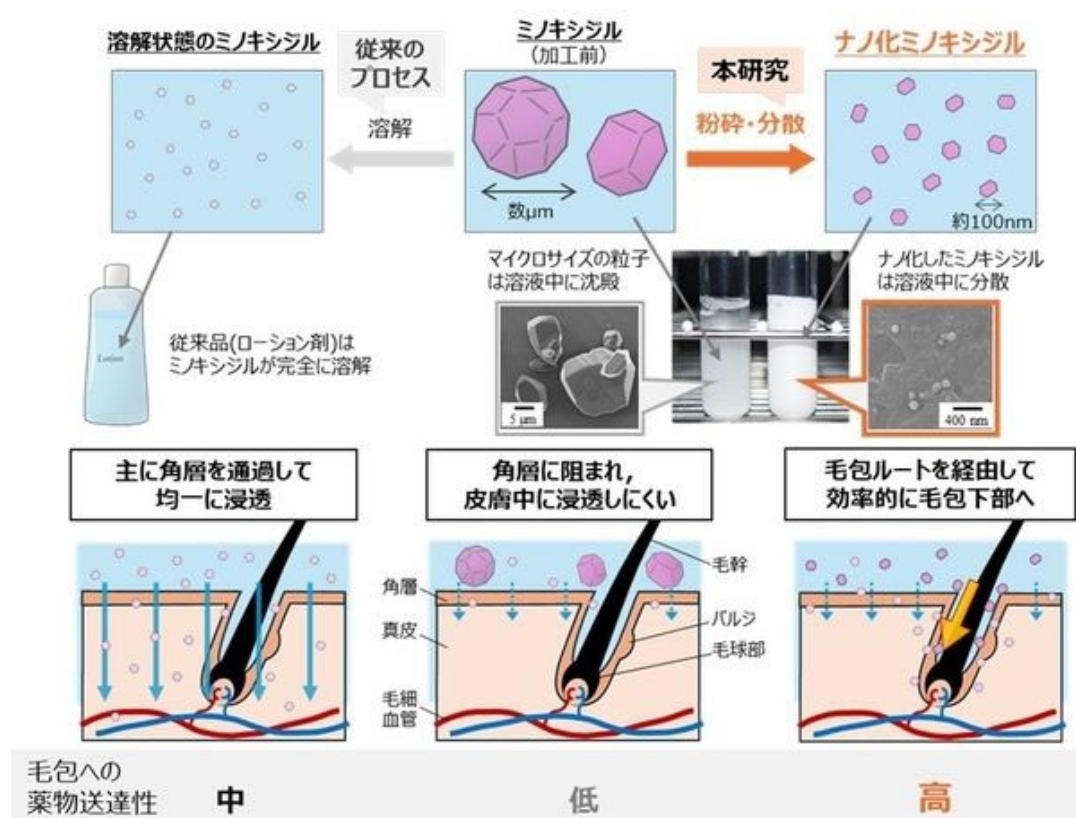
演題名：酸性生食片脚筋注による線維筋痛症モデルマウスにおける両足アロディニアへの骨髓系細胞・血小板複合体の関与

受賞者：病態薬理学研究室 M1 三井鈴華

3. 研究成果

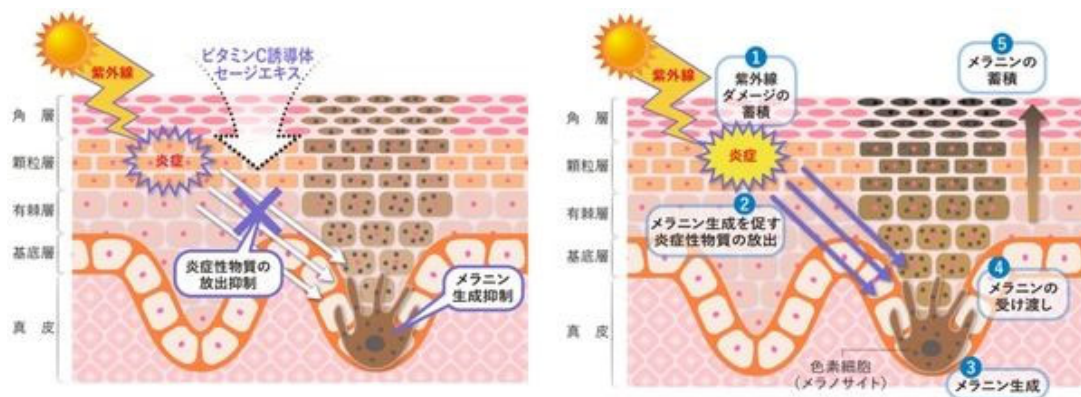
3-1. ナノ化ミノキシジルによる早い発毛効果とそのメカニズムを解明 (2025.6.2-News Release)

大正製薬株式会社と、薬学部医療薬学科製剤学研究室 教授 長井紀章は、共同研究を実施し、発毛成分であるミノキシジルをナノ粒子化する技術を開発しました。マウスを用いた実験により、ナノ粒子化されたミノキシジルが毛包へと効率的に送達され、発毛に関わる細胞が活性化し、発毛効果を早める可能性が示唆されました。なお、本研究の一部は Biological and Pharmaceutical Bulletin に掲載されました。



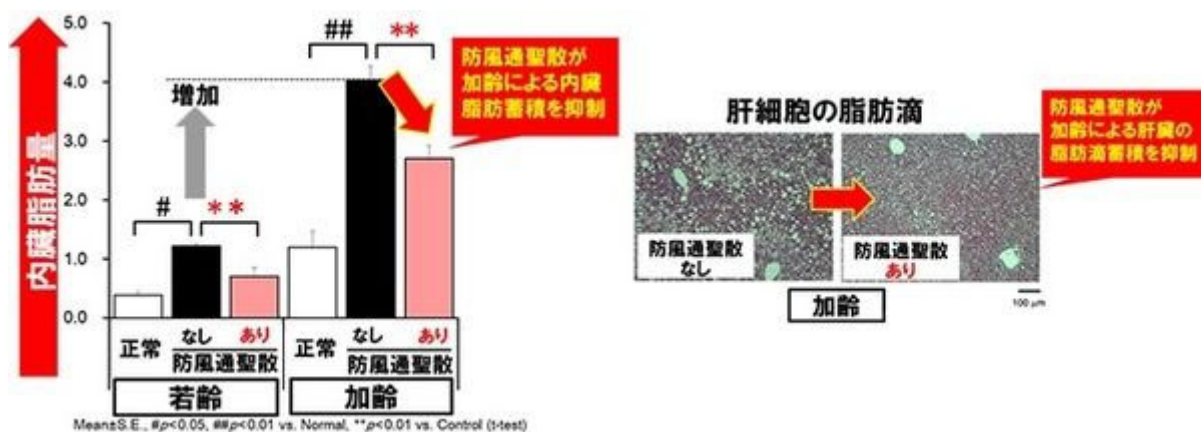
3-2. <国際学術誌「PLOS One」に掲載> ビタミン C 誘導体・セージエキスに関する新発見 ～ シミの一因"慢性炎症"を防ぐ世界初のシミ対策 (2025.6.11-News Release)

小林製薬株式会社は、薬学総合研究所 森山博由准教授との共同研究にて、ビタミン C 誘導体 (L-アスコルビン酸 2-グルコシド) およびセージエキスが、紫外線や加齢に伴う慢性炎症で生成される炎症性物質 (GM-CSF) の発現を抑制することにより、シミの原因となるメラニンの生成を防ぐ作用を発見しました。本研究成果は国際学術誌「PLOS One」に 6 月 10 日付で掲載されました。



3-3. 漢方薬「防風通聖散」が加齢による内臓脂肪蓄積を抑える効果を発見 令和7年度生薬学会論文賞を受賞 過剰な内臓脂肪や肝臓の異所性脂肪へのアプローチ (2025.11.7-News Release)

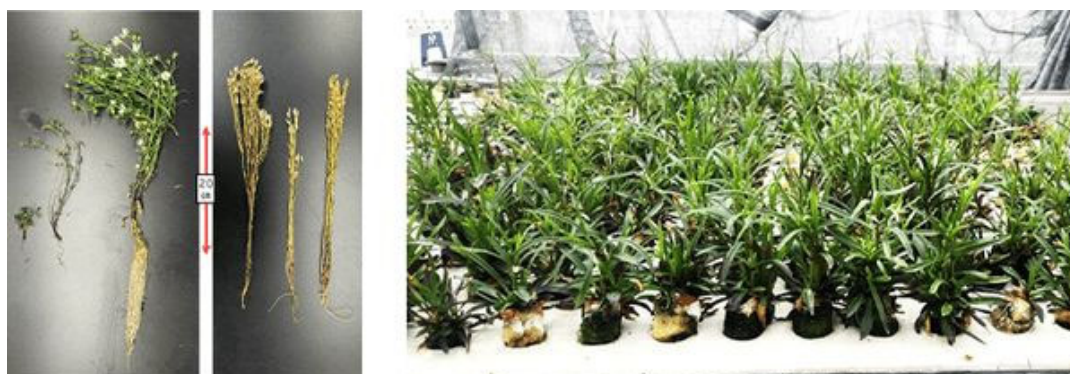
小林製薬株式会社は、薬学総合研究所 教授 森川敏生の協力の下、肥満症などに用いられる漢方薬「防風通聖散（ぼうふうつうしょうさん）」が、加齢により蓄積する過剰な内臓脂肪や肝臓の異所性脂肪を抑えることを発見しました。本研究成果は、天然由来の医薬品に関する国際的な学術雑誌「Journal of Natural Medicines」において発表し、令和7年度生薬学会論文賞を受賞しました。この賞は令和6年度に Journal of Natural Medicines 誌に掲載された論文の中でも学術上特に優れた内容を有すると認められた論文に贈られるものです。



3-4. 第42回和漢医薬学会学術大会での共同研究発表が優秀発表賞に選出 「水耕栽培によるセンブリの効率的な生産方法の検討」 (2025.11.20-News Release)

三進金属工業株式会社は、薬学総合研究所の森川敏生教授らとの共同研究において、日本三大民間薬のひとつであるセンブリの水耕栽培による効率的な生産方法を検討し、土耕栽培と遜色

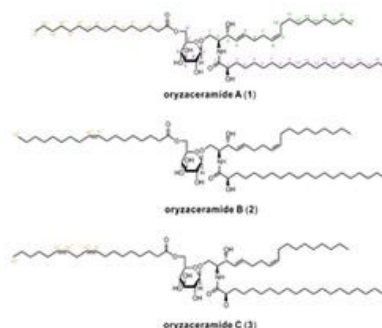
なく栽培でき、かつ、栽培期間を短縮できる生産方法を確立しました。本研究成果について、2025 年 8 月 23-24 日に広島大学霞キャンパスにて開催された第 42 回和漢医薬学会学術大会にて発表（発表者：三進金属工業株式会社サイエンス事業部戦略的基盤研究センター 係長 佐々木将太郎）し、優秀発表賞に選出されました。



3-5. 米糠の副産物から 3 種の新規化合物を発見し、その化学構造を解明 このうち 1 種が皮膚のバリア機能を高めることを明らかに(2025.12.15-News Release)

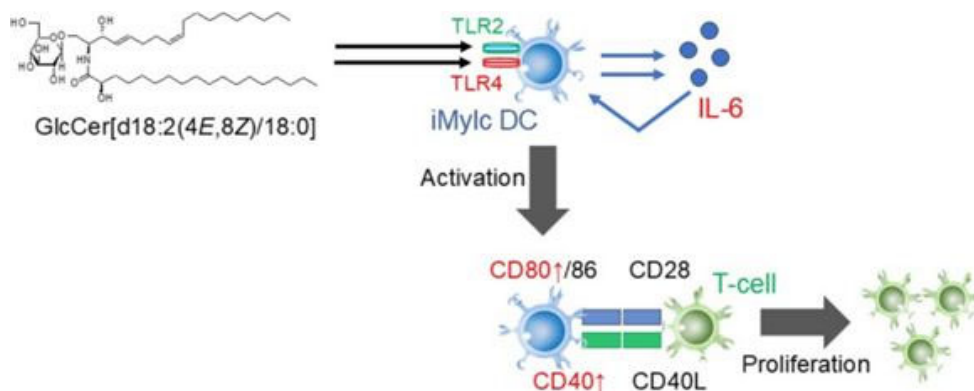
薬学総合研究所 教授 森川敏生と、オリザ油化株式会社 研究開発本部長 下田博司らの研究グループは、米糠から油を抽出する際に生じる副産物から、脂質である「アシル化グルコシルセラミド」の新規化合物 3 種を世界で初めて発見し、その化学構造を明らかにしました。さらに、そのうちの 1 種が角層のバリア機能を高めることを、ヒトの表皮を再現した組織モデルを用いて明らかにしました。本研究成果によって米糠の副産物から得られる新しい脂質の機能性が明らかになり、今後その機能性をさらに解明することで、化粧品や機能性食品への応用が期待されます。

本件に関する論文が、令和 7 年（2025 年）11 月 26 日（水）に、天然物に関する専門紙 "Phytochemistry Letters（ファイトケミストリー レターズ）" にオンライン掲載されました。



3-6. オリザセラミド®の免疫賦活メカニズムを樹状細胞で解明 -オリザ油化と近畿大学の産学連携研究を論文発表- (2026.2.4-News Release)

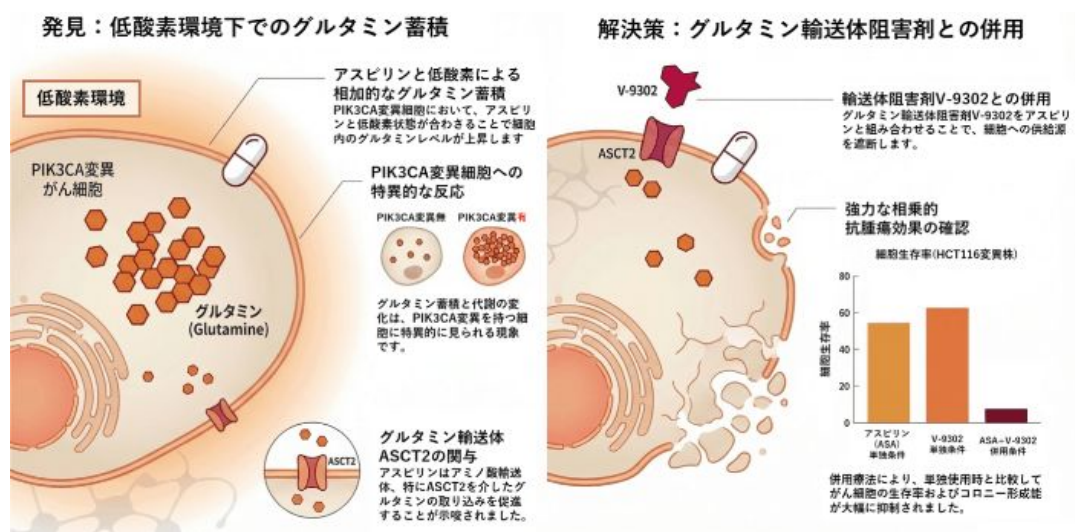
オリザ油化株式会社は、米由来セラミド素材であるオリザセラミド®の研究において、免疫応答の中で最も重要な役割を担う樹状細胞に対するグルコシルセラミドの機能性とそのメカニズムを、薬学総合研究所との産学連携によって明らかにしました。そしてこの度、本研究内容に関する科学論文が日本生薬学会提携誌である Journal of Natural Medicines に掲載されました。



3-7. 解熱鎮痛薬アスピリンと低酸素環境が「PIK3CA 変異型大腸がん」の細胞内グルタミン蓄積を促進 ～細胞内に蓄積したグルタミンを標的とした新たな治療戦略へ～ (2026.3.25-News Release)

学校法人関西医科大学附属病院臨床腫瘍科 診療講師 朴将源と本学薬学部医療薬学科准教授 山本哲志、京都府公立大学法人京都府立医科大学大学院医学研究科分子標的予防医学講師 渡邊元樹らの研究チームは、実際のがん組織に近い「低酸素環境」において、解熱鎮痛薬のアスピリンが、特定の遺伝子変異（PIK3CA 変異）を持つ大腸がん細胞内へのグルタミン（アミノ酸）の蓄積を特異的に促進することを明らかにしました。グルタミンの蓄積は、がん代謝阻害剤による重要な治療標的となります。この結果により、既存薬であるアスピリンの抗腫瘍効果を最大化させる新たな併用治療戦略の糸口となることが期待されます。

なお、本研究をまとめた論文が『Scientific Reports』（インパクトファクター：3.9）に 2026 年 3 月 24 日（火）19 時付で掲載されました。



3-8. 薬学部生化学研究室研究者が参画した研究成果が Science 誌に掲載(2026.3.25)

ヒト細胞における遺伝暗号の使い分けを認識する分子機構を解明した研究成果が、国際的に極めて高い影響力を持つ総合科学誌 Science (2-year Impact Factor : 45.8, 5-year Impact Factor : 49.7) に 2026 年 3 月 19 日オンライン掲載されました。

本研究は、京都大学大学院医学研究科、理化学研究所を中心とする国際共同研究として実施されたものであり、RNA 結合タンパク質 DHX29 が非最適コドンを感じ取るセンサーとして機能し、翻訳抑制複合体 GIGYF2-4EHP を介して mRNA 発現を制御する分子機構を明らかにしたものです。

本成果は、コドン使用に基づく遺伝子発現制御の理解を大きく前進させるとともに、生命現象の基盤理解や RNA 創薬研究への展開が期待されます。

本研究には、薬学部 生化学研究室 教授 藤原俊伸 および 講師 深尾亜喜良 が共同研究者として参画し、翻訳制御機構の解明に重要な貢献を果たしました。

本学薬学部では、翻訳制御や RNA 生物学を基盤とした先端的生命科学研究を推進しており、本成果はその研究活動の国際的評価の高さを示すものです。

今後も基礎生命科学の深化と医療応用への展開を目指し、国際共同研究を通じた研究推進を図ってまいります。

論文情報

Human DHX29 detects non-optimal codon usage to regulate mRNA stability

Science (2026)

DOI: 10.1126/science.adw0288

4. 産学連携、イベントなど

4-1. 近畿大学薬学部×UHA 味覚糖「KISS LABO sports」始動！ 完全食ブランド「COMP」でアメフト部員の栄養サポートを開始（2025.6.24-News Release）

薬学部と UHA 味覚糖株式会社は、アスリートのパフォーマンス向上と健康支援を目的とした取り組み「KISS LABO sports」を始動させます。

第1弾として、令和7年（2025年）6月24日（火）から、薬学部教授 多賀淳の監修のもと、UHA 味覚糖グループの完全食ブランド「COMP」を活用し、近畿大学体育会アメリカンフットボール部「KINDAI BIG BLUE」への栄養サポートを実施しました。日常の食生活から競技力を支える新たな産学連携プロジェクトです。



4-2. 【日本初】花粉による「目」と「鼻」の不快感にアプローチ！ 近畿大学との共同開発で生まれた機能性表示食品『プレミアム3月からのサプリ』新発売（2025.9.1-News Release）

株式会社ナチュレ・ホールディングス（ナチュレサプリメント運営）は、近畿大学との共同開発により、ハウスダスト・ホコリ・花粉による「目」と「鼻」の不快感を軽減する機能性表示食品『プレミアム3月からのサプリ』を、2025年9月1日（月）から、全国百貨店直営店舗と公式ECサイトにて新発売しました。



4-3. 近畿大学附属小学校 3 年生を対象に「お薬教室」を開催 実際に見て触れて考えて、大学 教員が薬の疑問を解決 (2025.11.26-News Release)

近畿大学附属小学校は、2025 年 12 月 4 日（木）、大学との連携授業の一環として近畿大学薬学部医療薬学科准教授 船上仁範を講師に迎え、小学 3 年生 118 人を対象に「お薬教室」を開催しました。



4-4. パキッ、チュッ！常識を覆す「カード型」ノンカフェイン濃縮エネルギー補給 片手 0.5 秒、 集中を途切れさせない UHA 味覚糖「ENERGY ARTS」 ストリートファイター6 コラボ Makuake で 1 月 23 日 (2026.1.20-News Release)

UHA 味覚糖株式会社と近畿大学は、応援購入サービス「Makuake（マクアケ）」にて、共同開発した全く新しい補給体験を提供するエネルギー商品『ENERGY ARTS（エナジーアーツ）』を、2026 年 1 月 23 日（金）より先行販売しました。

本商品は、エナジードリンクでありながら「飲む」という常識を覆す、カード型の"スマート補給"ツールとして開発されました。さらに、人気格闘ゲーム『ストリートファイター6』の全 24 種類のデザインを施した限定パッケージ仕様で、コレクション性にも富んだ特別企画です。



「スポーツの現場には、集中を“保ち続ける”ことが求められる瞬間が何度も訪れます。私たちは、そうした選手たちの想いに寄り添い、カード型エナジードリンク「ENERGY ARTS（エナジーアーツ）」を開発しました。

4-5. 近畿大学×加美乃素本舗 共同開発スキンケアブランド刷新 近大マグロ由来コラーゲン配合「ルイキャラット DEEP」4品を発売酸素ウォーター「Reduce（リデュース）」試飲会の開催（2026.1.28-News Release）

薬学部と株式会社加美乃素本舗は、産学連携により共同開発した「ルイキャラット美容液」を近大マグロ由来の「フルレングスコラーゲン」を全品に配合した新ブランド「ルイキャラット DEEP」としてリブランドしました。泡洗顔料、導入乳液、化粧水、美容液の4品目を、2026年1月28日（水）に加美乃素本舗 公式オンラインショップにおいて発売します。



4-6. 近畿大学附属小学校が5年生を対象に「お薬教室」を実施 薬物乱用防止を目的に、薬物が体や脳に与える影響を知る（2026.2.5-News Release）

近畿大学附属小学校は、2026年2月12日（木）に、大学との連携授業の一環として、薬学部医療薬学科准教授 船上仁範を講師に迎え、薬物乱用防止について学ぶ「お薬教室」を実施しました。

本校では、薬の役割や飲み方を学ぶ低学年向けのお薬教室も実施していますが、今回は社会問題となっている薬物乱用の低年齢化を防止する目的で5年生99人を対象に実施しました。



4-7. 近畿大学と Sea&me が共同開発のスキンケアシリーズを刷新 リニューアルした 4 商品を新宿高島屋でお披露目 (2026.2.18-News Release)

薬学部医療薬学科教授 多賀淳らが技術協力し、大阪の台所・黒門市場発のコスメブランド Sea&me 株式会社が発売しているスッポンコラーゲン化粧品「スペリオルワンシリーズ」がリニューアルされました。2026 年 3 月 1 日（日）に、保湿洗顔石鹸、保湿クリーム、導入美容液、保湿化粧水の 4 商品を発売しました。

また、発売に先駆け、2 月 18 日（水）から 24 日（火）まで、ベルナチュレール新宿高島屋店でお披露目イベントを実施しました。



4-8. 近畿大学 マツキヨココカラ &カンパニー奨学金授与式が挙行

近畿大学薬学部マツキヨココカラ &カンパニー奨学金授与式が行われ、薬学部の学生 4 名が採用されました。

株式会社マツキヨココカラ &カンパニー様にご協力頂き、令和 7 年度は近畿大学薬学部生に対する経済的支援を目的とした奨学金を給付することとなりました。



5. メディア

5-1. 2026.2.12 放送 NHK 奈良「ならナビ」近畿大学附属小学校の取り組みを紹介

小学5年生を対象にした「お薬教室」について放映されました。

6. 就職・進路状況

【医療薬学科】

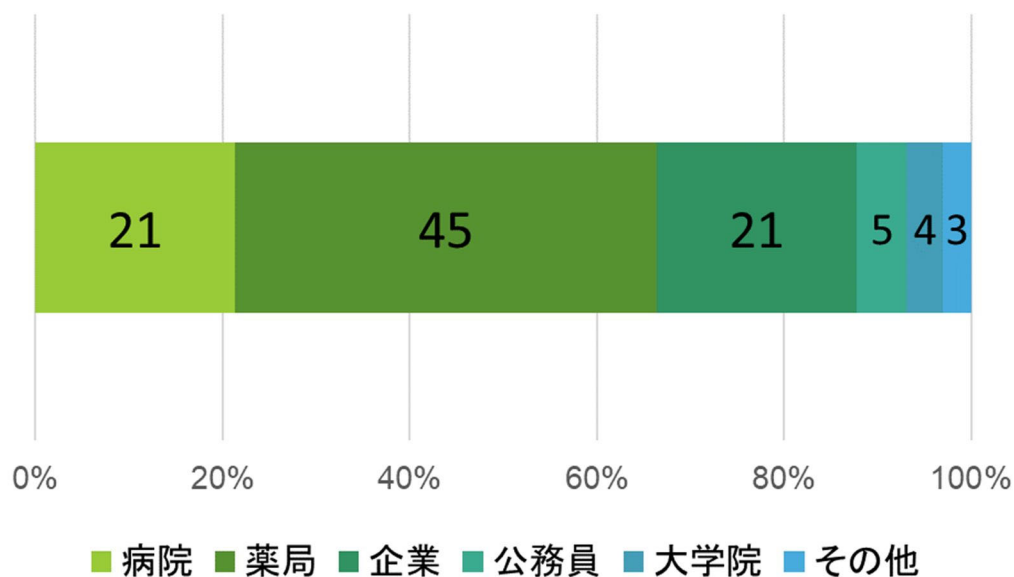
病院 (28 名): 近畿大学病院、大阪医科薬科大学病院、大阪けいさつ病院、大阪市民病院機構、大阪府立病院機構、関西医科大学附属病院、倉敷中央病院、高知大学医学部附属病院、国立がん研究センター中央病院、住友病院、生長会泉大津急性期メディカルセンター、生長会ベルランド病院、多根総合病院、徳洲会生駒市立病院、兵庫医科大学附属病院、平成記念病院、松下記念病院、八尾徳洲会病院、和歌山県立医科大学附属病院

薬局 (59 名): RISE しろくま薬局、アイングループ、アルカ、ウエルシア、エバグリーン薬局、クオール、クスリのアオキ、クラフト、ココカラファイン、コスモス薬品、サエラ薬局、サンドラッグ、スギ薬局、たんぽぽ薬局、プラザ薬局、フロンティア、マツモトキヨシ、メディカルー光、関西メディコ、総合メディカル、中部薬品、日本調剤、日本メディカルシステム、富士薬品

企業 (28 名): IQVIA ジャパングループ、JCR ファーマ、MSD、PALTAC、アース製薬、イーピーエス、シミック、シミックヘルスケア・インスティテュート、ノバルティスファーマ、ホーユー、メドベイス・ジャパン、花王、大塚製薬、大塚製薬工場、杏林製薬、健栄製薬、小林製薬、新日本科学 PPD、新日本科学 SNBL、生化工業、田辺三菱製薬、中外製薬、日本イーライリリー、森下仁丹、湯山製作所

公務員 (7 名): PMDA (厚生労働省)、京都府、高知県、神戸市、堺市、長野県、陸上自衛隊

大学院 (5 名): 近畿大学

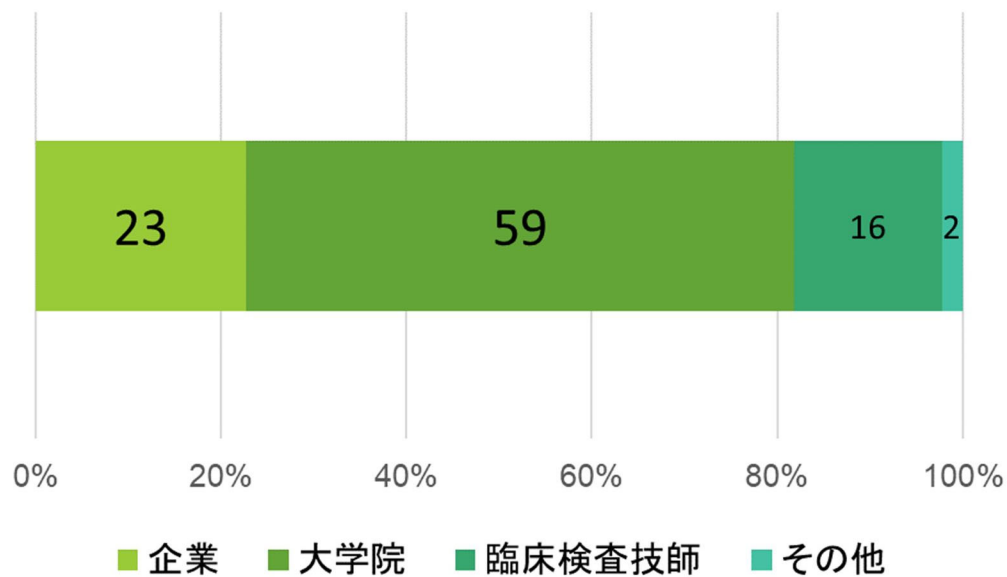


【創薬科学科】

企業（10 名）：EP Link、アルプス薬品工業、イーピーエス、エスアールディ、オリンパス、極東製薬工業、沢井製薬、三菱製紙、山崎製パン

大学院（26 名）：近畿大学、大阪公立大学、大阪大学、九州大学、東北大学、奈良先端科学技術大学院大学、広島大学

臨床検査技師（7 名）：大阪大学医学部附属病院、近畿予防医学研究所、住友病院、摂津医誠会病院、日本赤十字社近畿ブロック血液センター、ペガサス馬場記念病院、洛和会音羽病院



7. その他

7-1. 国際交流

1) カザフスタン共和国 農業科学アカデミー/植物防疫・検疫科学研究所からの訪日団が来訪、薬学総合研究所 森川敏生 教授との今後の共同研究に関する意見交換（2025.11.14-薬学部 TOPICS）

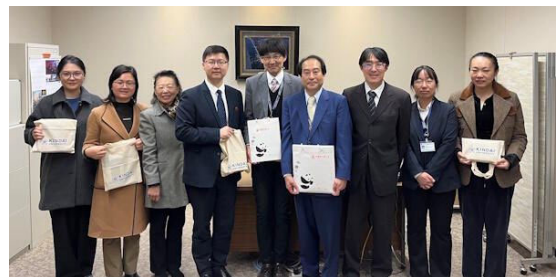
2025 年 11 月 13 日(木)、カザフスタン共和国 農業科学アカデミー（National Academy of Agrarian Sciences of the Republic of Kazakhstan, NAASRK）の Vice-President (Yerlan A. Baidautet 氏)および植物防疫・検疫科学研究所(Kazakh Research Institute of Plant Protection and Quarantine, KazRIPPQ)の CEO (Duissembekov Bakhytzhan 氏)らを代表とする訪日団が本学を来訪され、薬学総合研究所食品薬学研究室 森川敏生 教授と今後の共同研究に関する意見交換を実施しました。森川教授はかねてより、三進金属工業株式会社との共同研究として

「植物工場を活用する薬草類の栽培研究」をすすめています。今回のカザフスタン訪日団の来訪は、その一環として、カザフスタンでの植物工場プラントを用いた栽培生産の実証研究にむけた意見交換を実施したものです。



2) 成都中医薬大学からの訪日団が薬学部・薬学総合研究所を訪問 今後の学術交流に関する意見交換を実施（2025.11.18-薬学部 TOPICS）

2025 年 11 月 17 日(月)、成都中医薬大学（Chengdu University of Traditional Chinese Medicine）薬学院副院長の章津銘 教授らをはじめとする訪日団が本学薬学部・薬学総合研究所を訪問され、今後の学術交流に関する意見交換を実施しました。



3) タイ・パヤオ大学の視察団が近畿大学を訪問し、学術的な連携の推進に向けた協議および大学案内を実施（2025.9.18）。

2025 年 4 月に本学との国際交流協定を締結した University of Phayao（タイ）より、学長 Dr. Supakorn Pongbangpho および薬学部長 Dr. Surasak Saokaew を含む視察団が本学を訪れ、近畿大学薬学部との学術交流の推進を目指した協議を行いました。薬学部からは、川崎直人 薬学部長、長井紀章 教授、緒方文彦 准教授、植松勇伍 助教が参加しました。



University of Phayao より記念品の贈呈
(左から 2 番目が Dr. Supakorn Pongbangpho、
右端が Dr. Surasak Saokaew)



全員での集合写真

その後、公衆衛生学研究室（主宰：川崎直人 教授）のスタッフが近畿大学薬学部の各施設（39 号館講義室、実習室、臨床薬学研修センター）ならびにアカデミックシアターや英語村（E³[e-cube]）などの学内施設を案内し、交流を深めました。



西門前で記念撮影

7-2. セミナー・シンポジウム等開催

1) 第42回和漢医薬学会学術大会を開催（広島、広島大学霞キャンパス、2025.8.23～24 開催）

2025年8月23日（土）と24日（日）の2日間にわたり、第42回和漢医薬学会学術大会を広島大学霞キャンパス 凌雲棟にて開催しました（大会長：広島国際大学薬学部 生薬漢方診療学部門／国立病院機構呉医療センター 漢方診療科 中島正光 教授、実行委員長：薬学総合研究所 森川敏生 教授）。本学会は、和漢薬の資源、品質管理、作用機序、臨床研究などについて科学的視点から最新の知見を討議し、基礎と臨床の橋渡しをすることを目的に、医学系および薬学系の和漢生薬学ならびにその周辺領域の産官学研究者が一堂に集し、多岐にわたる研究領域の成果を発表する場であります。加えて本学術大会は、日本薬剤師研修センターの研修単位や日病薬病院薬学認定薬剤師制度、そして、日本東洋医学会 専門医・認定更新点数が取得できることから、医師・薬剤師が自らの資質を向上させるために新しい知識と技能を習得する自己研鑽の場としても活用されています。大会テーマを『漢方 Next Stage ～基礎と臨床の融合～』とし、500名を超える参加者が一同に会し、会長講演、受賞講演、海外からの招待講演を含む3席の特別講演およびシンポジウム5席、臨床研究ワークショップ、医師・薬剤師のための実践漢方教育講座に加えて100題の一般演題があり、各会場では活発な討論が行われました。また、「漢方で体を変える！コロナの後遺症や体質へのアプローチ」と題した市民公開講座も開催しました。大会初日の夕刻にはホテルグランヴィア広島にて懇親会を開催し、約120名が参加するなど盛會裡に終えることができました。



産経新聞中四国版 2025.7.26

2) 第7回近畿大学大学院臨床薬学シンポジウム開催（2026.2.28）

第7回近畿大学大学院臨床薬学シンポジウムが、2026年2月28日（土）に近畿大学東大阪キャンパス39号館にて開催されました。教育講演として名城大学薬学部 教授の天津 史子先生にご登壇を頂き、一般演題として連携大学院生のほか連携施設薬剤師による臨床研究関連テーマでの計9演題の発表がありました。参加者は100名でした。活発な質疑応答や意見交換が行われ、本シンポジウムの目的である、連携大学院制度における連携施設との交流が十分に図られました。



3) 第 69 回香料・テルペンおよび精油科学に関する討論会 =TEAC 創立 70 周年記念大会= を開催（徳島、徳島文理大学徳島キャンパス、2025.11.1～4 開催）

2025 年 11 月 1 日（土）から 4 日（火）の 4 日間にわたり、第 69 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（TEAC）を徳島文理大学徳島キャンパスにて開催しました（代表世話人：徳島文理大学薬学部／生薬研究所 山本博文 教授，本部事務局（幹事）：薬学総合研究所 森川敏生 教授ら）。本討論会は日本化学会の分科会として設立されたもので、2025 年で創立 70 周年を迎えました。香料化学、テルペン類の化学反応と合成、精油成分とその化学構造および香料・テルペンに関わる生物・生体関連化学に関する理工農薬学ならびにその周辺領域の産官学研究者が一堂に介して開催されます。今回は国内外の約 300 名の研究者が参集し、基調講演、3 題の特別講演、3 題の依頼講演に加え 100 題の一般口頭発表があり、各会場では活発な討論が行なわれました。懇親会は 11 月 3 日の夕刻に徳島グランヴィリオホテルにて約 130 名が参加し、また、4 日はエキスカージョンを実施、海外参加者を含めた 20 名超の参加者による交流がはかれるなど、盛会裡に終えることができました。今回は TEAC 創立 70 周年にあたる記念大会として、タイ国立チュラボン研究所（Chulabhorn Research Institute, Thai）所長のチュラボン王女殿下（Professor Dr. Her Royal Highness Princess Chulabhorn Krom Phra Srisavangavadhana）の TEAC 学術賞の受章式典を予定しておりましたが、当日のご臨席が中止となり、後日（12 月 17 日）に代表幹事である徳島文理大学浅川義範 教授を代表とした本部事務局幹事による TEAC 代表団がタイ王国大使館（東京）を訪問し式典を挙行了しました。

◆TEAC 創立70周年記念大会
第69回 香料・テルペン および
精油化学に関する討論会（徳島）

The 69th TEAC in TOKUSHIMA
開催日時:2025年11月1日(土)～4日(火)
会場:徳島文理大学 徳島キャンパス(山城市)

【討論主題】
 A 精油化学・成分・化学構造・香気物質分析
 B テルペン・モノテルペン・ジテルペン・トリテルペン
 C 香料・テルペンに関わる生物・生体関連化学・生体熱感・生体活性・生合成・その他
 D 香料・モノテルペン・ジテルペン・トリテルペン・生体熱感・生体活性・生合成・その他

◆特別講演
 1 テルペン合成経路を用いた、
 糖鎖分子ハイブリッド合成への挑戦
 品田 雅樹 (大阪公立大学)
 2 テルペン由来の糖鎖成分に糖や
 アルカンが結合した化合物の構造と
 生物活性に関する研究
 藤田 智之 (徳島大学)
 3 天然物化学が 食と人を 豊かに 健康に
 山本 博文 (徳島文理大学)

◆依頼講演
 1 糖化と糖化を利用したクロマリン糖の
 選択的合成
 星野 雄二 (横浜国立大学)
 2 香料・食用植物資源に含まれる
 テルペン・芳香族化合物の光トリマー化
 森川 敏生 (近畿大学)
 3 人にやさしく、環境にやさしい香料原料
 の研究開発
 江村 誠 (高砂香料工業株式会社)

◆各費目
 講演申込 7月 4日(金)
 講演費前払 8月 8日(金)
 講演参加申込 8月 8日(金)

◆参加費
 聴衆 1日 3,000円 (8日 3,000円)
 聴衆 2日 3,000円 (8日 3,000円)
 聴衆 3日 3,000円 (8日 3,000円)
 聴衆 4日 3,000円 (8日 3,000円)

◆懇親会
 懇親会 11月 3日(日) 6時～
 懇親会 11月 3日(日) 6時～
 懇親会 11月 3日(日) 6時～

〒770-8514 徳島県徳島市山城市高砂町1-180 徳島文理大学薬学部・生薬研究所内
 薬学総合研究所 薬学総合研究所 薬学総合研究所 薬学総合研究所
 電話 087-831-1111 FAX 087-831-1112 E-mail: teac@tokushima-u.ac.jp URL: https://teac.tokushima-u.ac.jp/2025/index.html
 幹事人代表 山本博文 (徳島文理大学薬学部・生薬研究所)
 主催 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会
 協賛 日本化学会、日本薬学会、日本農薬学会、徳島文理大学、徳島県農林畜産
 協賛 日本化学会、有機合成化学協会、アジア植物化学協会 後援 日本農薬学会、徳島県農林畜産

4) 夏休み小学生イベント「葛根湯を作ってみよう！」を実施（2025.8.6 開催）

2025 年 8 月 6 日、近畿大学東大阪キャンパス アカデミックシアター6 号館 THE GARAGE において、地域の小学生とその家族を対象とした夏休みイベントを開催しました。近畿大学アカデミックシアターの「生薬の図書館プロジェクト」（代表：薬用資源学研究室 高浦佳代子講師）と近畿大学薬用植物園（園長：薬用資源学研究室 遠藤雄一教授）が連携し、クラシエ株式会社の協力のもと実施されたこのイベントには 23 名の親子が参加しました。参加者たちは実際の生薬に触れたり葛根湯を作成したりする経験を通じて、漢方薬の基礎知識について学びました。この取り組みを通じて、地域の方々に生薬や漢方への正しい理解を深めて頂くとともに、社会や地域への機会としました。



7-3. 高大連携

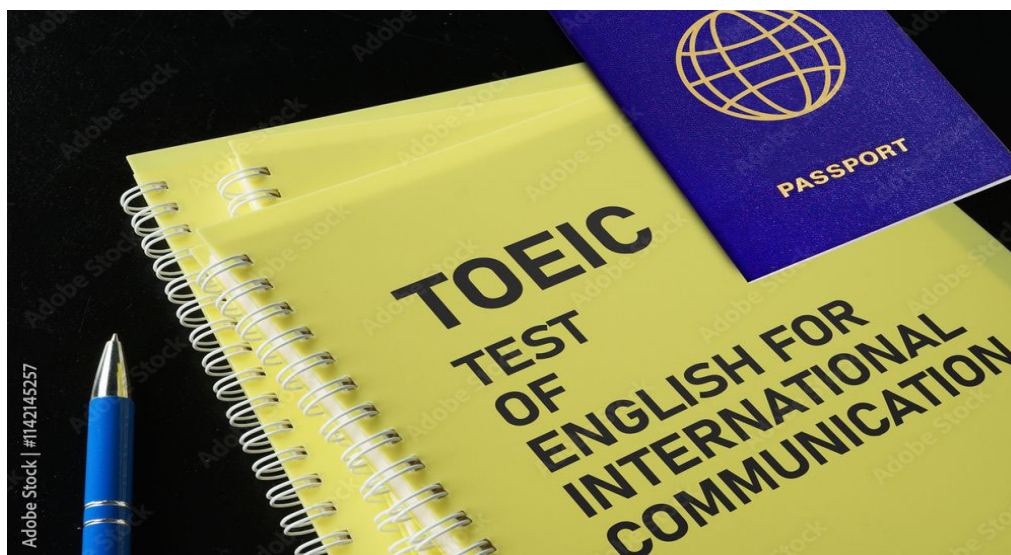
現役高校生の探求学習を薬学総合研究所および共同利用センターでサポート（2026.1.14-薬学部 TOPICS）

薬学総合研究所食品薬学研究室 森川敏生 教授 と共同利用センター 丸本真輔 講師 は、大阪女学院高等学校国際バカロレアコースの現役学生が自ら立案した化学実験「ほうれん草の葉酸含有量は、ほうれん草を植えてからどの段階で生成され、どの段階で最大の含有量になるのか？」を実証するにあたり、アドバイスと技術的なサポートをおこないました。さらに、夏休み期間を利用して自身が育てた ほうれん草 を持参し、同校の理科専任教員（黒澤 巖 教諭）の立ち会いのもとでサンプルの抽出から前処理、そして、LCMS を用いた葉酸分析を行いました。得られた実験結果は、同校の国際バカロレア（IB）における生物の内部評価課題（IA）の一環として報告しました（論文題目：ホウレンソウ（*Spinacia olearacea* L.）の栽培期間が葉酸含有量に与える影響の調査）。本学の共同利用センターは、先端的な機器を数多く備え、学内外の研究者や学生が活用できるオープンな施設です。今回のように高校生が主体的に研究に挑戦する機会を提供することで、理系学部への関心を喚起し、将来の研究者や技術者の育成に繋がることを期待しています。



7-4. 薬学部教養基礎教育部門 薬学部英語教育への取り組み

1) 英語のブラッシュアップをはかる刺激材料を取り入れた授業



Improving TOEIC scores is an important advantage in job-hunting. Starting in 2026, students take the TOEIC test soon after enrollment, at the end of the same year, and again the

following year to assess their proficiency level. In regular classes, we also introduce tips and strategies for improving listening and reading scores.

We also connect online with overseas universities, giving presentations on each other's cultures and deepening mutual exchange. In addition, Kindai University has partnered with Henry Stewart Talks, a UK-based specialist website that provides presentations on the latest research in medicine, pharmacy, and other scientific fields. Students can access the videos, scripts, and PowerPoint materials anytime on smartphones, tablets, or other devices. This site helps them become familiar with World English, improve their listening and presentation skills, and keep up with the latest developments in pharmaceutical and medical technologies.

TOEIC スコアの向上は、就職活動に欠かせないアドバンテージとなります。薬学部では 2026 年度から入学してすぐと、同年末、翌年度にレベル別の TOEIC 対策講座が受講可能です。通常授業のなかでもリスニングやリーディング時にスコアアップにつながるコツなどを取り入れています。ニーズがあれば、海外の大学とオンラインでつなぎ、互いの文化などについてのプレゼンテーションを行い、交流を深めています。また、Henry Stewart Talks というイギリスのサイエンス系研究者の技術、研究を世界に発信する専門

ウェブ・サイトと提携し、様々な医療・薬学分野において世界各地で行われている最新の研究のプレゼンテーションを視聴することができます。ワールド・イングリッシュ（世界各国で話される英語のアクセント）に慣れる、プレゼンテーションの仕方やヒアリングの練習になることは、もちろん、スマートフォンやタブレットなどのデバイスで、いつでもどこでも閲覧が可能です。また定期的に Webinar も開催されており学生は、常に最新の薬学・医療技術や情報を視聴することができます。

2) International Communication Program to Nurture Real-Life English Communication Skills 即戦力として使える英語を身につける実践型のオーラル・イングリッシュプログラム



The Japanese Ministry of Health, Labour and Welfare (MHLB) adopted a strategy to expand the Japanese pharmaceutical industry's share of the global market. Today, many Japanese pharmaceutical corporations have international alliances. In fact, it is common for the research on a drug to be carried out in Japan and have its manufacture offshored to places like India, Malaysia and the Philippines. Communications between these different bases of operation often requires proficiency in written correspondence as well as spoken English. In this context, successful language learning is not just about knowing grammar and vocabulary – it is about knowing how to communicate in real-life day-to-day situations. The Kindai University Oral English program presents students with a variety of tasks and exercises that are designed to give students the ability and the confidence to express their thoughts and ideas in English so that they can effectively communicate with others across borders.



3) プレゼンテーションを中心にしたアクティブラーニング型授業

アクティブラーニング型授業とは教員から学生への一方向な知識の伝達型を中心にした受動的学習とは異なり、学習者が積極的に能動的な学習に関与する授業の一つの形態です。近畿大学薬学部では学部の特色に応じた医療や科学に特化した ESP 教育に力を入れており、医療、薬学、科学をテーマにした教材を用いてアクティブラーニング型授業を行っています。授業の中ではペアワークやグループワークを中心に、協同学習、問題解決学習、話し合い学習、グループ・ディスカッションなどの幅広い授業活動を取り入れながら、3 年生以上の上位学年で必要な専門分野の論文を読解したり、研究成果を英語で発信するための英語の基礎力を育成しています。特に 1 年生の講義ではプレゼンテーション活動を取り入れた体系的なアクティブラーニング型授業を推進しています。

7-5. 薬用植物園

1) 一般開放

冬季間を除く平日の 10：00～16：00 に一般開放し、学生や地域住民など 2,260 名に見学していただきました。

2) 附属中学校課外学習受け入れ

2025 年 4 月 25 日（金）に附属中学校医薬コース 2 年生 40 名の生徒が来園し、講義や園内見学、薬草茶の試飲により薬用植物や漢方について学びました。

3) 学生による新入生歓迎の見学会開催

2025 年 5 月 10 日（土）に薬学部自治会や植物研究会、漢方研究会による新 1 回生向けの見学会が開催されました。

4) 薬用植物園見学会の開催

講演会や講習会、子ども向け企画など 5 回開催しました。

1. お香の話

6 月 21 日（土） 参加者 119 名

2. 朝の植物園散歩

7 月 19 日（土） 参加者 30 名

3. 葛根湯をつくってみよう！

8 月 6 日（水） 参加者 23 名

4. ミントの不思議

9 月 27 日（土） 参加者 106 名

5. 洋ランの育て方

1 月 24 日（土）、2 月 14 日（土） 参加者計 35 名



5) 漢方薬・生薬認定薬剤師への薬用植物園実習開催

（公財）日本薬剤師研修センターからの依頼を受け開催しました。

2025 年 5 月 31 日（土）、2025 年 10 月 18 日（土）計 19 名

6) 市民団体への講習、見学

地域貢献の一環として特定の団体向けに講習および園内見学を行いました。

1. 大阪医療技術学園専門学校

2025 年 5 月 7 日（水） 76 名

2. 日本 OTC 医薬品協会 生薬製品委員会

2025 年 5 月 23 日（金） 10 名

3. NPO 法人大阪府民カレッジ東大阪校

2025 年 5 月 28 日（水） 48 名

研究室・部門・研究所 報告

化学療法学研究室

職・氏名・学位

教 授・中山 隆志・薬学博士 担当科目：放射化学・衛生化学実習(3 分担)、基礎薬科学実習(1 分担)、近大ゼミ(1)、微生物学(2)、免疫学(2)
Takashi Nakayama

所属学会：日本薬学会、日本免疫学会、日本癌学会、日本分子生物学会、日本がん分子標的治療学会

准教授・松尾 一彦・薬学博士 担当科目：放射化学・衛生化学実習(3 分担)、基礎薬科学実習(1 分担)、近大ゼミ(1)、生物学英語(創 3 分担)、化学療法学(3 分担)
Kazuhiko Matsuo

所属学会：日本薬学会、日本免疫学会、日本ワクチン学会、日本 DDS 学会、日本インターフェロン・サイトカイン学会

講 師・原 雄大・博士(薬科学) 担当科目：放射化学・衛生化学実習(3 分担)、薬効薬物動態解析実習(3 分担)、基礎薬科学実習(1 分担)、近大ゼミ(1)、化学療法学(3 分担)、実践科学英語演習(創 4 分担)
Yuta Hara

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本神経化学会、日本免疫学会、日本癌学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 細胞遊走因子ケモカインのがん、感染症、自己免疫疾患、およびアレルギー疾患における病的役割の研究
2. 新規発がん関連遺伝子の同定とその機能解析
3. ケモカインシステムを利用した新規ワクチンシステムの確立
4. 和漢薬ライブラリーを用いたケモカインアゴニスト/アンタゴニストの探索研究
5. 新規ケモカイン受容体の探索

研究業績

[原著論文]

1. Krisnanda A, Sasaki N, Tanaka T, Ito K, Emoto T, Yoshida T, Amin HZ, Horibe S, Ryanto GRT, Emoto N, Yamashita T, Hirata KI, Matsuo K, Nakayama T, Rikitake Y. C-C Chemokine Receptor 4 Deficiency Protects Against Abdominal Aortic Aneurysm Formation.

J. Am. Heart Assoc., **15**(6), e043202, 2026 年 3 月

2. Tanaka T, Sasaki N, Krisnanda A, Amin HZ, Ito K, Horibe S, Matsuo K, Hirata KI, Nakayama T, Rikitake Y. C-C chemokine receptor 4 deficiency exacerbates early atherosclerosis in mice.

Elife, **13**, RP101830, 2025 年 7 月

3. Ueno H, Iyanaga Y, Kunida K, Hara Y, Miura H, Nakai Y, Tanuma M, Hayashida M, Yokoyama R, Ohkubo J, Seiriki K, Hayata-Takano A, Ao T, Yamaguchi S, Kitaoka S, Furuyashiki T, Ago Y, Nakazawa T, Takuma K, Yoshimoto J, Hashimoto H, Kasai A. Recovery of centralities in medial prefrontal and sensory-related cortices associated with social behavior improvements in an autism mouse model.

Sci. Rep., **15**(1), 22895, 2025 年 7 月

[学会・シンポジウム]

1. 川端 優真、原 雄大、坂東 政充、細川 隼矢、奥村 遼平、松尾 一彦、中山 隆志: CCL28 による IgA 抗体産生細胞の遊走を介した慢性肝炎病態の制御
日本薬学会第 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月 26-29 日
2. 田中 栞穂、松尾 一彦、酒井 貴之、橋本 采奈、山下 絢香、原 雄大、中山 隆志: ケモカイン CCL28 の欠損はアトピー性皮膚炎の病態形成を抑制する
日本薬学会第 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月 26-29 日
3. 伊藤 脩汰、松尾 一彦、亀井 萌百、岡本 歩、原 雄大、中山 隆志: 構造安定化 XCL1 の腫瘍局所投与による cDC1 依存的抗腫瘍免疫の活性化
日本薬学会第 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月 26-29 日
4. 伊藤 謙、佐々木 直人、Krisnanda Aga、田中 亨、堀部 紗世、松尾 一彦、中山 隆志、力武 良行: ケモカイン受容体 CCR4 の欠損は血中脂質濃度を減少させ後期段階の動脈硬化病変を安定化させる
日本薬学会第 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月 26-29 日
5. 原 雄大、坂東 政充、川端 優真、松尾 一彦、中山 隆志: 急性肝障害におけるケモカイン受容体 CCR6 を介した免疫細胞の肝臓への遊走制御機序の解明
第 99 回日本薬理学会年会 (仙台)、2026 年 3 月 16-18 日
6. 坂東 政充、原 雄大、松尾 一彦、中山 隆志: ケモカイン受容体 CCR6 による劇症肝炎の病態制御
第 148 回日本薬理学会近畿部会 (大阪)、2025 年 11 月 29 日
7. 田中 栞穂、松尾 一彦、山下 絢香、酒井 貴之、橋本 采奈、原 雄大、中山 隆志: ケモカイン CCL28 の IgE 抗体産生制御を介したアトピー性皮膚炎発症機構
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会 (京都)、2025 年 10 月 4 日
8. 急式杏樹、原 雄大、松尾 一彦、中山 隆志: 気管支喘息におけるケモカイン CCL28 を介した気道杯細胞の機能制御
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会 (京都)、2025 年 10 月 4 日
9. 酒井 貴之、松尾 一彦、山下 絢香、橋本 采奈、田中 栞穂、原 雄大、中山 隆志: ケモカイン CCL28 による IgE 抗体産生細胞制御を介したアトピー性皮膚炎病態形成機構
第 32 回日本免疫毒性学会学術集会 (岐阜)、2025 年 9 月 4-5 日
10. 急式杏樹、原 雄大、松尾 一彦、中山 隆志: 気管支喘息における気道上皮細胞に対するケモカイン CCL28 の役割

第 32 回日本免疫毒性学会学術集会 (岐阜)、2025 年 9 月 4-5 日

11. 酒井 貴之、松尾 一彦、山下 絢香、橋本 采奈、田中 栞穂、原 雄大、中山 隆志: アトピー性皮膚炎病態の IgE 抗体産生におけるケモカイン CCL28 の役割の解明

第 147 回日本薬理学会近畿部会 (名古屋)、2025 年 6 月 7 日

12. 急式 杏樹、原 雄大、松尾 一彦、中山 隆志: ケモカイン CCL28 が気管支喘息において気道上皮細胞に与える影響の解析

第 147 回日本薬理学会近畿部会 (名古屋)、2025 年 6 月 7 日

13. 身浦 秀也、原 雄大、中島 春香、佐野 立樹、松尾 一彦、中山 隆志: ケモカイン受容体 CCR6 がグリオーマの増殖に与える影響

第 147 回日本薬理学会近畿部会 (名古屋)、2025 年 6 月 7 日

14. 宗山 耀、松尾 一彦、名小路 美月、原 雄大、中山 隆志: ケモカイン受容体 CCR4 は制御性 T 細胞の誘導を介して食物アレルギーを制御する

第 147 回日本薬理学会近畿部会 (名古屋)、2025 年 6 月 7 日

[外部助成]

1. 中山 隆志(代表): ケモカイン CCL28 の好酸球を介したメラノーマ腫瘍免疫における役割
令和 5-7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
2. 原 雄大(代表): ケモカイン受容体 CCR4 の Th17 細胞を介したグリオーマ腫瘍免疫における役割
令和 5-7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
3. 松尾 一彦(代表): メモリーCD8+T 細胞サブセット選択的誘導における樹状細胞の共刺激分子の役割
令和 7-9 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[報償等]

1. 急式 杏樹: 第 147 回日本薬理学会近畿部会 優秀発表賞
第 147 回日本薬理学会近畿部会 (名古屋)、2025 年 6 月 7 日
2. 酒井 貴之: 第 147 回日本薬理学会近畿部会 優秀発表賞
第 147 回日本薬理学会近畿部会 (名古屋)、2025 年 6 月 7 日

[教育・社会活動]

1. 原 雄大: 日本薬理学会 学術評議員
2019 年 4 月～
2. 原 雄大: 大阪公立大学 非常勤講師
2024 年 4 月～

公衆衛生学研究室

職・氏名・学位

教授・川崎 直人・博士(薬学)
Naohito Kawasaki

担当科目：生活環境科学（医 1，創 1 分担），薬学概論（医 1），近大ゼミ（医 1），栄養学（創 2），公衆衛生学 1（医 3 分担），公衆衛生学（創 3），公衆衛生学 2（医 4），総合演習 1（医 4），実践病態と治療（医 5），衛生化学・放射化学実習（医 3，創 3），創薬科学実習 3（創 3）

所属学会：日本薬学会，日本公衆衛生学会，日本毒性学会，日本口腔ケア学会，日本健康体力栄養学会

准教授・緒方 文彦・博士(薬学)
Fumihiko Ogata

担当科目：生活環境科学（医 1，創 1 分担），近大ゼミ（医 1），環境毒性学（医 3，創 3），公衆衛生学 1（医 3 分担），グローバル創薬科学（創 3 分担），総合演習 2（医 6），衛生化学・放射化学実習（医 3，創 3），創薬科学実習 3（創 3）

所属学会：日本薬学会，日本水環境学会，日本公衆衛生学会，日本毒性学会，日本健康体力栄養学会

助教・植松 勇伍・博士(薬学)
Yugo Uematsu

担当科目：生活環境科学（医 1，創 1 分担），近大ゼミ（医 1），教養特殊講義 B（医 1，創 1 分担），化学英語（医 2），総合演習 1（医 4），総合演習 2（医 6），衛生化学・放射化学実習（医 3，創 3），創薬科学実習 3（創 3）

所属学会：日本薬学会，日本水環境学会，日本環境化学会，日本公衆衛生学会，日本医療薬学会，日本病院薬剤師会

現在行われている主な研究テーマ

1. 環境水および排水処理のための水処理剤の開発とその最適化
2. 無機・有機材料による有害重金属の除去技術の開発
3. 無機物質による環境浄化とリン酸の連続回収に関する研究
4. 有価資源（レアメタル）の再資源化に関する研究
5. 医薬品による電解質の変動に関する臨床研究
6. 健康食品と医薬品との相互作用に関する基礎的研究
7. 毛髪金属分析による疾病予防に関する研究

研究業績

[原著論文]

1. Mano Y, Kuwamura R, Otake H, Ogata F, Misra M, Okamoto N, Tsubaki M, Kawasaki N, Nagai N: Instillation of hesperetin nanosuspensions prevent lens opacification in selenite-induced cataract rats
J. Oleo Sci., **75**(3), 239-250, 2026 年 3 月
2. Ogata F, Sakamoto S, Nagai N, Uematsu Y, Chalermpong S, Kawasaki N: Potential bio-adsorbent synthesized using sugarcane bagasse for removal of cesium ions from aqueous media
Biomass Futures, **1**, 100008, 2026 年 3 月
3. Ogata F, Nagai N, Uematsu Y, Matsumura M, Toda M, Otani M, Chalermpong S, Tanei S, Kawasaki N : Preparation of the nickel-aluminum and nickel-aluminum-zirconium complex hydroxide and their potential use for removal of selenium ions based on adsorption/desorption from aqueous media
Environ. Process., **13**, 6, 2026 年 2 月
4. Fujimoto K, Otake H, Tanaka R, Ogata F, Fujii C, Yamamoto N, Kawasaki N, Ishizaka T, Kotake T, Nagai N : Troxipide nanosuspensions prevent indomethacin-induced gastrointestinal lesions in adjuvant-induced arthritis rats
J. Pharm. Health Care Sci., **12**, 23, 2026 年 1 月

5. Ogata F, Kakiya M, Mizuno Y, Sogabe K, Uematsu Y, Chalermpong S, Kawasaki N : Application of waste basil seed for removal of methylene blue from aqueous solutions
Chem. Pharm. Bull., **73**(12), 1106-1111, 2025 年 12 月
6. Srejomthong K, Pattananandecha T, Apichai S, Charumanee S, Sirithunyalug B, Ogata F, Kawasaki N, Saenjum C : Simultaneous development and validation of an HPLC method for the determination of furosemide and its degraded compound in pediatric extemporaneous furosemide oral solution
Molecules, **30**(19), 4031, 2025 年 10 月
7. Kobayakawa S, Matsunaga T, Otake H, Hino S, Ogata F, Misra M, Kanai M, Kawasaki N, Nagai N : Solid tranilast nanocrystal-loaded cationic contact lenses for sustained ocular drug delivery
Pharmaceutics, **17**(10), 1240, 2025 年 9 月
8. Yamashiro K, Miyamoto R, Ogata F, Kawasaki N : Characteristics of calcined sugarcane bagasse and its ability to adsorb cadmium from aqueous solutions
Chem. Pharm. Bull., **73**(9), 802-806, 2025 年 9 月
9. Pattananandecha T, Apichai S, Sukkho T, Ruangsuriya J, Ogata F, Kawasaki N, Saenjum C : Perilla seed meal extract enriched with rosmarinic acid and luteolin: A natural active pharmaceutical ingredients (NAPIs) for osteoprotective effects
Antioxidants, **14**(8), 973, 2025 年 8 月
10. Uematsu Y, Nakamura Y, Matsutani S, Abe S, Matsui H, Nomura K, Ogata F, Kawasaki N : Investigation of awareness of oral care and understanding of oral health among patients visiting a community pharmacy: A questionnaire-survey study
BPB Rep., **8**(4), 100-106, 2025 年 7 月
11. Ogata F, Uematsu Y, Nagai N, Hashimoto Y, Chalermpong S, Tanei S, Kawasaki N : Removal of methylene blue from aqueous media using coffee inner husks
BPB Rep., **8**(4), 92-99, 2025 年 7 月
12. Ogata F, Kurazaki M, Nagai N, Uematsu Y, Toda M, Otani M, Chalermpong S, Tanei S, Kawasaki N : Recovery of molybdenum using adsorption/desorption by nickel-aluminum or nickel-aluminum-zirconium complex hydroxides from aqueous media
RSC Adv., **15**, 24475-24482, 2025 年 7 月
13. Ogata F, Nagai N, Uematsu Y, Ito H, Chalermpong S, Kawasaki N : Synthesis of a novel zirconium-based adsorbent (ZBA) and the elucidation of adsorption capability of arsenic using ZBA, zirconium oxide, and zirconium hydroxide
Results Chem., **16**, 102401, 2025 年 7 月
14. Suphakorn K, Sutasinee A, Jutamas J, Busaban S, Ogata F, Kawasaki N, Kate G, Chalermpong S : Portable and rapid smartphone-based colorimetric assay of peracetic acid for point-of-use medical/pharmaceutical disinfectant preparation
Molecules, **30**(13), 2798, 2025 年 6 月
15. Otake H, Ogata F, Nakazawa Y, Misra M, Tsubaki M, Kawasaki N, Nagai N : Dermal formulation based on carbopol and gum arabic improves skin retention of indomethacin
PLoS One, **20**(6): e0326051, 2025 年 6 月
16. Matsunaga T, Kuwamura R, Hino S, Ogata F, Otake H, Kawasaki N, Kobayakawa S, Nagai N : Design of tranilast-loaded cation-type contact lens for sustainable ocular drug delivery
Pharmaceutics, **17**, 712, 2025 年 5 月

[著書]

1. 植松勇伍: 不整脈の全体像を理解しよう！非薬物療法と薬物療法には何がある？, 薬剤師のための循環器ポケットブック, 循環器病薬剤師ネットワーク編
pp.28-34, じほう 2026 年 3 月

[学会・シンポジウム]

1. ○緒方文彦, 上原文幸, 植松勇伍, 川崎直人: コーヒーインナーハスク由来炭素材料の創製とガドリニウム造影剤に対する吸着能評価
日本薬学会第 146 年会 (大阪) 口頭発表, 2026 年 3 月 26~29 日
2. ○植松勇伍, 工藤裕月, 中田正博, 重森裕之, 緒方文彦, 川崎直人: 日本およびタイにおける薬局・薬剤師の職能差に関する調査: 薬学部 5 年生を対象とした実地調査型研究
日本薬学会第 146 年会 (大阪) 口頭発表, 2026 年 3 月 26~29 日
3. ○水野友理, 竹谷奏, 緒方文彦, 植松勇伍, 川崎直人: 薬剤間相互作用の回避を目的とする高 K 血症治療薬に対する金属イオンの影響評価
日本薬学会第 146 年会 (大阪) 口頭発表, 2026 年 3 月 26~29 日
4. ○曾我部倅大, 山城海渡, 緒方文彦, 植松勇伍, 川崎直人: 化石サンゴを用いた水環境中のリンバランス調整に関する基礎的検討
日本薬学会第 146 年会 (大阪) 口頭発表, 2026 年 3 月 26~29 日
5. ○眞野裕, 東里薫, 植松勇伍, 大竹裕子, 緒方文彦, 川崎直人, 長井紀章: フロースルーセル法を用いた葛根湯エキス製剤の溶出挙動評価条件の確立
日本薬学会第 146 年会 (大阪) 口頭発表, 2026 年 3 月 26~29 日
6. ○牟田成一, 佐藤萌映, 植松勇伍, 菊池大夢, 山下賢之介, 中島繁美, 川崎直人, 緒方文彦: 心房細動患者におけるアブレーション前後での薬剤継続に関する実態調査
第 90 回日本循環器学会学術集会 (福岡) ポスター発表, 2026 年 3 月 20~22 日
7. ○緒方文彦, 松村萌, 植松勇伍, 大谷昌司, 川崎直人: Ni および Al を基材とした金属複合水酸化物によるセレン(IV)イオンの吸着能
第 60 回日本水環境学会年会 (東京) ポスター発表, 2026 年 3 月 8~10 日
8. ○植松勇伍, 石橋怜, 緒方文彦, 川崎直人: 化石サンゴ由来リン除去剤の創製における塩化物添加の影響とリン除去能の評価
第 60 回日本水環境学会年会 (東京) ポスター発表, 2026 年 3 月 8~10 日
9. ○渡邊晃汰, 吉田弦, 水野友理, 緒方文彦, 植松勇伍, 川崎直人, Mohamed Farghali, 岩崎匡洋, 井原一高: 磁性バイオ炭を利用した嫌気性消化におけるアンモニア阻害の緩和
関西農業食料工学会第 155 回例会 (兵庫) 口頭発表, 2026 年 3 月 3 日
10. ○渡邊晃汰, 吉田弦, 水野友理, 緒方文彦, 植松勇伍, 川崎直人, Mohamed Farghali, 岩崎匡洋, 井原一高: 磁性バイオ炭を用いたメタン発酵におけるアンモニア阻害の緩和
2026 年農業施設学会学生・若手研究発表会 (岐阜) ポスター発表, 2026 年 2 月 21 日
11. ○池田裕哉, 植松勇伍, 緒方文彦, 川崎直人, 有馬秀二, 竹上学: 炭酸ランタンの血清リン低下作用に及ぼす高カリウム血症治療薬併用の影響調査
第 47 回日本病院薬剤師会近畿学術大会 (大阪) 口頭発表, 2026 年 2 月 14~15 日
12. ○Naohito Kawasaki, Fumihiko Ogata, Yugo Uematsu: Development of adsorbents produced from vegetable biomass carbonization
6th International Conference on Engineering Materials (Puhket, Thailand) Oral, 2025 年 12 月 10~13 日
13. ○植松勇伍, 北浦大翔, 緒方文彦, 水野友理, 川崎直人: *In vitro* における高カリウム血症治療薬と炭酸ランタンの相互作用に関する基礎的検討
第 35 回日本医療薬学会年会 (兵庫) ポスター発表, 2025 年 11 月 22~24 日
14. ○緒方文彦, 坂本翔, 植松勇伍, 川崎直人: セシウム汚染水の新規浄化技術開発を目指した磁性保持炭素材料の創製
第 84 回日本公衆衛生学会総会 (静岡) ポスター発表, 2025 年 10 月 29~31 日
15. ○植松勇伍, 緒方文彦, 川崎直人: ドリアン果皮由来吸着剤による鉛吸着能の評価およびリン溶出ポテンシャルの検討

第 84 回日本公衆衛生学会総会（静岡）ポスター発表，2025 年 10 月 29～31 日

16. ○水野友理，緒方文彦，植松勇伍，川崎直人：富栄養化防止のための水酸化マグネシウムによるリン酸イオンの回収

第 84 回日本公衆衛生学会総会（静岡）ポスター発表，2025 年 10 月 29～31 日

17. ○曾我部倅大，植松勇伍，緒方文彦，川崎直人：安全な飲料水供給のための高ヒ素除去能を持つ化石サンゴ由来吸着剤の創製

第 84 回日本公衆衛生学会総会（静岡）ポスター発表，2025 年 10 月 29～31 日

18. ○山城海渡，山田真規子，緒方文彦，川崎直人：日本の大学生における握力と生活習慣との関連性および経年変化について：2011 年から 2019 年の横断的解析

第 84 回日本公衆衛生学会総会（静岡）ポスター発表，2025 年 10 月 29～31 日

19. ○緒方文彦，坂本翔，植松勇伍，川崎直人：バガスを基材とした磁性保持炭素材料の創製およびそのセシウムイオン吸着能に関する基礎検討

メタルバイオサイエンス研究会 2025（東京）ポスター発表，2025 年 10 月 22～23 日

20. ○水野友理，緒方文彦，西脇敬二，植松勇伍，川崎直人：Mg-Al および Mg-Fe を基材とした新規複合水酸化物による 6 価クロムイオン吸着能に関する基礎研究

メタルバイオサイエンス研究会 2025（東京）ポスター発表，2025 年 10 月 22～23 日

21. ○曾我部倅大，植松勇伍，緒方文彦，川崎直人：安全な水供給のための化石サンゴ由来ヒ素除去剤の開発

メタルバイオサイエンス研究会 2025（東京）ポスター発表，2025 年 10 月 22～23 日

22. ○植松勇伍，中原由香，緒方文彦，川崎直人：富栄養化防止を指向した水環境中からのリン除去に対する海洋資源の有用性評価—ツキヒガイ殻由来除去剤を用いたリン除去能—

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）口頭発表，2025 年 10 月 4 日

23. ○曾我部倅大，植松勇伍，緒方文彦，川崎直人：リン酸イオン吸着剤としての化石サンゴの処理に適した無機塩の探索—化石サンゴを用いたリン資源の循環利用—

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）口頭発表，2025 年 10 月 4 日

24. ○水野友理，緒方文彦，西脇敬二，植松勇伍，川崎直人：6 価クロムイオン除去を指向した新規複合水酸化物の創製条件の最適化

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）ポスター発表，2025 年 10 月 4 日

25. ○北浦大翔，植松勇伍，緒方文彦，川崎直人：炭酸ランタンと高カリウム血症治療薬の薬物相互作用に関する基礎的検討

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）口頭発表，2025 年 10 月 4 日

26. ○金谷逸輝，山城海渡，緒方文彦，植松勇伍，川崎直人：室内環境における植物バイオマスを用いた湿度調節に関する研究—廃棄物であるドリアン果皮の有効活用—

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）口頭発表，2025 年 10 月 4 日

27. ○Fumihiko Ogata: Removal of lead ions onto potassium-type fine-grained zeolite prepared from dry or wet milling treatment

フォーラム 2025 衛生薬学・環境トキシコロジー（愛知）日韓次世代シンポジウム，2025 年 9 月 9～10 日

28. ○植松勇伍，山下輝，緒方文彦，川崎直人：農薬中毒の防止を指向した小麦ふすまによるビビリジニウム系除草剤の吸着除去

フォーラム 2025 衛生薬学・環境トキシコロジー（愛知）口頭発表，2025 年 9 月 9～10 日

29. ○水野友理，宮崎友規，植松勇伍，緒方文彦，川崎直人：健康食品と降圧薬の併用における相互作用に関する基礎的研究

フォーラム 2025 衛生薬学・環境トキシコロジー（愛知）ポスター発表，2025 年 9 月 9～10 日

30. ○曾我部倅大，植松勇伍，緒方文彦，川崎直人：化石サンゴを原料としたリン選択性を持つ新規吸着剤の開発

フォーラム 2025 衛生薬学・環境トキシコロジー（愛知）ポスター発表，2025 年 9 月 9～10 日

31. ○山城海渡, 浅野華奈子, 緒方文彦, 藤原泰之, 川崎直人: 硫酸処理バガスを用いた水環境中からの水銀イオン除去に関する基礎的検討
フォーラム 2025 衛生薬学・環境トキシコロジー (愛知) ポスター発表, 2025 年 9 月 9~10 日
32. ○中野祐樹, 平井利典, 西條尚, 植松勇伍, 中島葉子, 尾崎智美, 柴田稜子, 今田麻子, 成富一哉, 緒方文彦, 川崎直人, 巴山忠, 安永昌史, 多田和弘, 蓮輪博嗣, 升谷耕介: 血液透析患者における CapeOX レジメンの薬物動態・薬理遺伝学的評価と Systematic review に基づいた減量基準の検討
第 41 回日本 TDM 学会・学術大会 (大阪) 口頭発表, 2025 年 7 月 26~27 日
33. ○緒方文彦, 松本菜々海, 植松勇伍, 川崎直人: 食品廃棄物であるバジルシードを用いたガドリニウムイオンの吸・脱着能に関する基礎的検討
第 52 回日本毒性学会学術年会 (沖縄) ポスター発表, 2025 年 7 月 2~4 日
34. ○水野友理, 緒方文彦, 植松勇伍, 川崎直人: 高カリウム血症治療薬と心不全治療薬との相互作用に関する基礎的検討
第 52 回日本毒性学会学術年会 (沖縄) ポスター発表, 2025 年 7 月 2~4 日

[外部助成]

1. 川崎直人: 民間より 2 件
2. 緒方文彦: 植物バイオマスを核とした吸着処理を基盤とするセシウムイオンの除去
令和 7 年 4 月 1 日~令和 8 年 3 月 31 日

[報償等]

1. 水野友理: 学生優秀発表賞 (ポスター発表の部)
日本薬学会第 146 年会 (福岡), 2026 年 3 月 26~29 日
2. 曾我部偉大: 優秀口頭発表賞
第 75 回日本薬学会関西支部総会 (京都), 2025 年 10 月 4 日

[教育・社会活動]

1. 川崎直人: 薬学教育協議会 衛生薬学教科担当教員会議 委員
2024 年 4 月~
2. 川崎直人: 日本私立薬科大学協会 教育研究問題検討委員会 委員
2022 年 4 月~
3. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 必携・衛生試験法編集委員会 委員
2022 年 4 月~
4. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 試験法用語専門委員会 委員
2022 年 4 月~
5. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 副部会長
2025 年 4 月~
6. 川崎直人: 日本薬学会 BPB Reports Editor
2021 年 4 月~
7. 川崎直人: 日本健康体力栄養学会 理事
2019 年 4 月~
8. 川崎直人: 日本薬学会 代議員
2018 年 4 月~
9. 川崎直人: 日本公衆衛生学会 理事
2017 年 10 月~

10. 川崎直人: 日本公衆衛生学会 薬剤師のあり方委員会 委員長
2017 年 10 月～
11. 川崎直人: 日本公衆衛生学会 専門職・教育生涯学習委員会 委員
2017 年 10 月～
12. 川崎直人: 日本公衆衛生学会 代議員
2017 年 7 月～
13. 川崎直人: 日本毒性学会 評議員
2017 年 7 月～
14. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 水質試験法専門委員会 委員
2016 年 4 月～
15. 川崎直人: 日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会 委員
2016 年 4 月～
16. 緒方文彦: 日本薬学会 環境・衛生部会 若手研究者活性化小委員会 委員長
2025 年 4 月～
17. 緒方文彦: 日本薬学会 環境・衛生部会, 広報委員会 委員
2025 年 4 月～
18. 緒方文彦: 出張講義 薬学について
私立 開智高等学校 (和歌山) 2025 年 7 月 12 日
19. 緒方文彦: 日本薬学会 学術編集委員会 委員
2023 年 4 月～
20. 緒方文彦: 日本薬学会 環境・衛生部会 必携・衛生試験法編集委員会 委員
2022 年 4 月～
21. 緒方文彦: 日本水環境学会関西支部 理事
2022 年 4 月～
22. 緒方文彦: 日本健康体力栄養学会 理事
2022 年 4 月～
23. 緒方文彦: 日本公衆衛生学会 代議員
2021 年 7 月～
24. 緒方文彦: Frontiers in Environmental Chemistry (Sorption Technologies), Associate Editor
2020 年 1 月～
25. 緒方文彦: 日本毒性学会 生体金属部会 幹事
2018 年 7 月～
26. 緒方文彦: 日本健康体力栄養学会 評議員
2013 年 4 月～
27. 植松勇伍: 日本水環境学会関西支部 幹事
2025 年 4 月～

生化学研究室

職・氏名・学位

教 授・藤原 俊伸・博士（医学） 担当科目：近大ゼミ(1)、基礎生化学(1)、生化学(2)、基礎薬科学実習
Toshinobu Fujiwara (1 分担)、免疫・分子生物学実習（2 分担）
所属学会：日本 RNA 学会、日本分子生物学会

講 師・深尾 亜喜良・博士（理学） 担当科目：近大ゼミ(1)、生物学入門(1 併担)、基礎生物学(1 併担)、
Akira Fukao 基礎薬科学実習(1 分担)、免疫・分子生物学実習(医 2 分担)
所属学会：日本 RNA 学会、日本分子生物学会

助 教・友廣 拓生・博士（医科学） 担当科目：近大ゼミ(1)、生物学英語(医 2)、基礎薬科学実習(1 分担)、
Takumi Tomohiro 免疫・分子生物学実習(医 2 分担)
所属学会：日本 RNA 学会、日本分子生物学会

現在行われている主な研究テーマ

1. ほ乳類におけるタンパク質合成を制御する仕組みの研究
2. RNA ウイルスが宿主のタンパク質合成機構を乗っ取る仕組みの研究
3. RNA を高分子マテリアルとしてとらえた「ものづくり」

研究業績

[原著論文]

1. Fabian Hia, Yitong Wu, Masanori Yoshinaga, Sakurako Goto-Ito, Wakana Iwasaki, Koshi Imami, Hirotaka Toh, Peixun Han, Ting Cai, Takayuki Ohira, Akira Fukao, Daron M Standley, Yuichi Shichino, Masaki Takegawa, Toshinobu Fujiwara, Tsutomu Suzuki, Shintaro Iwasaki, Michael C. Bassik, Takuhiro Ito, Osamu Takeuchi: Human DHX29 detects nonoptimal codon usage to regulate mRNA stability
Science DOI: 10.1126/science.adw0288 2026 年 3 月
2. So Toshima, Ryosuke Satoh, Takumi Tomohiro, Yoshinori Funakami, Akira Fukao, Toshinobu Fujiwara: The TAP/NXF1-Binding Region of HuD Is Required for Translation and Neuronal Differentiation
Genes to cells **30**(6) e70057 2025 年 11 月
3. Kanae Miyazaki, Takumi Tomohiro, Yoshinori Funakami, Akira Fukao, Toru Suzuki, Tadashi Yamamoto, Toshinobu Fujiwara: TOB Proteins Repress Translation via the CCR4-NOT Deadenylation Complex Independent of Deadenylation
Genes to cells **30**(5) e70042 2025 年 9 月
4. Hon-Song Kim, Kaito Mitsuzumi, Shohei Kondo, Rie Yamaoka, Shinji Ihara, Hiroshi Otsuka, Chizu Yoshikata, Yukihiko Kubota, Takumi Tomohiro, Toshinobu Fujiwara, Kenji Kimura, Fumio Motegi, Yukimasa Shibata, Mikiko Takahashi, Kiyoji Nishiwaki: Ribosomal protein mutation suppresses gonadal leader cell migration defects in mig-17/ADAMTS mutants in *Caenorhabditis elegans*
Scientific reports **15**(1) 26435-26435 2025 年 7 月

5. Koji Onomoto, Monami Sakai, Miyu Watanabe, Akira Fukao, Yurika Sakamura, Mai Miyao, Takumi Tomohiro, Akio Yamashita, Toshinobu Fujiwara, Tomoko Takahashi, Kumiko Ui-Tei, Mitsutoshi Yoneyama: TRBP modulates RLR signaling by inhibiting PKR-mediated antiviral stress granule formation

Scientific reports 15(1) 20678-20678 2025 年 7 月

6. Shahriar Rahman Shovon, Tomoki Uematsu, Yuki Osaki, Tatsushi Masui, Takashi Koyama, Toshinobu Fujiwara, Chisato Ushida: Starvation changes the pre-rRNA accumulations in *Caenorhabditis elegans*

Biochemical and biophysical research communications 742 151125-151125 2025 年 1 月

[学会・シンポジウム]

1. 森あゆみ, 宮尾真衣, 友廣拓生, 深尾亜喜良, 足達俊吾, 夏目徹, 尾野本浩司, 米山光俊, 鈴木亨, 山本雅, 藤原俊伸: ストレス顆粒形成因子 G3BP1 が関わる miRNA 依存的翻訳制御機構の解析

第 48 回日本分子生物学会年会 (横浜)、2025 年 12 月 3-5 日

2. 今井大達, 岩崎わかな, 深尾亜喜良, 泊幸秀, 黒柳秀人, 中川真一, 藤原俊伸, 伊藤拓宏, 山下暁朗: 哺乳動物における不活化型 80S リボソーム形成の分子機構

第 48 回日本分子生物学会年会 (横浜)、2025 年 12 月 3-5 日

3. 酒井萌菜美, 尾野本浩司, 渡辺妙結, 深尾亜喜良, 坂村由梨佳, 宮尾真衣, 友廣拓生, 山下暁朗, 藤原俊伸, 高橋朋子, 程久美子, 米山光俊: TRBP による抗ウイルスストレス顆粒形成と自然免疫応答制御機構の解明

第 48 回日本分子生物学会年会 (横浜)、2025 年 12 月 3-5 日

4. Ayumi Mori, Mai Miyao, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Shungo Adachi, Tohru Natsume, Koji Onomoto, Mitsutoshi Yoneyama, Toru Suzuki, Tadashi Yamamoto and Toshinobu Fujiwara: Functional Analysis of G3BP1 in miRNA-Mediated Translational Repression

第 12 回 CCR4-NOT 研究会、2025 年 10 月 27-29 日

5. Mai Miyao, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Toru Suzuki, Tadashi Yamamoto and Toshinobu Fujiwara: Functional Elucidation of Post-Transcriptional Gene Silencing Mediated by the Mammalian CCR4-NOT Complex using CNOT9 KO cells

第 12 回 CCR4-NOT 研究会、2025 年 10 月 27-29 日

6. Takumi Tomohiro, Tomosuke Sakaguchi, Akira Fukao and Toshinobu Fujiwara: Functional Dissection of Artificial and Pathogenic Argonaute Variants

第 12 回 CCR4-NOT 研究会、2025 年 10 月 27-29 日

7. So Toshima, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Yoshinori Funakami, Toshinobu Fujiwara: HuD Relieves miRNA-Mediated Translational Repression via Akt1-Dependent Ago Phosphorylation

第 26 回日本 RNA 学会年会（仙台）、2025 年 7 月 8-10 日

8. Masanori Yoshinaga, Fabian Hia, Yitong Wu, Sakurako Goto-Ito, Wakana Iwasaki, Koshi Imami, Peixun Han, Ting Cai, Takayuki Ohira, Akira Fukao, Yuichi Shichino, Masaki Takegawa, Toshinobu Fujiwara, Tsutomu Suzuki, Shintaro Iwasaki, Michael C. Bassik, Takuhiro Ito, Osamu Takeuchi: Human DHX29 detects non-optimal codon usage to regulate mRNA stability

第 26 回日本 RNA 学会年会（仙台）、2025 年 7 月 8-10 日

9. Mai Miyao, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Toru Suzuki, Tadashi Yamamoto, Toshinobu Fujiwara: Functional Role of CNOT9 in Post-Transcriptional Gene Silencing Mediated by the Mammalian CCR4-NOT Complex

第 26 回日本 RNA 学会年会（仙台）、2025 年 7 月 8-10 日

10. Kanae Miyazaki, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Toru Suzuki, Tadashi Yamamoto, Toshinobu Fujiwara: Tob1/2 proteins repress translation in a poly(A) dependent manner but deadenylation-independent manner

第 26 回日本 RNA 学会年会（仙台）、2025 年 7 月 8-10 日

11. Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Mari Takahashi, Kodai Machida, Hiroaki Imataka, Kent E. Duncan, Takuhiro Ito, Toshinobu Fujiwara: The ribosome binding module of eIF4B is critical for translation initiation, whereas eIF4H lacks an equivalent function

第 26 回日本 RNA 学会年会（仙台）、2025 年 7 月 8-10 日

[外部助成]

1. 藤原俊伸(代表): 加熱・酵素処理乳酸菌成分による小腸上皮細胞由来エクソソームの放出促進

令和 7 年度 寄附研究費 ニチニチ製薬株式会社

[褒賞等]

1. 宮尾 真衣: 日本学術振興会特別研究員 (DC1) 採択
2. 宮崎 叶愛: 近畿大学次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING) 採択
3. 野口 海輝: 近畿大学次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING) 採択
4. 森 あゆみ: 近畿大学次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING) 採択

[教育・社会活動]

1. 藤原俊伸: 日本 RNA 学会 評議員
2016 年 4 月 1 日～
2. 藤原俊伸: 名古屋市立大学薬学部 客員教授
2015 年 4 月 1 日～
3. 藤原俊伸: 日本生化学会「生化学」誌編集企画協力委員
2014 年 4 月 1 日～
4. 藤原俊伸: 大阪大学免疫学フロンティア研究センター 招聘教授
2013 年 4 月 1 日～

製剤学研究室

職・氏名・学位

教 授・長井 紀章・博士(薬学)
Nagai Noriaki

担当科目：近大ゼミ (1)、薬学概論 (1)、製剤学 1 (医 2)、医薬品物性・製剤学実習 (医 2 分担)、製剤学 2 (医 3)、分析化学・製剤学実習 (創 2 分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬剤学会、日本医療薬学会、日本油化学会、日本角膜学会、日本白内障学会、日本眼薬理学会、日本薬局学会、日本老視学会、水晶体研究会、ヘスペリジン研究会、The Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO)

講 師・大竹 裕子・博士(薬学)
Hiroko Otake

担当科目：近大ゼミ(1)、医薬品物性・製剤学実習 (医 2 分担)、製剤学 (創 2)、製剤工学 (創 3)、分析化学・製剤学実習 (創 2 分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬剤学会、日本医療薬学会、粉体工学会、日本白内障学会、日本眼薬理学会、水晶体研究会

現在行われている主な研究テーマ

1. 粒子径の適正化による経皮吸収製剤の開発
2. ナノテクノロジーを用いた口腔粘膜適用製剤の開発
3. 角膜傷害治療製剤の開発
4. 眼圧降下と視神経賦活を同時標的とした緑内障治療製剤の開発
5. 白内障発症機序の解明とその治療製剤の開発
6. マイクロプローブ及びコンパクト HPLC を用いた新規溶出試験法の開発
7. ナノ粒子化による脳梗塞治療用注射製剤の確立
8. 薬物の肺深部送達を目的とした吸入ナノ粒子製剤の開発
9. 点鼻用ナノ粒子製剤を用いた脳デリバリー

研究業績

[原著論文]

1. Mano Y, Kuwamura R, Otake H, Ogata F, Misra M, Okamoto N, Tsubaki M, Kawasaki N, Nagai N: Instillation of Hesperetin Nanosuspensions Prevent Lens Opacification in Selenite-Induced Cataract Rats
J. Oleo Sci., **75**(3), 239–250, 2026 年 3 月
2. Ogata F, Nagai N, Uematsu Y, Matsumura M, Toda M, Otani M, Saenjum C, Tanei S, Kawasaki N: Preparation of the Nickel–aluminum and Nickel–aluminum–zirconium Complex Hydroxide and their Potential Use for Removal of Selenium Ions Based on Adsorption/desorption from Aqueous Media
Environ. Process, **13**, 6, 2026 年 2 月
3. Ogata F, Ookawa A, Nagai N, Mizuno Y, Uematsu Y, Saenjum C, Kawasaki N: Potential of zirconium-based materials for the removal and recovery of tungsten ions from the aqueous phase
Results Chem., **22**, 103114, 2026 年 2 月
4. Fujimoto K, Otake H, Tanaka R, Ogata F, Fujii C, Yamamoto N, Kawasaki N, Ishizaka T, Kotake T, Nagai N: Trolox Nanosuspensions Prevent Indomethacin-Induced Gastrointestinal Lesions in Adjuvant-Induced Arthritis Rats
J. Pharm. Health Care Sci., **12**(1), 23, 2026 年 1 月
5. Aoe M, Shimizu T, Matsumoto S, Nagai N, Ouchi H, Miyabe H, Aoki S: Exploratory Analysis of Student Characteristics Contributing to Improved Learning Outcomes in Gamified Organic Chemistry Education
Yakugaku Zasshi, **146**(1), 71–78, 2026 年 1 月
6. Obana T, Fujimoto S, Fujiwara K, Takegami M, Nakai H, Nishida S, Nagai N, Tsubaki M: Association Between Body Mass Index and Hematotoxicity in Gynecological Cancer Patients Receiving Paclitaxel-Carboplatin Therapy: A Retrospective Study

- Cureus*, **17**(12), e99811, 2025 年 12 月
7. Ogata F, Sakamoto S, Nagai N, Uematsu Y, Saenjum C, Kawasaki N: Potential bio-adsorbent synthesized using sugarcane bagasse for removal of cesium ions from aqueous media
Biomass Futures, **1**, 100008, 2025 年 12 月
 8. Tsubaki M, Matsuo T, Komori R, Kubo H, Miyamoto C, Nagai N: Bioinformatic Analysis of RNF43 and Its Co-expressors As Prognostic Biomarkers for Gastric Cancer
Cureus, **17**(12), e98422, 2025 年 12 月
 9. Harada A, Tanaka R, Otake H, Yoshimura M, Wada T, Nagahama T, Nagai N: Dermal Formulation Incorporating Isoconazole Nitrate Nanoparticles Offers High Absorption into Skin and Antimicrobial Effect Against *Candida albicans*
Pharmaceutics, **17**(12), 1519, 2025 年 11 月
 10. 青江麻衣、清水 忠、松野純男、大内秀一、長井紀章、長野秀嗣、山岡庸介、宮部豪人、青木俊二：モバイル端末対応の「化学構造式かるた」アプリケーションを用いた有機化学教育の実践と課題
薬学教育, **9**, e09033, 2025 年 10 月
 11. Kobayakawa S, Matsunaga T, Otake H, Hino S, Ogata F, Misra M, Kanai K, Kawasaki N, Ngai, N: Solid Tranilast Nanocrystal-Loaded Cationic Contact Lenses for Sustained Ocular Drug Delivery
Pharmaceutics, **17**(10), 1240, 2025 年 9 月
 12. 大竹裕子、佐々木 洋、長井紀章：高温条件下におけるラット水晶体中の蛋白質発現プロファイル
日本白内障学会, **37**(1), 106, 2025 年 7 月
 13. 長井紀章：点眼製剤研究からみた白内障治療薬実現の可能性
日本白内障学会, **37**(1), 62–64, 2025 年 7 月
 14. Ogata F, Uematsu Y, Nagai N, Nashimoto Y, Saenjum C, Tanei S, Kawasaki N: Removal of Methylene Blue from Aqueous Media Using Coffee Inner Husks
BPB Reports, **8**(4), 92–99, 2025 年 7 月
 15. Ogata F, Kurazaki M, Nagai N, Uematsu Y, Toda M, Otani M, Saenjum C, Tanei S, Kawasaki N: Recovery of Molybdenum Using Adsorption/Desorption by Nickel-Aluminum or Nickel-Aluminum-Zirconium Complex Hydroxides from Aqueous Media
RSC Adv., **15**(30), 24475–24482, 2025 年 7 月
 16. Hoshida T, Tanabe K, Tsubaki M, Nagai N, Nishida S: Comparison of Side Effects of Anti-epidermal Growth Factor Receptor (Anti-EGFR) Antibody Drugs During Initial Induction and Reinduction in Colorectal Cancer: A Case Series
Cureus, **17**(7), e87184, 2025 年 7 月
 17. Tsubaki M, Obana T, Matsuo T, Komori R, Takeda T, Koumoto Y, Usami H, Nagai N, Nishida S: Overexpression of miR-29a and miR-29b is Involved in Imatinib Resistance via Abrogated NF1 Expression and Increased ERK1/2 Activation in Chronic Myeloid Leukemia Cells
Med. Oncol., **42**(7), 268, 2025 年 6 月
 18. Matsunaga T, Kuwamura R, Hino S, Ogata F, Otake H, Kawasaki N, Kobayakawa S, Nagai N: Design of Tranilast-Loaded Cation-Type Contact Lens for Sustainable Ocular Drug Delivery
Pharmaceutics, **17**(6), 712, 2025 年 5 月
 19. Ogata F, Nagai N, Uematsu Y, Ito H, Saenjum C, Kawasaki N: Synthesis of a novel zirconium-based adsorbent (ZBA) and the elucidation of adsorption capability of arsenic using ZBA, zirconium oxide, and zirconium hydroxide
Results Chem., **16**, 102401, 2025 年 5 月
 20. Nakazawa Y, Nishizawa F, Kawata S, Sugiyama Y, Nagai N, Yamamoto N, Funakoshi-Tago M: TRPV1 Attenuates Epithelial-Mesenchymal Transition via Calpain-Protein Tyrosine Phosphatase Pathway in Lens Epithelial Cells
Exp. Eye Res., **258**, 110435, 2025 年 5 月
 21. 岡本広世、吉川知宏、竹内健太、平田敦士、大竹裕子、長井紀章：経管投与用薬剤注入器付属バッグと凍結

保存の併用は Mohs ペーストの利便性を高める

医療薬学, **51**(5), 325–330, 2025 年 5 月

22. Ogata F, Nagai N, Uematsu Y, Matsumoto N, Saenjum C, Kawasaki N: Potential of Waste Basil Seeds for Gadolinium Ion Removal from Aqueous Solutions

Chem. Pharm. Bull., **73**(5), 427–433, 2025 年 5 月

23. 上田昌宏、青江麻衣、西村奏咲、中澤公揮、長井紀章、清水 忠: 薬剤師が有機化学を臨床で活用しない要因の抽出

薬学教育, **9**, e09005, 2025 年 4 月

[著書]

1. Yamamoto N, Hiramatsu N, Kato Y, Kuno Y, Aihara K, Hatsusaka N, Sasaki H, Nagai N, Nakazawa Y, Suzuki M, Fukumoto M: Chapter 10: Effects of Low-Dose Radiation Exposure on the Crystalline Lens of the Japanese Macaque Eye. In Low-Dose Radiation Effects on Animals and Ecosystems II 15 Years after the Fukushima Nuclear Accident

pp.95–108, Springer Nature, 2026 年 3 月

[学会・シンポジウム]

1. Yuzhu Zhang Y, Yajing Yang, Shin-ichi Ikeda, Noriaki Nagai, Harumasa Yokota, Taiji Nagaoka, Kazuno Negishi, Kazuo Tsubota, Toshihide Kurihara, Yohei Tomita: Fenofibrate Nano-Eyedrops Suppress Myopia Progression in an Extended Lens-Induced Mouse Model

FUJI RETINA 2026 (東京)、P-053、2026 年 3 月 28 日

2. 出口粧央里、森田 茜、柏原俊英、大竹裕子、長井紀章、中原 努: Axitinib ナノサスペンション点眼による網膜以上血管新生の抑制

日本薬学会第 146 年会 (大阪)、28-26-am08、2026 年 3 月 28 日

3. 大竹裕子、神尾あすか、田中 翔、八木琴美、平島恵奈、長井紀章: β -シクロデキストリンポリマー配合に伴う忌避剤 DEET の機能性改善効果

日本薬学会第 146 年会 (大阪)、27-60-pm1-06、2026 年 3 月 27 日

4. 眞野 裕、東 里薫、植松勇伍、大竹裕子、緒方文彦、川崎直人、長井紀章: フロースルーセル法を用いた葛根湯エキス製剤の溶出挙動評価条件の確立

日本薬学会第 146 年会 (大阪)、27-52-pm1-01、2026 年 3 月 27 日

5. 二階堂 碧、山室大介、成瀬七海、有働真唯、奥平 青、北澤和花、柴内明里、清水章翔、西田智咲、長井紀章、花栗潤哉、横田陽匡、長岡泰司、櫛山暁史: 虚血再灌流障害に対するフェブキシソスタットナノ粒子化点眼による網膜保護効果

日本薬学会第 146 年会 (大阪)、27-54-am1-11S、2026 年 3 月 27 日

6. 長井紀章、伊藤奈希、太田光砂、山之内華央、大竹裕子、五反田龍矢、佐々木彩乃: MPC ポリマー配合はチモロールマレイン酸点眼液の眼吸収および眼圧下降効果を増強する

日本薬学会第 146 年会 (大阪)、27-51-am1-07、2026 年 3 月 27 日

7. 出口粧央里、森田 茜、柏原俊英、大竹裕子、長井紀章、中原 努: ナノ粒子化 axitinib の点眼は網膜異常血管新生を抑制する

第 99 回日本薬理学会年会 (宮城)、3-P-036、2026 年 3 月 18 日

8. 長井紀章: 薬物治療法の可能性

日本老視学会第 4 回学術総会 (東京)、シンポジウム講演、2026 年 1 月 17 日

9. 長井紀章、山本哲志、中澤洋介、大竹裕子、多賀 淳、佐々木 洋: ショットガンプロテオミクス解析を用いた Piezo 1 活性化に伴う水晶体硬化機構の解析

日本老視学会第 4 回学術総会 (東京)、O-01、2026 年 1 月 17 日

10. 岡本奈々、城山空翔、岸本真治、大竹裕子、長井紀章: 薬物持続放出型ミノキシジル含有シート製剤の設計とその育毛促進効果

第 35 回日本医療薬学会年会（兵庫）、P1051-23-PM、2025 年 11 月 23 日

11. 梅田一輝、田所朋久、浦野蒼太、小早川信一郎、松永 透、檜野 栞、長井紀章: プリンゾラミド封入徐放型コンタクトデバイスの開発とその有用性評価

第 35 回日本医療薬学会年会（兵庫）、P1045-23-PM、2025 年 11 月 23 日

12. 揉井咲衣、船越悠暉、大竹裕子、長井紀章: 持続型緑内障治療薬の開発研究: ナノサスペンション技術の適用はプリンゾラミドの作用時間を延長する

第 35 回日本医療薬学会年会（兵庫）、23-10-O30-3、2025 年 11 月 23 日

13. 尾花輝樹、藤本伸一郎、藤原季実子、竹上 学、長井紀章、西田升三、椿 正寛: 婦人科癌に対する TC 療法における血液毒性の発現と肥満度の関係

第 35 回日本医療薬学会年会（兵庫）、23-11-O34-5、2025 年 11 月 23 日

14. 谷口雅弥、和久田 耀、伊藤 心、大竹裕子、長井紀章: 難治性口内炎治療薬の開発を目指して: レバミピド含有 S/O/W 型エマルジョン由来 PG/PVA ゲルは口腔粘膜障害の修復を高める

第 35 回日本医療薬学会年会（兵庫）、P0479-22-PM、2025 年 11 月 22 日

15. 中村早桜里、岩井誓治、東山美結、田口光正、木村 敦、藤川俊一、大竹裕子、長井紀章: ヒアルロン酸併用点眼に伴う各種点眼液の薬物眼内動態変化: 油水分配係数と薬物眼内移行量の関係

第 35 回日本医療薬学会年会（兵庫）、P0207-22-PM、2025 年 11 月 22 日

16. 井上ゆり果、森 玲奈、大竹裕子、長井紀章: インドメタシンナノ結晶封入ハイドロゲル設計: 基剤の違いに伴う皮膚組織中薬物挙動の変化

第 35 回日本医療薬学会年会（兵庫）、22-8-O1*-5、2025 年 11 月 22 日

17. 田中理愛、原田綾子、和田多恵、竹田幹子、吉村昌徳、長濱 徹、大竹裕子、長井紀章: カルボポールを基剤としたイソコナゾール経皮適用ゲルの開発と皮膚浸透性挙動の評価

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）、P2-71、2025 年 10 月 4 日

18. 桑村亮太郎、出口貴浩、遠藤雄一、中澤洋介、大竹裕子、長井紀章: ナノサスペンション技術を核としたヘスペレチン経口処方の開発とその消化管吸収性評価

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）、P2-64、2025 年 10 月 4 日

19. 神尾あすか、酒井琢朗、田中 翔、大竹裕子、長井紀章: DEET の忌避効果延長を有する添加物の模索 — β -シクロデキストリンポリマーの有用性評価—

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）、P2-63、2025 年 10 月 4 日

20. 川端壮基、畑見理奈、大竹裕子、長井紀章: インドメタシン超微粒子を用いた経口錠剤の作成とその薬物放出挙動の評価

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）、P2-47、2025 年 10 月 4 日

21. 吉村彩葉、板東彩香、荻原美月、大竹裕子、長井紀章: フロセミド封入グミ製剤の製造: 超微粒子化と耐酸性製剤化に伴う薬物放出・吸収性の変化

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）、P2-42、2025 年 10 月 4 日

22. 富田佳那、長井紀章、村上正晃、田井中一貴、竹内雄一: 自然発症自己免疫疾患モデルマウスにおけるベンチレンテトラゾール誘発てんかんの増悪とその神経機序の解明

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）、P2-14、2025 年 10 月 4 日

23. 片山翔太、長井紀章、工藤信樹、竹内雄一: 視床下部への超音波刺激によるシリアンハムスターの冬眠様状態を誘導する装置の開発

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）、P2-13、2025 年 10 月 4 日

24. 東 里薫、野上 聡、吉森寅次郎、高橋隆二、大竹裕子、長井紀章: 各分散体の観点からみた葛根湯 湯剤と標準エキス製剤間の同等性評価

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）、P1-72、2025 年 10 月 4 日

25. 伊藤奈希、板橋瑞稀、太田光砂、佐々木彩乃、神谷昌樹、長井紀章、大竹裕子: 新規眼科用添加物の模索 —生体適合 MPC ポリマーはエビナスチン塩酸塩点眼液の眼表面滞留性を高める—

26. 沖田鋼季、中埜 尚、北代絵里、佐々木洋子、林 秀美、加藤和則、富岡佳久、長井紀章、佐谷秀行、丹羽眞一郎、益子 高: EMT 誘導時の癌関連膜タンパク質の発現変動解析
第 84 回日本癌学会学術総会（石川）、P-3215、2025 年 9 月 27 日
27. 長井紀章、谷口雅弥、伊藤 心、大竹裕子、酒井俊郎: レバミピド含有 O/W 型エマルジョンの作成と口腔粘膜炎症治療への応用
第 63 回日本油化学会年会（長野）、PP02、2025 年 9 月 5 日
28. 渡部茉依、大高裕也、杉内美咲、山下洋平、市川陽一郎、長井紀章、田島一樹、金井一享: ミルトジェノールのぶどう膜炎に対する炎症抑制機序の解明
第 168 回日本獣医学学術集会（宮崎）、JA-23、2025 年 9 月 3 日
29. 吉川武志、大高裕也、長井紀章、杉内美咲、山下洋平、市川陽一郎、田島一樹、金井一享: 5-アミノレブリン酸は角膜創傷治癒を促進する
第 168 回日本獣医学学術集会（宮崎）、JA-24、2025 年 9 月 3 日
30. 大竹裕子、山本哲志、山本直樹、宮田佳樹、長井紀章: 白内障予防法の確立を目指して：発症要因の解明と治療薬の開発
第 4 回眼科創薬研究会（東京）、S-1、2025 年 8 月 26 日
（シンポジウム講演）
31. 花栗潤哉、杉山瑠璃、横田陽匡、櫛山暁史、櫛山 櫻、長井紀章、宮田佳樹、山上 聡、長岡泰司: 2 型糖尿病マウスの網膜血流調節障害に対するノビレチン・ナノ点眼の効果
第 41 回日本眼循環学会（兵庫）、O-4、2025 年 7 月 19 日
32. 東 里薫、桑村亮太郎、出口貴浩、大竹裕子、遠藤雄一、金井一享、中澤洋介、山本直樹、佐々木 洋、長井紀章: ヘスペレチン点眼処方では亜セレン酸誘発白内障の進行を抑制する
第 64 回日本白内障学会総会・第 51 回水晶体研究会（石川）、O5-3、2025 年 7 月 20 日
33. 田中理愛、桑村亮太郎、東 里薫、大竹裕子、岡本紀夫、中澤洋介、Misra Manju、佐々木 洋、長井紀章: ラノステロール ナノサスペンション点眼は Piezo1 活性化に伴う水晶体硬化を修復する
第 64 回日本白内障学会総会・第 51 回水晶体研究会（石川）、O5-2、2025 年 7 月 20 日
34. 桑村亮太郎、田中理愛、出口貴浩、大竹裕子、遠藤雄一、中澤洋介、Misra Manju、佐々木 洋、長井紀章: 眼内組織を標的としたヘスペレチン点眼処方の検討とその角膜透過性評価
第 64 回日本白内障学会総会・第 51 回水晶体研究会（石川）、O5-1、2025 年 7 月 20 日
35. 大竹裕子: LC-MS/MS プロテオーム解析と薬物超微粒子化技術を基盤とした白内障治療戦略の模索
第 64 回日本白内障学会総会・第 51 回水晶体研究会（石川）、学術賞受賞記念講演、2025 年 7 月 19 日
36. 諏訪部 椋、田中靖子、長井紀章、山本直樹、佐々木 洋、松島博之、多胡めぐみ、中澤洋介: 核白内障発症における TRPV1 及び TRPV4 の寄与
第 64 回日本白内障学会総会・第 51 回水晶体研究会（石川）、O3-1、2025 年 7 月 19 日
37. 長井紀章、岩井誓治、中村早桜里、東山美結、大竹裕子、小林 滉、松田 将、岩切規郎: カチオン基×シクロデキストリン-共重合ポリマーの眼科用添加物としての可能性：レバミピド点眼液の物性と薬効に及ぼす影響
日本薬剤学会第 40 年会（東京）、24-6-07、2025 年 5 月 24 日

[研究報告書]

1. 長井紀章(代表): 眼疾患療法に向けた刺激応答型コロイドナノキャリア製剤の開発とその薬物動態の検討
令和 5-6 年度 日本学術振興会 二国間交流事業
2. 大竹裕子(代表): 肺全域への薬物送達を可能とする超微粒子ステロイド製剤の開発と新規肺炎療法への応用
令和 5-6 年度 文部科学省科学研究費補助金 若手研究

[外部助成]

1. 長井紀章(代表): 薬物ナノ粒子化技術を基盤としたコンタクト型デバイスの開発と網膜症治療への応用
令和 7-9 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
2. 長井紀章(分担): 炎症性細胞死パイロトーシスに着目した糖尿病網膜症の病態解明と新規ナノ粒子点眼治療
令和 7-9 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
3. 長井紀章(分担): モニタリングとシミュレーションに基づく環境温度と老視・白内障リスクの健康影響評価
令和 7-9 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (B)
4. 大竹裕子(代表): 肺全域を標的とした薬物ナノ粒子含有吸入粉末製剤の創製と肺動脈性肺高血圧症への応用
令和 7-9 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
5. 民間企業より受託研究および共同研究、寄附研究 13 件

[特許]

出願 3 件

[報償等]

1. 田中理愛: 優秀ポスター発表賞 受賞
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会 2025 年 10 月 22 日
2. 桑村亮太郎: 若手研究者トラベルグラント 受賞
第 64 回日本白内障学会総会・第 50 回水晶体研究会 2025 年 7 月 19 日
3. 田中理愛: 若手研究者トラベルグラント 受賞
第 64 回日本白内障学会総会・第 50 回水晶体研究会 2025 年 7 月 19 日
4. 東 里薫: 若手研究者トラベルグラント 受賞
第 64 回日本白内障学会総会・第 50 回水晶体研究会 2025 年 7 月 19 日
5. 大竹裕子: 2025 年度 (第 37 回) 日本白内障学会学術賞 受賞
日本白内障学会 2025 年 5 月 1 日

[教育・社会活動]

1. 長井紀章: 水晶体研究会 世話人
2015 年 4 月～
2. 長井紀章: 水晶体研究会 プログラム委員
2015 年 4 月～
3. 長井紀章: 日本白内障学会 編集委員
2016 年 8 月～
4. 長井紀章: 日本医療薬学会 代議員
2017 年 1 月～
5. 長井紀章: 日本眼薬理学会 評議員
2017 年 9 月～
6. 長井紀章: JPHCS 編集委員
2018 年 4 月～
7. 長井紀章: 日本白内障学会 評議員
2019 年 4 月～
8. 長井紀章: 日本白内障学会 第三者委員会 委員

	2019 年 4 月～2021 年 3 月
9. 長井紀章: 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員	2019 年 9 月～2024 年 3 月
10. 長井紀章: 近畿大学薬友会 理事	2020 年 4 月～2024 年 4 月
11. 長井紀章: 日本白内障学会 第三者委員会 委員長	2021 年 4 月～2022 年 3 月
12. 長井紀章: 日本眼薬理学会 総務委員	2022 年 4 月～
13. 長井紀章: 日本薬剤学会 代議員	2022 年 4 月～
14. 長井紀章: 日本白内障学会 理事	2022 年 4 月～
15. 長井紀章: 眼科創薬研究会 世話人	2023 年 1 月～
16. 長井紀章: 日本老視学会 理事	2023 年 1 月～
17. 長井紀章: Specialty Committee of TCM preparations (中药制剂专委会) 委員	2023 年 4 月～
18. 長井紀章: Specialty Committee of TCM Drug Delivery System (中药新型给药系统专委会) 委員	2023 年 4 月～
19. 長井紀章: 日本薬剤学会教育分科会 世話人	2023 年 5 月～
20. 長井紀章: 日本眼薬理学会 理事	2023 年 11 月～
21. 長井紀章: 近畿大学薬友会 副会長	2024 年 4 月～
22. 長井紀章: 水晶体研究会 代表世話人	2024 年 8 月～
23. 大竹裕子: 水晶体研究会 世話人	2025 年 7 月～
24. 大竹裕子: 日本薬学会物理系部会 若手世話人	2026 年 3 月～
25. 大竹裕子: 日本薬学会医療薬科学部会 若手世話人	2026 年 3 月～

病態分子解析学研究室

職・氏名・学位

教 授・多賀 淳・薬学博士
Atsushi Taga

担当科目：基礎化学(医 1 分担)、化学入門(医 1 分担)、薬学概論(医 1 オムニバス)、分析化学 3 (医 3 分担)、実践病態と治療(医 5 分担)、近大ゼミ(1)、基礎薬科学実習(1 分担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本糖質学会、日本癌学会、日本油化学会、日本分析化学会、クロマトグラフィー科学会

准教授・三田村 邦子・薬学博士
Kuniko Mitamura

担当科目：病態検査学(3)、生化学検査学(創 3)、近大ゼミ(1)、基礎薬科学実習(1 分担)、生化学検査学実習(創 3)

所属学会：日本薬学会、日本臨床化学会、日本医用マススペクトル学会、日本分析化学会、クロマトグラフィー科学会

准教授・山本 哲志・医学博士
Tetsushi Yamamoto

担当科目：細胞生物学(医 1)、解剖組織学(創 1)、近大ゼミ(1)、基礎薬科学実習(1 分担)、血液検査学 (創 2)、創薬インフォマティクス演習(創 2 分担)、血液検査学実習 (創 2)

所属学会：日本薬学会、日本癌学会、日本分子生物学会、日本医用マススペクトル学会、日本分子腫瘍マーカー研究会、米国臓臓学会、米国癌学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 由来及び高次構造の違いによるコラーゲンの機能性について
2. キャピラリー電気泳動による生体成分の新規分析法の開発と応用
3. 食品中機能性オリゴ糖の探索ならびに合成法
4. 無機性材料の分析法の最適化と新規用途の開拓
5. LC/MS による乾燥ろ紙尿中抱合型ステロイドホルモン定量法の開発
6. 食品中機能性成分の同定に関する研究
7. 生体試料中遊離脂肪酸の高感度測定法の開発
8. 天然甘味料を用いた新規大腸癌治療薬の開発
9. プロテオーム解析を用いた新規消化器癌診断マーカーの探索に関する研究
10. キャピラリー電気泳動を用いた糖鎖修飾を標的とした癌診断法の開発

研究業績

[原著論文]

1. Umezaki N, Boku S, Matsuo Y, Yamamoto T, Satake H, Watanabe M, Hirota K, Sugie T, Sekimoto M: Hypoxia and aspirin additively increase intracellular glutamine accumulation in PIK3CA-mutated colorectal cancer cells
Sci Rep., **16**(1), 9202, 2026 年 3 月
2. Takakura H, Miyamoto S, Yamamoto T, Nakao T, Taga A, Mutoh M, Oda K: Small RNA sequencing analysis identified miR159a as a novel candidate for activity in plant-derived nanovesicles

from limon, hassaku, and sudachi

Sci Rep., **16**(1), 8709, 2026 年 3 月

3. Yamamoto T, Boku S, Mitamura K, Taga A: Shotgun label-free proteomic analysis for identification of a potential diagnostic biomarker for pancreatic cancer

Biomedicines., **13**(11), 2631, 2025 年 10 月

[学会・シンポジウム]

1. 山本 哲志、山下 雅子、三田村 邦子、多賀 淳: 生乳粉末栄養補助食品が筋形成に与える影響の検討

日本薬学会第 146 年会、(大阪、関西大学)、2026 年 3 月 29 日

2. 高倉 英樹、宮本 真吾、山本 哲志、中尾 俊雅、鰐屋 隆博、多賀 淳、武藤 倫弘、小田 啓佑: 植物由来エクソソームライブラリー作成と対応する microRNA データベースを活用した大腸癌発癌との関連の検討

日本薬学会第 146 年会、(大阪、関西大学)、2026 年 3 月 28 日

3. 山本 哲志: 電気泳動による細胞分析法の開発と血中循環腫瘍細胞検出への応用
第 45 回キャピラリー電気泳動シンポジウム、(東京、昭和医科大学)、2025 年 12 月 12 日

4. Yamamoto T, Sakai M, Nakamura M, Mitamura K, Taga A: Anti-tumor effect of the extracts from tea seed residue after oil extraction on gastrointestinal cancer

第 84 回日本癌学会学術総会、(石川、石川県立音楽堂)、2025 年 9 月 25 日

5. Yamamoto T., Fukita H., Nishizawa R., Mitamura K., Taga A: The potentiality of capillary electrophoresis as a novel detection method for circulating tumor cells

AACR Annual Meeting 2025、(米国、シカゴ)、2025 年 4 月 28 日

[教育・社会活動]

1. 奈良県保健研究センター及び奈良県景観・環境総合センター調査研究評価委員 委員長

病態薬理学研究室

職・氏名・学位

教授・川畑 篤史・博士(薬学) 担当科目：近大ゼミ(1)、分子薬理学(医2、創2)、病態薬理学1(医2、創2)、薬効薬物動態解析学実習(医3、創3分担)
Atsufumi Kawabata

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本疼痛学会、日本神経科学学会、日本神経化学学会、日本神経精神薬理学会、International Association for the Study of Pain（国際疼痛学会）

准教授・関口 富美子・博士(薬学) 担当科目：近大ゼミ(1)、神経病態薬理学(医2、創2)、薬効薬物動態解析学実習(医3、創3分担)
Fumiko Sekiguchi

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本平滑筋学会、日本疼痛学会、日本神経科学学会、日本神経精神薬理学会、International Association for the Study of Pain（国際疼痛学会）、British Pharmacological Society（英国薬理学会）

准教授・坪田 真帆・博士(薬学) 担当科目：近大ゼミ(1)、基礎生物学(医1、創1)、生物学入門(医1、創1)、病態薬理学2(医3、創3)、薬効薬物動態解析学実習(医3、創3分担)
Maho Tsubota

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本疼痛学会、日本神経科学学会、日本神経精神薬理学会、Society for Neuroscience（北米神経科学学会）、International Association for the Study of Pain（国際疼痛学会）

現在行われている主な研究テーマ

1. 生体内硫化水素（H₂S）の分子機能と病態への関与に関する研究
2. Ca_v3.2 T型カルシウムチャンネルを標的とした創薬研究
3. 核内タンパク HMGB1 とその標的分子に関する創薬研究
4. 疼痛情報伝達の分子メカニズム解析と新規鎮痛薬の開発
5. 掻痒情報伝達の分子メカニズム解析と抗掻痒薬の開発

研究業績

[原著論文]

1. Kurahashi S, Miyamoto T, Nishikawa H, Mishima E, Matsunaga S, Kino S, Ashida T, Minamino R, Nishiyama I, Yamaguchi M, Yamamoto T, Sakakibara M, Okada T, Toyooka N, Tsubota M, Sekiguchi F, Kawabata A : Involvement of Ca_v3.2 T-Type Ca²⁺ channels and the role of endogenous estrogen in pruritus: evidence from a fundamental study and cross-sectional analysis of pharmacy claims data
Biol. Pharm. Bull., **49**(3), 480-490, 2026 年 3 月
2. Yamamoto T, Miyamoto T, Iwane S, Nemoto W, Sakakibara M, Tsubota M, Sekiguchi F, Tan-No K, Kawabata A : Effectiveness of angiotensin system inhibitors against painful peripheral neuropathy in Type 2 diabetic old patients: validation by analysis of pharmacy claims data
YAKUGAKU ZASSHI, **145**(12), 975-982, 2025 年 12 月
3. Yamamoto T, Kasanami Y, Miyamoto T, Matzno S, Sakakibara M, Kawabata A : Identification of potentially inappropriate medications characteristic of older individuals with diabetes: a study using pharmacy claims data
J. Pharmaceut. Health Care Sci., **11**(1), 100, 2025 年 11 月
4. Maruo K, Tsubota M, Tajima K, Matsunaga H, Sekiguchi F, Minami T, Ito A, Tomono Y, Nishibori M, Kawabata A : Thrombomodulin-Induced Prevention of Peripheral Neuropathy in Oxaliplatin-Treated Mice Involves Complement C5a Inactivation and PAR1 Activation in Addition To HMGB1 Degradation.
J. Neuroimmune Pharmacol., **20**(1), 100, 2025 年 11 月
5. Sekiguchi F, Nakatake Y, Adachi A, Tsubota M, Tomono Y, Nishibori M, Kawabata A : HMGB1-Induced Neurite Outgrowth in the Dorsal Root Ganglion Neurons and Regeneration Priming after their Axonal Injury by Sciatic Nerve Crush.

6. Tsubota M, Sasaki K, Shin E, Okamura Y, Nishimura A, Yamagata A, Nonaka Y, Sekiguchi F, Tomono Y, Nishibori M, Okada T, Toyooka N, Kawabata A : HMGB1 derived from macrophages and enteric glial cells contributes to the butyrate-induced colonic hypersensitivity in mice.

Eur. J. Pharmacol., **999**, 177660-177660, 2025 年 7 月

[学会・シンポジウム]

1. 石倉優斗、三井鈴華、坪田真帆、関口富美子、岡田卓哉、豊岡尚樹、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：線維筋痛症モデルマウスにおいて後肢アロディニアに伴う結腸過敏の発現には HMGB1 による RAGE 活性化が関与する

日本薬学会第 146 年会（吹田）、2026 年 3 月 26-29 日

2. 許 喬仔、関 千咲斗、岸本彩野、坪田真帆、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑 篤史：オキサリプラチンによって誘起される巨核球—血小板系 HMGB1 の挙動：化学療法誘発性末梢神経障害への関与

日本薬学会第 146 年会（吹田）、2026 年 3 月 26-29 日

3. 川畑篤史：痛覚変調性疼痛と核内タンパク HMGB1.

第 99 回日本薬理学会年会（仙台）、2026 年 3 月 16-18 日

4. 坪田真帆、川畑篤史：HMGB1 を標的とした過敏性腸症候群治療の新たな可能性

第 99 回日本薬理学会年会（仙台）、2026 年 3 月 16-18 日

5. 三井鈴華、岸本彩野、坪田真帆、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：酸性生食片脚筋注による線維筋痛症モデルマウスにおける両足アロディニアへの骨髄系細胞・血小板複合体の関与

第 99 回日本薬理学会年会（仙台）、2026 年 3 月 16-18 日

6. 関口富美子、大屋紅葉、坪田真帆、宮本朋佳、木口倫一、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：マウスにおけるドセタキセル誘発性末梢神経障害への HMGB1 の関与とアンドロゲンの影響

第 99 回日本薬理学会年会（仙台）、2026 年 3 月 16-18 日

7. 宮本朋佳、関口富美子、坪田真帆、桂木聡子、木口倫一、川畑篤史：前立腺がん患者におけるドセタキセル誘発性末梢神経障害に及ぼすホルモン療法の影響：リアルワールドデータ解析から得られた知見

第 99 回日本薬理学会年会（仙台）、2026 年 3 月 16-18 日

8. 岩根詩織、宮本朋佳、田中雅幸、辻 敏和、坪田真帆、関口富美子、川畑篤史：パクリタキセル誘発性末梢神経障害に及ぼすグリチルリチンとミノサイクリンの臨床効果：リアルワールドデータ解析からの知見

第 99 回日本薬理学会年会（仙台）、2026 年 3 月 16-18 日

9. 畠山司、坪田真帆、宮本朋佳、関口富美子、川畑篤史：Thrombomodulin alfa は oxaliplatin 誘起末梢神経障害マウスにおける便秘を抑制する。

第 99 回日本薬理学会年会（仙台）、2026 年 3 月 16-18 日

10. Fumiko Sekiguchi, Kureha Oya, Maho Tsubota, Tomoyoshi Miyamoto, Yasuko Tomono, Masahiro Nishibori, Atsufumi Kawabata. Chemotherapy-induced peripheral neuropathy in mice treated with docetaxel: involvement of macrophage-derived high mobility group box 1 (HMGB1) and aggravation by chemical castration with degarelix.

Pharmacology 2025 [Belfast (Northern Ireland), UK.], 2025 年 12 月 16-18 日

11. 関口富美子、迫 桃子、青木葉優衣、谷津健太、角川志帆、喜多 翔、朝倉菜月、坪田真帆、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：Vincristine 誘発性末梢神経障害におけるマクロファージおよび Schwann 細胞由来 HMGB1 の役割と局所凝固系活性化の病態生理学的意義について

JAPAN PAIN WEEK（第 47 回日本疼痛学会）（東京）、2025 年 12 月 4-6 日

12. 坪田真帆、市川美咲、関 千咲斗、Hsu Chiaoyu、岸本彩野、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：Oxaliplatin 誘発性末梢神経障害の発現には血小板および好中球由来 HMGB1 が関与する

JAPAN PAIN WEEK（第 47 回日本疼痛学会）（東京）、2025 年 12 月 4-6 日

13. 関 千咲斗、岸本彩野、坪田真帆、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：Oxaliplatin 誘発性末梢神経障害における血小板由来 HMGB1 の役割と脊髄グリア細胞活性化の解析
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京田辺）、2025 年 10 月 4 日
14. 石倉優斗、三井鈴華、坪田真帆、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：線維筋痛症モデルマウスにおける結腸過敏：核内タンパク HMGB1 の関与について
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京田辺）、2025 年 10 月 4 日
15. Maho Tsubota, Rinka Mitsui, Fumiko Sekiguchi, Masahiro Nishibori, Atsufumi Kawabata (Presenter) : Soluble thrombomodulin reverses allodynia in animal models for fibromyalgia.
9th International Congress on Neuropathic Pain (NeuPSIG2025) (Berlin), 2025 年 9 月 4-6 日
16. Tomoyoshi Miyamoto, Takeshi Nakamura, Shiori Iwane, Maho Tsubota, Fumiko Sekiguchi, Takeshi Kimura, Satoko Katsuragi, Atsufumi Kawabata : Anticoagulants and plasma hypocoagulability exacerbate chemotherapy-induced peripheral neuropathy: validation of basic research evidence by real world data analysis.
9th International Congress on Neuropathic Pain (NeuPSIG2025) (Berlin), 2025 年 9 月 4-6 日
17. Shotaro Kurahashi, Tomoyoshi Miyamoto, Maki Yamaguchi, Takashi Yamamoto, Mikio Sakakibara, Atsufumi Kawabata (Presenter) : Estrogen suppressant prescription negatively associated with topical steroid use and itch in females: Evidence from analyses of pharmacy claims data and adverse drug reaction database
83rd FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences. 2025, 8, 31- 9, 3, Copenhagen
18. Tomoyoshi Miyamoto, Takeshi Nakamura, Maho Tsubota, Fumiko Sekiguchi, Takeshi Kimura, Satoko Katsuragi, Atsufumi Kawabata : Association between chemotherapy-induced peripheral neuropathy and functional bowel disorders in cancer patients undergoing oxaliplatin-based chemotherapy: Evidence from real world data analysis.
83rd FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences (Copenhagen),
2025 年 8 月 31 日- 9 月 3 日
19. 川畑篤史：難治性疼痛の発症・維持における神経-免疫-止血系ネットワークの役割. シンポジウム「難治性疼痛と掻痒の病態解明と治療薬開発に関する最新の研究展開」
生体機能と創薬シンポジウム 2025（仙台）、2025 年 8 月 28-29 日
20. 坪田真帆、市川美咲、関千咲斗、岸本彩野、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：オキサリプラチン誘発性末梢神経障害における好中球および血小板の挙動と HMGB1 遊離細胞としての可能性
第 52 回日本毒性学会（沖縄）、2025 年 7 月 2-4 日
21. 関口富美子、迫 桃子、青木葉優衣、谷津健太、角川志帆、喜多 翔、朝倉菜月、坪田真帆、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：マウスにおける vincristine 誘発末梢神経障害への HMGB1 の関与と局所凝固系活性化の影響：マクロファージおよび Schwann 細胞の役割。
第 52 回日本毒性学会（沖縄）、2025 年 7 月 2-4 日
22. 坪田 真帆、市川 美咲、関 千咲斗、Hsu Chiaoyu、岸本 彩野、関口 富美子、友野靖子、西堀 正洋、川畑 篤史：Oxaliplatin 誘発性末梢神経障害への血小板および好中球由来 HMGB1 の関与。
第 147 回日本薬理学会近畿部会（名古屋）、2025 年 6 月 7 日
23. 倉橋翔太郎、宮本朋佳、西川裕之、三嶋絵美莉、木野志織、蘆田明也、山口真希、山本卓資、榊原幹夫、川畑篤史：痒みに及ぼすエストロゲンの影響：マウスを用いる基礎研究とリアルワールドデータを用いるヒトでの解析から得られたエビデンス
第 147 回日本薬理学会近畿部会（名古屋）、2025 年 6 月 7 日
24. 宮本朋佳、中村豪志、坪田真帆、関口富美子、木村健、桂木聡子、川畑篤史：ヒトにおけるオキサリプラチン誘発性末梢神経障害と下部消化管機能障害の関連性：病院の診療録と医療ビッグデータを用いた後ろ向きコホート研究
第 147 回日本薬理学会近畿部会（名古屋）、2025 年 6 月 7 日

[外部助成]

1. 川畑篤史（代表）：巨核球・血小板系由来 HMGB1 の各種難治性疼痛への関与
令和 6-8 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）
2. 関口富美子（代表）：シュワン細胞における血液凝固系因子の発現変化と神経障害性疼痛の関係
令和 5-7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）
3. 坪田真帆（代表）：HMGB1 が関与する腸神経障害と排便異常の病態解析
令和 7-9 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）
4. 川畑篤史（代表）：線維筋痛症における神経-免疫-止血系ネットワークの役割とそれを標的とする治療シー
ズに関する研究
令和 7-9 年度 AMED 慢性の痛み解明研究開発事業

[報償等]

1. 石倉優斗：日本薬学会第 146 年会 学生優秀発表賞（口頭発表）
日本薬学会第 146 年会（吹田）、2026 年 3 月 26-29 日
2. 許 喬仔：日本薬学会第 146 年会 学生優秀発表賞（ポスター発表）
日本薬学会第 146 年会（吹田）、2026 年 3 月 26-29 日
3. 三井鈴華：第 99 回日本薬理学会年会 年会優秀発表賞
第 99 回日本薬理学会年会（仙台）、2026 年 3 月 16-18 日
4. 坪田真帆：Japan Pain Week 2025（第 47 回日本疼痛学会）最優秀演題賞
JAPAN PAIN WEEK（第 47 回日本疼痛学会）（東京）、2025 年 12 月 4-6 日
5. 石倉優斗：第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会 優秀ポスター発表
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京田辺）、2025 年 10 月 4 日

[教育・社会活動]

1. 川畑篤史：日本薬理学会評議員
1994 年 4 月～
2. 川畑篤史：日本疼痛学会評議員
2000 年 4 月～
3. 関口富美子：日本薬理学会評議員
2002 年 4 月～
4. 関口富美子：日本平滑筋学会評議員
2002 年 4 月～
5. 坪田真帆：日本薬理学会評議員
2015 年 4 月～
6. 坪田真帆：日本薬学会薬理系薬学部会 若手世話人
2013 年 4 月～
7. 坪田真帆：日本薬理学会次世代の会 運営委員
2021 年 4 月～
8. 坪田真帆：Pain Res 誌投稿推進委員会 委員
2024 年 4 月～

薬物治療学研究室

職・氏名・学位

教授・竹内 雄一・博士(理学)
Yuichi Takeuchi

担当科目：薬学概論（医 1 分担）、近大ゼミ（1）、疾患と薬物治療法 1（医 3）、疾患と薬物治療法 2（医 3）、疾患と薬物治療法 3（医 4）、総合演習 1（医 4 分担）、総合演習 2（医 6 分担）、薬効薬物動態解析実習（医 3、創 3 分担）、疾患の検査診断学（創 2）、疾患の検査と治療法 1（創 3）、疾患の検査と治療法 2（創 3）、病理学（創 3）

所属学会：日本薬理学会、日本神経科学会、日本生理学会、北米神経科学学会、日本神経回路学会、日本薬学会

助教・ミシェル チャン・PhD
Michele Chan

担当科目：近大ゼミ(1)、生物学英語(医 2)、薬効薬物動態解析実習（医 3、創 3 分担）、臨床薬学英語(医 2)、総合演習 1（医 4 分担）、総合演習 2（医 6 分担）

所属学会：日本神経科学会、European Brain and Behaviour Society (EBBS)、FENS

現在行われている主な研究テーマ

1. 脳活動操作による神経・精神疾患の制御
2. 新しい非侵襲的脳刺激法の研究開発
3. 自律神経系の操作による疾患制御法の研究開発
4. 適切な行動選択の神経基盤
5. 神経回路ダイナミクスの大規模シミュレーション

研究業績

[原著論文]

1. Xu Y, Chan M, Minami M, Takeuchi Y: Closed-loop heart rate regulation based on medulla stimulation.
bioRxiv 2025.11.29.691268. DOI: <https://doi.org/10.64898/2025.11.29.691268>

[著書]

1. Chan M, Yoshida K, Yang G, Mimura T, Li Q, Kudo N, Takeuchi Y: Time-targeted intervention of brain oscillations with transcranial ultrasound irradiation. Time-targeted intervention of brain oscillations with transcranial ultrasound irradiation.
Neuromethods, Springer Nature, London, *in press*
2. 吉田楓, Michele Chan, Gangsheng Yang, 工藤信樹, 竹内雄一: 超音波ニューロモデュレーション法の研究開発、超音波テクノ
pp. 43-47、日本工業出版、2025 年 8 月
3. 竹内雄一: 時間標的脳深部刺激法による神経・精神疾患の制御法開発、ブレインサイエンスレビュー 2025
pp. 127-142、北隆館、2025 年 4 月
4. 吉田楓, 原巧樹, 竹内雄一: 閉ループ制御と非侵襲的脳刺激技術による新規てんかん制御法の研究開発、てんかん研究最前線
pp. 82-85、北隆館、2025 年 4 月

[学会・シンポジウム]

1. Shimojo M, Matsushita Y, Yoshida K, Yoshiya M, Shimizu T, Tsukamoto S, Kudo N, Takeuchi Y, Higuchi M, : Ultrasound-induced neuromodulation of cortical neurons through TRPC6 channel activation.
The SfN Annual Meeting. San Diego, U.S.A. Nov 15-19, 2025.
2. Matsushita Y, Yoshida K, Yoshiya M, Shimizu T, Tsukamoto S, Kudo N, Takeuchi Y, Higuchi M, Shimojo M

- : TRPC6 ion channels mediate neural activation induced by ultrasonic acoustic radiation force.
The SfN Annual Meeting. San Diego, U.S.A. Nov 15-19, 2025.
3. Chan M, Takeuchi Y: Increased impulsive decision-making resulting from inhibition of the prefrontal cortices in Long-Evans rats.
International Symposium of Unified Theory of Prediction and Action 2026、2025 年 3 月 13 日
 4. 下條雅文、松下有美、吉田楓、吉屋美雪、清水敬宏、塚本智史、工藤信樹、竹内雄一、樋口真人：
TRPC6 チャネルを介したマウス大脳神経細胞の超音波応答メカニズム
日本超音波医学会第 98 回学術集会、京都、May 30, 2025.
 5. Yoshida K, Matsushita Y, Kudo N, Minami M, Shimojo M, Takeuchi Y: Non-invasive cell type-specific neuromodulation using a sonogenetic technology.
The 48th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society. Niigata, Japan. Jul 24, 2025
 6. Chan M, Takeuchi Y: Chemogenetic inhibition of the prefrontal cortices in Long-Evans rats induces impulsive decision-making via the reduction of limbic beta and gamma frequency oscillations.
The 48th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society. Niigata, Japan. Jul 24, 2025.
 7. Takeuchi Y: Research and development of novel brain stimulation technologies for controlling neurological and psychiatric disorders.
Gordon Research Conference: In Vivo Ultrasound Imaging 2024 (Waterville valley, U.S.A)、2024 年 8 月 25 日
 8. Yang G, Kudo N, Minami M, Takeuchi Y: Development of a transcranial focused ultrasound irradiation system for a deep brain region with electrophysiological neural recordings in anesthetized rats.
The 48th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society. Niigata, Japan. Jul 25, 2025.
 9. Kobayashi N, Chan M, Kudo N, Takeuchi Y : Toward Sonogenetics: exogenous mechanosensitive channel expression in cortical neurons via a non-invasive gene delivery technology.
The 48th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society. Niigata, Japan. Jul 25, 2025.
 10. 片山翔太、長井紀章、工藤信樹、竹内雄一： 視床下部への超音波刺激によるシリアンハムスターの冬眠様状態を誘導する装置の開発。
第 75 回日本薬学会関西支部大会、京都、Oct 4, 2025.
 11. 富田佳那、長井紀章、村上正晃、田井中一貴、竹内雄一： 自然発症自己免疫疾患モデルマウスにおけるペンチレンテトラゾール誘発てんかんの増悪とその神経機序の解明。
第 75 回日本薬学会関西支部大会、京都、Oct 4, 2025.
 12. 原巧樹、森本小晴、田井中一貴、南雅文、村上正晃、竹内雄一： ミエリンオリゴデンドロサイト糖タンパク感作 T 細胞の静脈内投与によるマウスてんかんモデルにおけるてんかん病態悪化。
第 99 回日本薬理学会年会、仙台、Mar 16, 2026.

〔研究報告書〕（科研の報告書など）

1. 竹内雄一（代表）：非侵襲的脳深部刺激によるうつ病の制御
令和 5 年度 寿原記念財団 研究成果報告書
2. 竹内雄一（代表）：発作感受性消去によるてんかん根治療法の開発
島津科学技術振興財団 2022 年度採択研究成果報告書
3. 竹内雄一（代表）：経頭蓋脳深部刺激法によるてんかん発作の制御
鈴木謙三記念医科学応用研究財団 2023 年度受領者研究報告

〔外部助成〕（科研や企業の奨学研究予算など、研究タイトルの非公開も可）

1. 竹内雄一（代表）：経頭蓋脳深部刺激による発作感受性消去
令和 5 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（B）

2. 竹内雄一(代表): 経頭蓋遺伝子操作法の研究開発
令和5年度 文部科学省科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)
3. 竹内雄一(代表): 冬眠様低代謝状態を可能にする遺伝的条件の高効率探索法
令和6年度 文部科学省科学研究費補助金 学術変革領域研究(A)
4. 竹内雄一(分担): クローズドループ刺激による非侵襲的 Deep Brain リハビリテーションの創生
令和5年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A)
5. 竹内雄一(分担): 周期的脳活動に着目した痛みの慢性化機構の解明と慢性疼痛緩和療法の開発への応用
令和6年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)
6. 竹内雄一(代表): 超音波センシングによる非侵襲的かつ時空間特異的な内臓機能の精密制御
令和4年度 AMED Prime
7. 竹内雄一(分担): 病気につながる血管周囲の微小炎症を標的とする量子技術、ニューロモデュレーション医療による未病時治療法の開発
令和3年度 AMED ムーンショット型研究開発事業
8. 竹内雄一(代表): 経頭蓋脳深部刺激による発作感受性消去
令和6年度 小野薬品がん・免疫・神経研究財団 研究助成金
9. 竹内雄一(代表): 非侵襲的脳深部刺激法による食の喜び回復法
令和6年度 ロッテ財団 奨励研究助成
10. 竹内雄一(代表): 経頭蓋脳深部刺激によるてんかん根治療法の創出
令和6年度 上原記念生命科学財団 研究推進特別奨励金
11. 竹内雄一(代表): 非侵襲的脳深部刺激によるうつ病の制御
令和6年度 アステラス病態代謝研究会 研究助成
12. ミシェル チャン(代表): Elucidating the contribution of risk-perception and reward-value during optimal decision-making
令和7年度 文部科学省科学研究費補助金 若手研究(B)

[報償等](所属学生を受賞も含めます)

1. 該当無し

[教育・社会活動] (出張講義、大学説明会、学部を代表して出席した会合、企業講演会、公職、学外役員などの他、新たな講義方法なども記載)

1. 竹内雄一: 日本生理学会 評議員 2020年3月～
2. 竹内雄一: Frontiers in Human Neuroscience ゲスト編集委員 2020年11月～
3. 竹内雄一: 日本薬理学会 学術評議員 2021年3月～
4. 竹内雄一: Frontiers in Behavioral Neuroscience レビュー編集委員 2023年5月～
5. 竹内雄一: 国際生理学会連合 国際メンタリングプログラム メンター 2023年11月～
6. 竹内雄一: 北海道大学大学院薬学研究院 客員教授 2024年4月～
7. 竹内雄一: 北海道大学大学院薬学研究院 招へい教員 2024年4月～
8. 竹内雄一: Frontiers in Neurology ゲスト編集委員 2025年10月～
9. 竹内雄一: 日本神経科学学会 評議員 2026年1月～

薬物動態学研究室

職・氏名・学位

教 授・櫻井 文教・博士(薬学)
Fuminori Sakurai

担当科目：薬物動態学 1(医 3), 薬物動態学 2(医 3), 総合演習 1(医 4), 総合演習 2(医 6), 総合薬学研究 1(医 3), 総合薬学研究 2(医 4), 総合薬学研究 3(医 4~6), 臨床薬学実務実習(医 4~5), 薬効薬物動態解析実習(医 3 分担), 近大ゼミ(1), 創薬科学実習 4(創 3 分担), 卒業研究(創 3~4)

所属学会：日本薬剤学会、日本薬物動態学会、日本核酸医薬学会、日本遺伝子細胞治療学会、日本薬学会、日本 DDS 学会、日本癌学会、日本ウイルス学会

准教授・川瀬 篤史・博士(薬学)
Atsushi Kawase

担当科目：臨床薬物動態学(医 3), 総合演習 1(医 4), 総合演習 2(医 6), 総合薬学研究 1(医 3), 総合薬学研究 2(医 4), 総合薬学研究 3(医 4~6), 臨床薬学実務実習(医 4~5), 薬効薬物動態解析実習(医 3 分担), 近大ゼミ(1), 創薬科学実習 4(創 3 分担), 卒業研究(創 3~4)

所属学会：American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬剤学会、日本毒性学会

講 師・島田 紘明・博士(薬学)
Hiroaki Shimada

担当科目：薬物動態学(創 3), 薬学専門英語(創 3), 総合演習 2(医 6), 総合薬学研究 1(医 3), 総合薬学研究 2(医 4), 総合薬学研究 3(医 4~6), 臨床薬学実務実習(医 4~5), 薬効薬物動態解析実習(医 3), 近大ゼミ(1), 創薬科学実習 4(創 3 分担), 卒業研究(創 3~4)

所属学会：日本薬学会、日本薬物動態学会、日本脂質生化学会、日本生薬学会、日本薬剤学会、日本毒性学会、日本免疫毒性学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 腫瘍溶解性ウイルスによる Damage-associated molecule patterns の放出
2. 腫瘍溶解性ウイルスによる PGE2 産生
3. 腫瘍溶解性ウイルスの Epithelial-mesenchymal transition (EMT)を起こしたがん細胞に対する殺細胞効果
4. レオウイルスは併用薬の体内動態決定因子にどのように影響するのか？
5. マイクロプラスチックが薬物代謝酵素・トランスポーターに及ぼす影響
6. 肝臓内の PGE2 動態制御による肝細胞への PGE2 の効率的送達

研究業績

[原著論文]

1. Shimada H, Sasai K, Manse Y, Morikawa T, Ueno S, Iwaki M: Inhibitory Effect of Ilex Latifolia Leaf Extract on Postprandial Increase in Blood Glucose Level
Trad Kampo Med, **12**, 135-142, 2025 年 5 月
2. Ono R, Tokuoka S, Tachibana M, Ishii KJ, Sakurai F, Mizuguchi H: Oncolytic adenovirus serotype 35 mediated tumor growth suppression via efficient activation of antitumor immunity
J Immunother Cancer, **13**, e006558, 2025 年 7 月
3. Ishigami I, Shimada H, Ihara A, Kawase A, Mizuguchi H, Sakurai F: Oncolytic Reovirus-Induced Prostaglandin E2 Production in Human Tumor Cells
Biol Pharm Bull, **48**, 1876-1886, 2025 年 10 月

[学会・シンポジウム]

1. 櫻井文教、山下唯、石神育歩、島田紘明、水口裕之、川瀬篤史: 腫瘍溶解性ウイルスであるレオウイルスは上皮間葉転換を起こしたがん細胞に対し高い殺細胞効果を示す

第 41 回日本 DDS 学会 (千葉) 2025 年 6 月

2. 川瀬篤史、大上匠矢、竇彦欽、島田紘明、石井健、櫻井文教：腫瘍溶解性ウイルスであるレオウイルスが肝臓の薬物代謝酵素の発現・活性に及ぼす影響に関する検討
第 41 回日本 DDS 学会 (千葉) 2025 年 6 月
3. 井原綾花、島田紘明、石神育歩、水口裕之、櫻井文教：レオウイルスが腫瘍細胞のプロスタグランジン E2 産生に与える影響とその意義
第 67 回日本脂質生化学会 (東京) 2025 年 6 月
4. 薮内優介、島田紘明、太田原彩花、川瀬篤史、櫻井文教：肝細胞に作用するプロスタグランジン E2 の量を増大させる手法の検討
第 67 回日本脂質生化学会 (東京) 2025 年 6 月
5. 櫻井文教、前田湧斗、江口真帆、石神育歩、種昂なお実、立花雅史、島田紘明、川瀬篤史、石井健、水口裕之：レオウイルス感染腫瘍細胞より放出される DAMPs が抗腫瘍効果に及ぼす影響に関する検討
第 31 回日本遺伝子細胞治療学会(東京) 2025 年 7 月
6. 櫻井文教、山下唯、石神育歩、島田紘明、水口裕之、川瀬篤史：上皮間葉転換を起こしたがん細胞に対するレオウイルスの殺細胞効果に関する検討
第 31 回日本遺伝子細胞治療学会 (東京) 2025 年 7 月
7. 櫻井文教、中川可奈子、石神育歩、島田紘明、川瀬篤史、水口裕之：Hairpin 構造を有する RNA 医薬による線維化抑制効果に関する検討
日本核酸医薬学会 第 10 回年会(兵庫) 2025 年 7 月
8. 中尾 美心、川瀬 篤史、禹 閏植、島田紘明、櫻井 文教：マイクロプラスチックの粒子径および表面修飾が肝臓・小腸の薬物代謝酵素に及ぼす影響
第 19 回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム (京都) 2025 年 9 月
9. 大上 匠矢、川瀬 篤史、竇 彦欽、島田紘明、石井 健、櫻井 文教：腫瘍溶解性ウイルスであるレオウイルスによる肝薬物代謝酵素の変動と調節機構の検討
第 19 回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム (京都) 2025 年 9 月
10. 西田 就宣、島田紘明、吉田 徳幸、川瀬 篤史、山本 武範、井上 貴雄、櫻井 文教：アデノ随伴ウイルスベクターによる自然免疫活性化評価系の確立に関する検討
第 19 回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム (京都) 2025 年 9 月
11. 前田 湧斗、江口 真帆、石神 育歩、種昂 なお実、立花 雅史、島田紘明、川瀬 篤史、石井 健、水口 裕之、櫻井 文教：レオウイルスによる Damage-associated molecular patterns の放出が抗腫瘍免疫活性化に及ぼす影響に関する検討
第 19 回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム (京都) 2025 年 9 月
12. 森永真衣、石神育歩、島田紘明、川瀬篤史、水口裕之、櫻井文教：腫瘍溶解性ウイルスであるレオウイルスを用いた内皮間葉転換の抑制
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会 (京都) 2025 年 10 月
13. 中村紀映、和田佑哉、夏川美結、出口貴浩、島田紘明、遠藤雄一：Ocimum gratissimum の葉が有する α -amylase 阻害活性成分の検討
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会 (京都) 2025 年 10 月
14. 前田湧斗、江口真帆、石神育歩、種昂なお実、立花雅史、島田紘明、川瀬篤史、石井 健、水口裕之、櫻井文教：レオウイルスによる免疫細胞の腫瘍内浸潤促進メカニズムの解明に関する検討
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会 (京都) 2025 年 10 月
15. 山下 唯、島田紘明、川瀬篤史、櫻井文教：上皮間葉転換を起こしたがん細胞に対するレオウイルスの殺細胞効果に関する検討
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会 (京都) 2025 年 10 月
16. 中川可奈子、石神育歩、島田紘明、川瀬篤史、水口裕之、櫻井文教：ヘアピン構造を有した一本鎖 RNA 医

17. 島田 紘明、生田博之、橋本悠、川瀬篤史、櫻井文教: アシルグルクロン酸抱合体による特異体質性薬物毒性を予測・回避する手法の確立

第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会 (京都) 2025 年 10 月

18. 藪内 優介、島田 紘明、太田原彩花、川瀬 篤史、櫻井 文教: 肝臓におけるプロスタグランジン E2 消失の定量分析

日本薬物動態学会第 40 回年会 (京都) 2025 年 10 月

19. 島田 紘明、生田 博之、橋本 悠、藪内 優介、川瀬 篤史、岩城 正宏、櫻井 文教: ヒト肝ミクロソーム中 AG 加水分解と特異体質性薬物毒性リスクの関連性

日本薬物動態学会第 40 回年会 (京都) 2025 年 10 月

20. 島田紘明、藪内優介、川瀬篤史、櫻井文教: 肝臓内におけるアラキドン酸の代謝経路

第 46 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム (滋賀) 2025 年 11 月

21. 堺 清楓、森永 真衣、石神 育歩、島田 紘明、川瀬 篤史、水口 裕之、櫻井 文教: 腫瘍溶解性ウイルスであるレオウイルスによる内皮間葉転換の抑制

日本薬学会第 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月

22. 中山 舞雪、川瀬 篤史、中尾 美心、禹 閏植、芳賀 優弥、堤 康央、島田 紘明、櫻井 文教: マイクロプラステック粒子サイズと表面修飾が薬物代謝酵素に及ぼす影響

日本薬学会第 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月

23. 大上 匠矢、川瀬 篤史、竇 彦欽、島田 紘明、石井 健、櫻井 文教: 腫瘍溶解性ウイルスであるレオウイルスによる肝薬物代謝酵素の変動および制御機構の検討

日本薬学会第 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月

24. 本間 咲瑛、山下 唯、堺 清楓、島田 紘明、川瀬 篤史、櫻井 文教: 腫瘍溶解性ウイルスであるレオウイルスは上皮間葉転換を起こしたがん細胞を高効率に死滅させる

日本薬学会第 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月

25. 藪内 優介、島田 紘明、川瀬 篤史、櫻井 文教: 肝臓における PGE2 消失機構の解明とその制御による急性肝障害の抑制

日本薬学会第 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月

26. 藪内 優介、島田 紘明、川瀬 篤史、櫻井 文教: 肝臓における PGE2 消失機構の解明とその制御による急性肝障害の抑制

日本薬学会第 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月

27. 井原 綾花、島田 紘明、石神 育歩、二澤 侑輝、川瀬 篤史、水口 裕之、櫻井 文教: レオウイルス作用による腫瘍細胞におけるプロスタグランジン E2 産生の誘導およびそのレオウイルス耐性への関与

日本薬学会第 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月

28. 吉井 愛実、島田 紘明、川瀬 篤史、櫻井 文教: レオウイルス作用による腫瘍細胞におけるプロスタグランジン E2 産生の誘導およびそのレオウイルス耐性への関与

日本薬学会第 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月

29. 島田 紘明、川瀬 篤史、櫻井 文教: 肝臓内におけるプロスタグランジン E2 量の調節機構

日本薬学会第 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月

[外部助成]

1. 櫻井文教(代表): 腫瘍溶解性ウイルスを用いた人工受容体のがん特異的発現による高効率ターゲティング
令和 6 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A)

2. 櫻井文教(分担): 難治性がん治療用デザイナー細菌の開発
令和 2 年度 文部科学省科学研究費補助金: 基盤研究(B)

3. 櫻井文教(分担): 蛍光蛋白導入レオウイルスを用いた診断治療一体型 **Oncolytic Virotherapy** の開発
令和4年度 文部科学省科学研究費補助金: 基盤研究(B)
4. 櫻井文教(分担): アデノ随伴ウイルスベクターを用いた遺伝子治療用製品の安全性評価法に関する研究
令和6年度 日本医療研究開発機構: 医薬品等規制調和・評価研究事業
5. 櫻井文教(代表): 肺および肝臓の線維化治療に向けた新規核酸医薬の開発
令和6年度 公益財団法人 喫煙科学研究財団 助成事業
6. 川瀬篤史(代表): マイクロプラスチックが肝薬物代謝酵素に及ぼす影響の解析とその制御法の開発
令和7年度 公益財団法人 鈴木謙三記念医科学応用研究財団 研究助成金

[報償等]

1. 島田紘明: 2025年度 日本薬学会関西支部奨励賞 受賞

日本薬学会関西支部 2026年1月

[教育・社会活動]

1. 櫻井文教: 日本遺伝子細胞治療学会 若手ワーキンググループメンバー
2016年7月～
2. 櫻井文教: 日本DDS学会 評議員
2017年8月～
3. 櫻井文教: 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員
2022年4月～
4. 櫻井文教: 日本遺伝子細胞治療学会 評議員・幹事
2022年8月～
5. 櫻井文教: 日本薬学会 Biol. Pharm. Bull 編集委員
2023年4月～
6. 櫻井文教: 日本薬物動態学会 DIS 世話人
2025年1月～
7. 櫻井文教: 日本薬剤学会第41年会 組織委員
2025年1月～
8. 櫻井文教: 第41回日本DDS学会学術集会 プログラム委員
2025年1月～
9. 櫻井文教: 第32回日本遺伝子細胞治療学会学術集会 プログラム委員
2026年1月～
10. 川瀬篤史: トランスポーター研究会幹事
2008年4月～
11. 川瀬篤史: 日本毒性学会評議員
2023年4月～
12. 島田紘明: Frontiers in Pharmacology, Drug Metabolism and Transport, Review Editor
2021年4月～
13. 島田紘明: Frontiers in Pharmacology, Experimental Pharmacology and Drug Discovery, Review Editor
2021年4月～

有機薬化学研究室

職・氏名・学位

教 授・田邊 元三・博士(薬学)
Genzoh Tanabe

担当科目：近大ゼミ(1)、有機化学1(医1)、有機化学2(医2)、生物有機化学(医創2)、基礎薬科学実習(1分担)、有機化学・生薬学実習(医創2分担)、創薬科学実習1(創2分担)

所属学会：日本薬学会

准教授・石川 文洋・博士(理学)
Fumihito Ishikawa

担当科目：近大ゼミ(1)、有機化学1(創1)、グローバル創薬科学演習(創2分担)、基礎薬科学実習(1分担)、有機化学・生薬学実習(医創2分担)、創薬科学実習1(創2分担)

所属学会：日本薬学会、日本化学会、日本ペプチド学会、日本ケミカルバイオロジー学会、アメリカ化学会、医薬化学部会、生体機能関連化学部会、生命化学研究会

講 師・高島 克輝・博士(工学)
Katsuki Takashima

担当科目：近大ゼミ(1)、有機化学2(創2)、基礎薬科学実習(1分担)、早期体験学習(医)、有機化学・生薬学実習(医創2分担)、創薬科学実習(創2分担)

所属学会：日本薬学会、有機合成化学協会、生薬学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 伝承薬の近代科学的な解析を基盤にした天然物の構造活性相関研究
2. ヒトの体の動的な仕組みや病態メカニズムの研究とその進展を基盤にした創薬研究
3. 生物学的研究・ケミカルバイオロジー研究に利用できる新しい分子ツールや方法論の確立
4. 生合成系を活用したペプチド系化合物の合成研究および生合成系の機能解析研究
5. 細菌のタンパク質分解システムに関する研究

研究業績

[原著論文]

1. Takashima K, Manse Y, Suzuki R, Masuda N, Fukuda Y, Fukuda R, Marumoto S, Ishikawa F, Morikawa T, Tanabe G. Synthesis and biological evaluation of γ -alkylidenebutenolides isolated from *Melodorum fruticosum*: the role of the propylidene-type side chain structure on anti-melanogenic activity.
Org. Biomol. Chem., **23**, 4497–4507, 2025 年 4 月
2. Li Y, Wang Z, Tao W, Yang J, Tanabe G, Muraoka O, Li W, Xie W. Synthesis of trans-Fused 3,6-Anhydro Hexofuranose Frameworks via Catalytic Hydrogenolysis Triggered Debenzylative Intramolecular Acetalation.
ChemMedChem, **20**, e202400907, 2025 年 4 月
3. Ishikawa F, Konno S, Kakeya H, Tanabe G. Inhibition of surfactin biosynthesis in *Bacillus subtilis* using cell-permeable adenylation domain inhibitors.
ChemBioChem, **26**, e2500136, 2025 年 6 月
4. Kawao N, Satoh R, Mizukami Y, Okumoto K, Tanabe G, Muraoka O, Sugiura R, Kaji H. Calcium/Calmodulin-Dependent Protein Kinase II Inhibitors Mitigate High-Fat Diet-Induced Obesity in Mice.
J. Obes., **2025**, 5530467, 2025 年 6 月
5. Konno S, Mizuguchi T, Suzuki A, Tanaka M, Ishikawa F, Taguchi A, Taniguchi A, Tanabe G, Hayashi Y. Exploring the Substrate Flexibility of GrsB Thioesterase Leads to the Structural Reassignment of a Gramicidin S Variant.
ChemBioChem, **26**, e202500412, 2025 年 7 月
6. He X, Yi J, Yang J, Tanabe G, Muraoka O, Xie W. Design and Synthesis of Sulfonium and Selenonium Derivatives Bearing 3',5'-O-Benzylidene Acetal Side Chain Structure as Potent α -Glucosidase Inhibitors.
Molecules, **30**, 2856, 2025 年 7 月

7. Li Y, Liu D, Zhao X, Zhou J, Li Y, Tanabe G, Muraoka O, Li W, Xie W. Synthesis of Neokotalanol and Its Derivatives as Potent α -Glucosidase Inhibitors.
Org. Lett., **27**, 11531–11536, 2025 年 10 月
8. Li Y, Zhou J, Wu X, Li W, Wang Z, Yang J, Tanabe G, Muraoka O, Xie W. Design and Synthesis of Sulfonium and Selenonium Derivatives Bearing 3',5'-O-Benzylidene Acetal Side Chains as Potent α -Glucosidase Inhibitors.
ChemMedChem, **20**, e202500299, 2025 年 11 月
9. Li Y, Yao X, Xu B, Li Y, Jin S, He X, Sun X, Li W, Tanabe G, Muraoka O, Xie W. Design, synthesis of novel methyl-glycosyl furanose based sulfonium type α -glucosidase inhibitors with potent antihyperglycemic activity.
Eur. J. Med. Chem. **309**, 118757, 2026 年 3 月
10. Zhou J, Jin S, Yi J, Li Y, Tao W, Li Y, Wang Z, Li W, Jiang H, Tanabe G, Muraoka O, Wu L, Xie W. Discovery of Novel C-glycosyl Pyranose-Based Sulfonium and Selenonium Salts Targeting α -Glucosidase with Potent Antihyperglycemic Activity.
J. Med. Chem. **69**, 6656–6690, 2026 年 3 月

[著書]

1. 高島克輝: Xanthene 型天然物の全合成からはじまる WaK 活性化剤の創生、Farumashia, 61
日本薬学会 2025 年 6 月
2. 石川文洋: アデニル化酵素活性プロファイリングを基盤とする非リボソームペプチドの分子多様性の創出、有機合成化学協会誌, 83
有機合成化学協会 2025 年 10 月
3. 石川文洋: 蛋白質間相互作用の合理的リデザインによる NRPS 生合成系の分解および再構築、発酵研究所助成研究報告集 第 39 号
公益財団法人発酵研究所 2025 年 12 月

[学会・シンポジウム]

1. 石川文洋: 非リボソームペプチド合成酵素のエンジニアリングと細菌プロテアーゼ ClpP の機能発現機構の解明
ケミカルバイオロジー研究の最前線 (京都)、2025 年 4 月
2. 石川文洋、高橋幹士、高屋明子、田邊元三、本間道夫、内橋貴之: 抗生物質 Acyldepsipeptide1 (ADEP1) による枯草菌 ClpP プロテアーゼの活性化機構の研究
第 98 回日本細菌学会総会 (石川)、2025 年 5 月
3. 石川文洋: 蛋白質間相互作用の合理的リデザインによる NRPS 生合成系の分解および再構築
公益財団法人発酵研究所 第 19 回助成研究報告会 (大阪)、2025 年 6 月
4. 石川文洋、内田千晴、高橋幹士、大西利奈、今井嵩友、高屋明子、本間道夫、内橋貴之、田邊元三: 細菌プロテアーゼ ClpP の基質タンパク質の多様化と機能発現機構の解明
日本ケミカルバイオロジー学会第 19 回年会 (京都)、2025 年 6 月
5. 今井嵩友、石川文洋、正林直人、鈴木健裕、堂前直、田邊元三: 細菌プロテアーゼ ClpP に対する光架橋性標識化剤の開発: 近接依存的標識法による基質タンパク質の同定
日本ケミカルバイオロジー学会第 19 回年会 (京都)、2025 年 6 月
6. 石川文洋: 細菌プロテアーゼ ClpP の化学的自己集合誘導と機能開拓
京都工芸繊維大学 (京都)、2025 年 7 月
7. 石川文洋: アデニル化酵素活性プロファイリングを基盤とする非リボソームペプチドの分子多様性の創出
有機合成夏期セミナー「明日の有機合成化学」(京都)、2025 年 8 月
8. 今井嵩友、石川文洋、正林直人、鈴木健裕、堂前直、田邊元三: 細菌プロテアーゼ ClpP に対する光架橋性標識化剤の開発: 近接依存的標識法による基質タンパク質の同定および生化学的検証
第 57 回若手ペプチド夏の勉強会 (兵庫)、2025 年 8 月
9. 福飯佳奈子、石川文洋、楠原早絢、田邊元三: 細菌プロテアーゼ ClpP XXX の開発
第 57 回若手ペプチド夏の勉強会 (兵庫)、2025 年 8 月

10. 岡本茉夕、石川文洋、木下佳奈、中西由華、宮永顕正、工藤史貴、江口正、田邊元三: NRPS タンパク質間相互作用のエンジニアリングを基盤とする非天然型生合成系のデザインと新規物質生産法の開拓
第 57 回若手ペプチド夏の勉強会 (兵庫)、2025 年 8 月
11. 今井嵩友、石川文洋、正林直人、鈴木健裕、堂前直、田邊元三: 細菌プロテアーゼ ClpP に対する光架橋性標識化剤の開発: 近接依存的標識法による基質タンパク質の同定と検証
近畿大学大学院第 15 回院生サミット (福岡)、2025 年 8 月
12. 石川文洋、野原麻耶、宮永顕正、倉本怜季、宮野夏妃、浅水俊平、工藤史貴、尾仲宏康、江口正、田邊元三: 2,3-ジヒドロキシ安息香酸選択的アデニル化酵素のエンジニアリングと非天然型ペプチドの合成
第 67 回天然有機化合物討論会 (宮城)、2025 年 9 月
13. 石川文洋: アデニル化酵素のエンジニアリングによる物質生産
神奈川大学 (神奈川)、2025 年 9 月
14. 石川文洋、内田千春、高橋幹士、大西利奈、今井嵩友、高屋明子、本間道夫、内橋貴之、田邊元三: 枯草菌プロテアーゼ ClpP-アシルデブシペプチド複合体の基質タンパク質の拡充と機能発現機構の解明
第 19 回バイオ関連化学シンポジウム (京都)、2025 年 9 月
15. 今井嵩友、石川文洋、正林直人、鈴木健裕、堂前直、田邊元三: 細菌プロテアーゼ ClpP に対する光架橋性標識化剤を用いた基質タンパク質同定法の確立
第 12 回バイオ関連化学シンポジウム若手フォーラム (京都)、2025 年 9 月
16. 今井嵩友、石川文洋、正林直人、鈴木健裕、堂前直、田邊元三: 細菌プロテアーゼ ClpP に対する光架橋性標識化剤を用いた基質タンパク質同定法の確立
第 19 回バイオ関連化学シンポジウム (京都)、2025 年 9 月
17. 高島克輝、鈴木璃子、萬瀬貴昭、石川文洋、森川敏生、田邊元三: エビネ由来天然物 calanthoside を基盤とした構造活性相関研究
第 53 回構造活性相関シンポジウム (大阪)、2025 年 9 月
18. 石川文洋: アデニル化酵素のエンジニアリングによる物質生産
第 19 回メタボロームシンポジウム (兵庫)、2025 年 10 月
19. 今井嵩友、石川文洋、正林直人、鈴木健裕、堂前直、田邊元三: 細菌プロテアーゼ ClpP に対する光架橋性標識化剤の開発—近接依存的標識法による基質タンパク質の同定および生化学的解析—
第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会 (大阪)、2025 年 10 月
20. 西川陽斗、高島克輝、栗原郁帆、寺田実央、石川文洋、森川敏生、田邊元三: 天然薬物 *Mammea siamensis* 由来ゲラニル多置換クマリン Kayeassamin A の全合成研究
第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会 (大阪)、2025 年 10 月
21. Taketo Imai, Fumihiko Ishikawa, Naoto Shobayashi, Takehiro Suzuki, Naoshi Dohmae, Genzoh Tanabe: Proximity labeling of the substrates of caseinolytic protease P using a photocrosslinking probe and evaluation of methodological validity
第 62 回ペプチド討論会 (福岡)、2025 年 10 月
22. 西川陽斗、高島克輝、栗原郁帆、寺田実央、石川文洋、森川敏生、田邊元三: ゲラニル型クマリン Kayeassamin A の全合成研究
第 54 回 複素環化学討論会 (東京)、2025 年 10 月
23. 高島克輝、鈴木璃子、萬瀬貴昭、石川文洋、森川敏生、田邊元三: HFDPC 増殖促進活性を示すインドール *S*, *O*-ビスデスモンドの合成とその活性評価
第 54 回 複素環化学討論会 (東京)、2025 年 10 月
24. 石川文洋: 原核生物のタンパク質品質管理機構に関与する ClpP を利用した細胞内タンパク質の人為的分解制御
酵素 2025 第 51 回研究発表会、2025 年 11 月

25. 高島克輝、中村真也、坂野美香、長山麻衣子、二宮清文、石川文洋、丸本真輔、仲西功、森川敏生、田邊元三: アーユルベータ薬物 “*Salacia*” 由来 α -グルコシダーゼ阻害剤 Salacinol の構造活性相関研究: 側鎖部水酸基およびチオ糖環の役割について
第 42 回メディシナルケミストリーシンポジウム (徳島)、2025 年 11 月
26. Fumihiro Ishikawa: Engineering Aryl Acid Adenylation Domains in Nonribosomal Peptide Synthetases
第 3 回生命化学国際シンポジウム 2025 (ISBC2025) (神奈川)、2025 年 12 月
27. 石川文洋: NRPS タンパク質間相互作用のリデザインにより人工生成経路をつくる
第 25 回生命化学研究会 (鳥取)、2026 年 1 月
28. 石川文洋: 非リボソームペプチド合成酵素 (NRPS) の分子設計: NRPS code とタンパク質間相互作用の改変
第 25 回生命化学研究会ポストコンファレンス (鳥取)、2026 年 1 月
29. 西川陽斗、高島克輝、栗原郁帆、寺田実央、石川文洋、森川敏生、田邊元三: 天然薬物由来グラニル型クマリン Kayeassamin A の全合成
日本薬学会第 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月
30. 奥田直輝、高島克輝、中嶋亜衣莉、杉本琴美、丸本真輔、石川文洋、田邊元三: 天然薬物 “*Salacia reticulata*” 由来の α -Glucosidase 阻害剤 Kotalanol の合成研究
日本薬学会 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月
31. 高島克輝、真鍋佳帆梨、田井利之、山下真優、中村真也、丸本 真輔、石川文洋、仲西 功、森川敏生、田邊元三: アーユルベータ薬物 “*Salacia*” 由来 α -グルコシダーゼ阻害剤 Salacinol の構造活性相関研究: 3' 位ベンジル基への硫黄官能基の導入とその活性評価
日本薬学会 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月
32. 今井嵩友、石川文洋、正林直人、鈴木健裕、堂前直、田邊元三: 細菌プロテアーゼ ClpP に対する光架橋性標識化剤の開発: 近接依存的標識法による基質タンパク質の同定及び分解評価
日本薬学会 146 年会 (大阪)、2026 年 3 月 (大阪)

[報償等]

1. 石川文洋: 第 23 回 有機合成化学協会関西支部賞
公益社団法人有機合成化学協会・関西支部
2. 西川遥斗: 優秀ポスター賞
第 75 回日本薬学会関西支部大会 (京都)、日本薬学会関西支部、2025 年 10 月 4 日
3. 高島克輝: SAR Presentation Award
第 53 回構造活性相関シンポジウム (大阪)、日本薬学会構造活性相関部会、2025 年 9 月 4-5 日
4. 高島克輝: ブリッジ研究賞
第 2 回日本ヘアケア天然素材シンポジウム (オンライン)、2026 年 2 月 28 日
5. 奥田直輝: 優秀ポスター賞
日本薬学会第 146 年会 (大阪)、日本薬学会、2026 年 3 月 26-29 日

[外部助成]

1. 石川文洋(代表): 細菌で機能する標的タンパク質分解技術の開発
公益財団法人上原記念生命科学財団 2024 年度研究助成金 2025 年 1 月-2026 年 4 月
2. 石川文洋(代表): 原核生物のタンパク質品質管理機構に関与する ClpP を利用した細胞内タンパク質の人為的分解制御
公益財団法人 日本応用酵素協会 2024 年度 酵素研究助成 研究助成金 2024 年 5 月-2025 年 9 月
3. 石川文洋(代表): 細菌において機能する標的タンパク質分解技術の開発
大阪大学蛋白質研究所 2025 年度拠点事業 「クライオ電子顕微鏡 (大阪大学蛋白質研究所) 共同利用研究課題」 2025 年 4 月-2026 年 3 月

4. 石川文洋(代表): NRPS タンパク質間相互作用のエンジニアリングを基盤とする非天然型生合成系のデザインと新規物質生産法の開拓
近畿大学 一般研究助成金 IP002 一般研究助成金 2025 年 4 月–2026 年 3 月
5. 石川文洋(代表): 細菌で機能する標的タンパク質分解技術の開発
公益財団法人上原記念生命科学財団 2024 年度研究助成金 2025 年 1 月–2026 年 4 月
6. 石川文洋(代表): 原核生物のタンパク質品質管理機構に関与する ClpP を利用した細胞内タンパク質の人為的分解制御
公益財団法人日本応用酵素協会 2025 年度 酵素研究助成 2025 年 8 月–2026 年 9 月
7. 石川文洋(代表): 細菌におけるタンパク質分解創薬の開拓: 脂肪酸合成酵素分解誘導剤の開発研究
公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団 2025 年度研究助成金 2025 年 12 月–2026 年 12 月
8. 石川文洋(代表): 蛋白質間相互作用の合理的リデザインによる NRPS 生合成系の分解および再構築
公益財団法人 発酵研究所 2025 年度継続研究助成 2025 年 6 月–2027 年 3 月
9. 石川文洋(代表): アデニル化酵素の流用によるファインケミカルの酵素-化学ハイブリッド合成法の開発
国立研究開発法人科学技術振興機構 研究成果展開事業 (研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP))
A-STEP 産学共同ステージI (育成フェーズ) 2025 年 10 月–2028 年 3 月
10. 石川文洋(代表): 細菌におけるタンパク質分解創薬の開拓
一般財団法人 LeaP 科学財団 2025 年度 LeaP 生命科学・生命化学研究助成金 2025 年 6 月–2030 年 3 月
11. 石川文洋(代表): 細菌プロテアーゼ ClpP の活性制御機構の理解に基づく標的タンパク質分解技術の開発
公益財団法人 武田科学振興財団 2025 年度 薬学系研究助成 2025 年 9 月–2030 年 3 月
12. 高島克輝(代表): 生薬由来の天然物を基盤とする安全かつ強力な育毛成分の開発研究
公益財団法人 コーセーコスメトロジー研究財団 コスメトロジー研究助成 2024 年 12 月–2026 年 12 月

[教育・社会活動]

1. 田邊元三: 日本薬学会関西支部幹事
2019 年 4 月～
2. 田邊元三: 日本薬学会関西支部 副支部長
2025 年 4 月–2026 年 3 月
3. 田邊元三: 薬学教育協議会 生薬学・天然物化学関連教科担当教員
2018 年 4 月～
4. 田邊元三: オープンキャンパス模擬講義
2025 年 8 月～
5. 石川文洋: 近畿大学附属和歌山高等学校出張講義
2024 年 3 月～
6. 石川文洋: 同志社大学 嘱託講師
2022 年 4 月～
7. 石川文洋: 大阪大学蛋白質研究所共同研究員
2025 年 4 月～
8. 石川文洋: Springer Nature, Communications Biology (Commun Biol), Editorial Board Member (Biochemistry section)
2025 年 10 月～

臨床薬学部門 社会薬学分野

職・氏名・学位

教授・大鳥 徹・博士（薬学）
Toru Otori

担当科目：近大ゼミ(1)、薬と経済(医 4 分担)、ファーマシューティカルケア(医 4)、フィジカルアセスメント(医 4)、実務実習事前学習(医 4)、地域医療(医 6 分担)、医療・薬事関係法規 2(医 6 分担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本社会薬学会、日本医薬品情報学会、在宅薬学会、日本病院薬剤師学会、日本薬局学会

講師・高橋 克之・博士（医学）
Katsuyuki Takahashi

担当科目：近大ゼミ(1)、生命倫理(医 2)、医療・薬事関係法規 1(医 4 分担)、ファーマシューティカルケア(医 4 分担)、医薬連携学習(医 4)、フィジカルアセスメント(医 4)、実務実習事前学習(医 4)、医療・薬事関係法規 2(医 6 分担)

所属学会：日本臨床腫瘍学会、日本臨床腫瘍薬学会、日本医療薬学会、日本薬学会、日本社会薬学会

助教・小松 唯可・博士（薬学）
Katsuyuki Takahashi

担当科目：近大ゼミ(1)、生命倫理(医 2)、医薬連携学習(医 4)、フィジカルアセスメント(医 4)、実務実習事前学習(医 4)、地域医療(医 6 分担)、教養特殊講義 B(共 1)

所属学会：日本薬学会、日本医薬品情報学会、日本医療薬学会、日本薬剤学会

現在行われている主な研究テーマ

1. がん患者の薬物療法の質向上に関する臨床研究
2. 抗がん剤ペメトレキセドの経口投与可能なプロドラッグ研究
3. 分子標的製剤のカボザンチニブの有効使用のための薬物動態の研究
4. 在宅医療における薬剤師の役割に関する検討
5. 医薬品在庫による医療機関の経営分析と要因検討

研究業績

[原著論文]

1. Takahashi M, Takahashi K, Uchida-Kobayashi S, Sasa Y, Yamase H, Fujiwara D, Yoshikawa T, Komatsu Y, Shibano M, Arie H, Hoshida T, Takata Y, Odagiri N, Matsumoto H, Fumita S, Otori T. Effect of Vonoprazan, potassium-competitive acid blocker, on Atezolizumab plus Bevacizumab efficacy in patients with hepatocellular carcinoma: a multicenter retrospective study.

Int J Clin Oncol. **31**(1):141-150(2026).

[著書]

1. 大鳥徹: これからのコミュニティファーマシー

pp.186-199、南江堂 2025 年 12 月

2. 高橋克之: 薬剤師のためのがん資格試験対策問題集[Web 付録付]
pp.10-32、医学書院 2026 年 3 月

3. 大鳥徹、高橋克之、小松唯可: グラフィックガイド薬剤師の技能
pp.191-344、京都廣川書店 2026 年 3 月

[学会・シンポジウム]

1. 松本早織, 山瀬大雄, 中嶋江美, 尾本和彦, 高橋克之, 辻井佳代, 小林政彦: 外来がん薬物療法患者における薬剤師外来の有効性の検証.
第 63 回日本癌治療学会学術集会, 横浜 (ポスター), 2025 年 10 月
2. 渡邊裕之, 槇原克也, 中尾将彦, 春田瑞歩, 高橋正也, 山瀬大雄, 細田麻由香, 金剛圭佑, 高取秀人, 近藤篤, 山本浩史, 木村直孝, 高橋克之: 胆道がん低用量シスプラチン療法における少量補液の腎機能への影響: 多機関共同後方視的調査.
第 35 回日本医療薬学会年会, 神戸 (口頭), 2025 年 11 月
3. Yuika Komatsu, Katsuyuki Takahashi, Masaya Takahashi, Sawako Uchida-Kobayashi, Yuzuka Sasa, Hirotake Yamase, Daichiro Fujiwara, Tomohiro Yoshikawa, Masahito Shibano, Hiroki Arie, Tadafumi Hoshida, Yasuhiko Takata, Naoshi Odagiri, Hisakazu Matsumoto, Soichi Fumita, Toru Otori: Impact of Vonoprazan on the Efficacy of Atezolizumab Plus Bevacizumab in Hepatocellular Carcinoma: A Multicenter Retrospective Study.
ESMO Asia Congress 2025, シンガポール (ポスター), 2025 年 12 月
4. 小松唯可: イブランチニブにおける抗真菌薬併用時の治療継続性の検証.
第 7 回近畿大学大学院 臨床薬学シンポジウム, 大阪 (口頭), 2026 年 3 月
5. 柴野雅仁, 高橋克之, 高橋正也, 打田佐和子, 佐々侑寿香, 山瀬大雄, 藤原大一郎, 吉川知宏, 小松唯可, 有江宏樹, 星田唯史, 高田康彦, 小田桐直志, 松本久和, 文田壮一, 大鳥徹: 肝細胞癌患者に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブ療法の有効性へ与えるボノプラザンの影響.
第 23 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 横浜 (ポスター), 2026 年 3 月

[外部資金]

1. 高橋克之: (代表) 抗癌剤耐性がんを標的とした抗腫瘍抗体の開発
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2025 年 4 月 - 2028 年 3 月

[教育・社会活動]

1. 大鳥徹: 第 110 回薬剤師国家試験問題検討委員会 (法規・制度・倫理部会)
山口東京理科大学薬学部 (山口県山陽小野田市) 2025 年 5 月 10 日
2. 高橋克之: 大阪がん薬物療法研究会 世話人会
オンライン 2025 年 5 月 26 日
3. 大鳥徹、高橋克之、小松唯可: 大阪府薬剤師会 薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2025 年 6 月 14 日
4. 大鳥徹、高橋克之、小松唯可: 近畿大学薬学部模擬患者養成講習会 6 月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2025 年 6 月 23 日
5. 大鳥徹: 日本口腔ケア学会理事会
オンライン会議 2025 年 6 月 30 日

6. 高橋克之: 日本臨床腫瘍薬学会 がん治療薬学生エキスパート認定 委員会
AP 品川 (東京都港区) 2025 年 7 月 3 日
7. 大鳥徹、高橋克之: 近畿大学薬学部模擬患者養成講習会 7 月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2025 年 7 月 19 日
8. 高橋克之: 日本臨床腫瘍薬学会 がん治療薬学生エキスパート認定 委員会
星薬科大学 (東京都) 2025 年 7 月 28 日
9. 高橋克之: 和泉市薬剤師会 集合研修会 講師
和泉シティプラザ 2025 年 8 月 23 日
10. 大鳥徹、高橋克之、小松唯可: 近畿大学薬学部模擬患者養成講習会 9 月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2025 年 8 月 25 日、30 日
11. 大鳥徹、高橋克之、小松唯可: 近畿大学薬学部模擬医師養成講習会 10 月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2025 年 10 月 11 日
12. 大鳥徹、高橋克之、小松唯可: 近畿大学薬学部模擬患者養成講習会 10 月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2025 年 10 月 18 日、20 日
13. 大鳥徹: 令和 7 年度「薬学と社会」教科担当教員会議
オンライン 2025 年 10 月 10 日
14. 高橋克之: 日本臨床腫瘍薬学会 がん治療薬学生エキスパート認定 試験 委員会
AP 品川 (東京都港区) 2025 年 11 月 2 日、3 日
15. 大鳥徹: 日本在宅薬学会 理事会
オンライン 2025 年 11 月 4 日
16. 大鳥徹、高橋克之、小松唯可: 近畿大学薬学部 OSCE 直前評価者講習会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2025 年 11 月 15 日
17. 大鳥徹、高橋克之、小松唯可: 近畿大学薬学部模擬患者・模擬医師養成講習会 11 月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2025 年 11 月 10 日、15 日
18. 高橋克之: 日本医療薬学会 代議員総会
神戸国際会議場 (兵庫県) 2025 年 11 月 23 日
19. 大鳥徹: 日本在宅薬学会 認定委員会
オンライン 2026 年 1 月 12 日
20. 大鳥徹: 第 16 回薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2026 年 1 月 31 日
21. 大鳥徹: 京都府薬剤師会実務実習連絡会
オンライン 2026 年 2 月 1 日
22. 高橋克之: 大阪府南部 (阪南地区) グループ協議会
阪南市民病院 (阪南市) 2026 年 2 月 7 日

23. 大鳥徹、小松唯可: 大阪市南部地区、近畿大学病院、近畿大学奈良病院 実務実習連絡会開催
近畿大学東大阪キャンパス（東大阪市） 2026年2月7日
24. 大鳥徹: collaboration between SimTiki and the Kindai University Graduate School of Pharmacy
John A. Burns School of MedicineUniversity of Hawaii（USA） 2026年2月10日
25. 大鳥徹、高橋克之、小松唯可: 近畿大学薬学部実務実習報告会開催
近畿大学東大阪キャンパス（東大阪市） 2026年2月21日
26. 大鳥徹: 第20回ヒューマニティ関連教科担当教員会議
就実大学薬学部（岡山市） 2026年3月11日
27. 大鳥徹: 【薬学教育評価機構】 評価実施員説明会
オンライン 2026年3月24日

臨床薬学部門 医療薬剤学分野

職・氏名・学位

教 授・小竹 武・博士(薬学)
Takeshi Kotake

担当科目：基礎ゼミ(1)、薬学概論(医1共担)、早期体験学習(医1共担)、実務実習事前学習(医4共担)、医薬連携学習(医4共担)、フィジカルアセスメント(医4共担)、臨床薬学実務実習(医5共担)、実践病態と治療(医5共担)、総合薬学演習2(医6共担)、臨床薬物動態学(医6)、薬効薬理処方解析(医6)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、日本臨床救急医学会
日本医薬品情報学会

准教授・石渡 俊二・博士(薬学)
Shunji Ishiwata

担当科目：基礎ゼミ(1)、早期体験学習(医1共担)、生命倫理(医2共担)、臨床薬学英語(医4)、実務実習事前学習(医4共担)、フィジカルアセスメント(医4共担)、臨床薬学実務実習(医5共担)、実践病態と治療(医5共担)、総合薬学演習2(医6共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本癌学会、日本災害医学会

講 師・井上 知美・博士(薬学)
Tomomi Inoue

担当科目：基礎ゼミ(1)、早期体験学習(医1共担)、生命倫理(医2共担)、実務実習事前学習(医4共担)、医療薬学総論(医4共担)、医薬連携学習(医4共担)、フィジカルアセスメント(医4共担)、臨床薬学実務実習(医5共担)、実践病態と治療(医5共担)、総合薬学演習2(医6共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、日本循環器学会、日本臨床救急医学会、日本災害医学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 薬剤の安定性、同等性に関する研究
2. 高度医療（胎児不整脈）に関する研究
3. 循環器疾患の救急救命処置に関する調査および研究
4. 災害・救急時における安心・安全な社会システムの構築に関する研究
5. 薬物療法に伴う医療施設業務に関する調査および研究
6. 抗がん剤汚染防止教育システムの開発
7. 在宅医療における薬物療法に関する研究
8. 薬物療法における適正使用の選択因子の抽出に関する研究

研究業績

[原著論文]

1. Kazuya Fujimoto, Hiroko Otake, Rie Tanaka, Fumihiko Ogata, Chika Fujii, Naoki Yamamoto, Naohito Kawasaki, Toshihiko Ishizaka, Takeshi Kotake, Noriaki Nagai: Trolox nanosuspensions prevent indomethacin-induced gastrointestinal lesions in adjuvant-induced arthritis rats.

*J Pharm Health Care Sci.*12:23. doi: 10.1186/s40780-026-00542-w, 2026 年 1 月

[著書]

1. 小竹武、石渡俊二、井上知美: グラフィックガイド薬剤師の技能 第3版
京都廣川書店 2026 年 3 月

[学会・シンポジウム]

1. 吉岡雅起、上田桜、西岡菜名美、岡本優子、井上知美、石渡俊二、小竹武：オゾンの新たな形態 ～オゾン形態の違いが色素の脱色性に及ぼす影響～
第8回 フレッシュヤーズ・カンファランス（京都）、2025年6月21日
2. 水野未貴、東海秀吉、日高眞理、小牟田豊、井上知美、小森浩二、小竹武：薬学実務実習における症例解析プログラムの意識調査
第58回日本薬剤師会学術大会（京都）、2025年10月13日
3. 野村成一、服部翔、金原健太、小竹武：高齢者介護施設における多剤併用に対する減薬提案の介入効果
第19回日本薬局学会学術総会（札幌）、2025年11月2日
4. 藤原泰子、森本未緒、石渡俊二、井上知美、小竹武：使い捨て紙おむつに含まれるエチゾラムの測定法
日本薬学会第146年会（大阪）、2026年3月29日

[報償等] (所属学生の受賞も含めます)

1. 野村成一、服部翔、金原健太、小竹武：優秀演題賞受賞
第19回日本薬局学会学術総会（札幌）、2025年11月2日

[教育・社会活動]

1. 小竹武：関西広域連合登録販売者試験委員
2019年4月～
2. 小竹武：大阪府薬剤師会薬学生実務実習受入対策委員
2014年4月～
3. 小竹武：薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員
2009年4月～
4. 小竹武：薬剤師国家試験問題検討委員会委員（実務部会）
2012年4月～
5. 小竹武：ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当委員
2012年4月～
6. 小竹武：実務実習教科担当委員
2012年4月～
7. 小竹武：大阪府薬剤師会連絡会
大阪府薬剤師会館（大阪）2026年1月25日
8. 小竹武：兵庫県薬剤師会連絡会
武庫川女子大学（兵庫）2026年1月31日
9. 小竹武：兵庫県薬剤師会連絡会
神戸学院大学（兵庫）2026年2月1日
10. 石渡俊二：無菌注射剤調剤講習会（無菌調剤室利用者研修会II）
近畿大学（大阪）2026年1月31日
11. 石渡俊二：大阪赤十字病院治験審査委員会 委員
2015年4月～

12. 石渡俊二: 大阪府東部 グループ協議会
松下記念病院 2026 年 2 月 14 日
13. 井上知美: 日本循環器学会 AHA BLS Course Director
2012 年 4 月～
14. 井上知美: 日本循環器学会 AHA BLS Training Center Faculty
2012 年 7 月～
15. 井上知美: 第 17 回薬剤師のための患者急変時対応講習会 講師
近畿大学 (大阪) 2025 年 6 月 14 日
16. 井上知美: 第 18 回薬剤師のための患者急変時対応講習会 講師
近畿大学 (大阪) 2026 年 1 月 31 日
17. 井上知美: 大阪大学薬学部 薬学入門 3 ゲストスピーカー
大阪大学 (大阪) 2025 年 12 月 11 日、12 月 18 日
18. 井上知美: 大阪府東部 グループ協議会
八尾市保健センター (大阪) 2026 年 2 月 5 日
19. 井上知美: 大阪府大阪市内東部 グループ協議会
済生会野江病院 2026 年 2 月 6 日
20. 石渡俊二、井上知美: 近畿大学薬学部模擬患者の会 6 月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2025 年 6 月 23 日
21. 石渡俊二、井上知美: 近畿大学薬学部模擬患者の会 7 月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2025 年 7 月 19 日
22. 石渡俊二、井上知美: 近畿大学薬学部模擬患者の会 8 月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2025 年 8 月 25 日、8 月 30 日
23. 石渡俊二、井上知美: 近畿大学薬学部模擬患者の会 10 月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2025 年 10 月 18 日、10 月 20 日
24. 石渡俊二、井上知美: 近畿大学薬学部模擬患者の会 11 月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2025 年 11 月 10 日、11 月 15 日
25. 小竹武、石渡俊二、井上知美: 大阪市南部地区、近畿大学病院、近畿大学奈良病院
実務実習連絡会開催
オンライン 2026 年 2 月 7 日

臨床薬学部門 医薬品情報学分野

職・氏名・学位

教授・細見 光一・博士(薬学)
Kouichi Hosomi

担当科目：近大ゼミ(1)、早期体験学習(医 1 共担)、生命倫理(医 2 共担)、薬学概論(医 1 分担)、医薬品情報学(医 3)、医療・薬事関係法規 1(医 4 分担)、医薬連携学習(医 4 共担)、実務実習事前学習(医 4 共担)、フィジカルアセスメント(医 4 共担)、臨床医学概論(医 4 分担)、実践病態と治療(医 5 共担)、臨床薬学実務実習(医 5 共担)、総合演習 2(医 6 共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本医薬品情報学会、日本薬剤疫学会

准教授・横山 聡・博士(薬科学)
Satoshi Yokoyama

担当科目：近大ゼミ(1)、情報科学実習(1 分担)、早期体験学習(医 1 共担)、生命倫理(医 2 共担)、調剤学(医 4)、医薬連携学習(医 4 共担)、実務実習事前学習(医 4 共担)、フィジカルアセスメント(医 4 共担)、実践病態と治療(医 5 共担)、臨床薬学実務実習(医 5 共担)、総合演習 2(医 6 共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本医薬品情報学会、日本薬剤疫学会

助 教・宇野 貴哉・博士(薬学)
Takaya Uno

担当科目：近大ゼミ(1)、早期体験学習(医 1 共担)、生命倫理(医 2 共担)、基礎医療薬学(医 3)、医薬連携学習(医 4 共担)、実務実習事前学習(医 4 共担)、フィジカルアセスメント(医 4 共担)、実践病態と治療(医 5 共担)、臨床薬学実務実習(医 5 共担)、総合演習 2(医 6 共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本医薬品情報学会、日本薬剤疫学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 医療ビッグデータの解析による医薬品安全性評価研究
2. リアルワールドデータの多角的解析に関する研究
3. アンメットメディカルニーズを指向したドラッグ・リポジショニング研究
4. 医療資源最適化に関する研究
5. 医薬品適正使用に関する臨床薬学研究

研究業績

[原著論文]

1. Nakakura I, Mukai Y, Hosoda A, Ohara N, Yamanishi K, Uno T, Yokoyama S, Hosomi K, Une Y: Association Between Kounis Syndrome and Allergy-Associated Coronary Events: A Disproportionality Analysis Using the Japanese Adverse Drug Event Report Database
Cureus. **17**, e90613, 2025 年 8 月
2. Nakakura I, Mukai Y, Hosoda A, Ohara N, Yamanishi K, Uno T, Yokoyama S, Hosomi K, Une Y: Comparative clinical features of antibiotic-associated Kounis syndrome and non-Kounis allergic coronary events: a disproportionality analysis using U.S. Food and Drug Administration Adverse Event Reporting System
J Pharm Health Care Sci. **12**, 28, 2026 年 2 月

[著書]

1. 高田充隆、小竹武、細見光一(編)、横山聡、宇野貴哉他著：グラフィックガイド薬剤師の技能(第3版)
京都廣川書店 2026 年 3 月

2. 細見光一：これからのコミュニティファーマシー

pp. 241-259、南江堂 2025 年 12 月

[学会・シンポジウム]

1. 伊内智、中川千拓、宇野貴哉、横山聡、細見光一：認知症患者における併存疾患及び処方薬剤と要介護認定との関連性の調査
第 8 回フレッシュャーズ・カンファランス（京都）、2025 年 6 月 21 日
2. 稲本悠来、伊内智、中川千拓、宇野貴哉、横山聡、細見光一：認知症患者の要介護認定に関連する併存疾患および処方薬剤の検討
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）、2025 年 10 月 4 日
3. 重本悠良、中川千拓、宇野貴哉、横山聡、細見光一：SGLT2 阻害薬の高尿酸血症予防効果についての横断的研究
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）、2025 年 10 月 4 日
4. 橋詰加奈子、中川千拓、宇野貴哉、横山聡、高瀬友貴、室井延之、細見光一：保険者データベースを用いたビタミン K 製剤と肝がんの関連性の検討～A Sequence Symmetry Analysis～
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京都）、2025 年 10 月 4 日
5. 中蔵伊知郎、向井優太郎、細田敦規、小原直紘、山西香織、宇野貴哉、横山聡、細見光一、敵佳子：アレルギー反応を伴う冠動脈疾患とコーニス症候群の関連性の検討
第 35 回日本医療薬学会年会（兵庫）、2025 年 11 月 23 日
6. 細見光一：アカデミアにおける臨床研究教育 ― 連携大学院の事例 ―
第 35 回日本医療薬学会年会（兵庫）、2025 年 11 月 23 日
7. 横山聡：ヘルスケアデータサイエンスにおける健診データの利活用
第 35 回日本医療薬学会年会（兵庫）、2025 年 11 月 24 日
8. 橋本知直、横山聡、宇野貴哉、細見光一：JMDC 保険者データベースを用いたスタチン系薬剤と関節リウマチの関連性
日本薬学会第 146 年会（大阪）、2026 年 3 月 27 日

[外部助成]

1. 横山聡(代表)：リアルワールドデータとオミックス情報の統合解析によるデータ駆動型医薬品開発
科学研究費助成事業―科研費―若手研究（2023-2028）
2. 宇野貴哉(代表)：変革期を迎えた慢性心不全治療を補完するリアルワールドエビデンスの創出
科学研究費助成事業―科研費―若手研究（2025-2027）

[教育・社会活動]

1. 細見光一：日本医療薬学会代議員
2019 年 3 月～
2. 横山聡：日本医療薬学会 臨床研究推進委員会 委員
2024 年 4 月～
3. 横山聡：日本医療薬学会 2025 年度医療薬学学術小委員会 委員
2025 年 7 月～
4. 横山聡：大阪府 薬学実務実習受入施設_グループ協議会(大阪府・東部_グループ 2)
2025 年 4 月 26 日

5. 細見光一、横山聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 6月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2025 年 6 月 23 日
6. 細見光一、横山聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 7月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2025 年 7 月 19 日
7. 横山聡: 第 131 回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ (薬学教育者ワークショップ) in 近畿 会場責任者
2025 年 7 月 20-21 日
8. 細見光一、横山聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 8月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2025 年 8 月 25 日、8 月 30 日
9. 細見光一、横山聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 10月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2025 年 10 月 18 日、10 月 20 日
10. 細見光一、横山聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 11月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2025 年 11 月 10 日、2025 年 11 月 15 日
11. 宇野貴哉: 大阪府 薬学実務実習受入施設_グループ協議会 (大阪府南部 南河内ブロック_グループ 15-20)
オンライン 2026 年 1 月 29 日
12. 横山聡: 大阪府 薬学実務実習受入施設_グループ協議会 (岸和田市)
2026 年 2 月 1 日
13. 横山聡: 兵庫県 薬学実務実習受入施設_グループ協議会 (尼崎市)
オンライン 2026 年 2 月 5 日
14. 細見光一、横山聡、宇野貴哉: 大阪市南部地区、近畿大学病院、近畿大学奈良病院 実務実習連絡会開催
オンライン 2026 年 2 月 7 日
15. 横山聡: 奈良県 薬学実務実習受入施設_グループ協議会 (橿原市)
2026 年 2 月 11 日

教育専門部門

職・氏名・学位

教授・松野 純男・博士(薬学)
Sumio Matzno

担当科目：薬学概論(医1分担)、早期体験学習(医1分担)、近大ゼミ(1)、放射化学(医2, 創2)、薬学統計学(創2, 医3)、衛生化学・放射化学実習(医3分担)、創薬科学実習3(創3分担)、物理化学生物演習2(医4分担)、実践病態と治療(医5分担)、治験(医4, 医6分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬学教育学会、日本医薬品情報学会、日本音楽療法学会

教授・大内 秀一・博士(薬学)
Hidekazu Ouchi

担当科目：早期体験学習(医1分担)、近大ゼミ(1)、化学入門(医1分担)、基礎化学(医1分担)、基礎有機化学(1)、有機化学・生薬学実習(医2)、物理化学生物演習1(医3分担)、物理化学生物演習2(医4分担)、実践病態と治療(医5分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬学会医薬化学部会、有機合成化学協会、IDE大学協会、日本薬学教育学会

准教授・和田 哲幸・博士(薬学)
Tetsuyuki Wada

担当科目：近大ゼミ(1)、基礎生物学(1)、生物学入門(1)、人体生理学2(医2・創2)、情報科学実習(1)、物理化学生物演習1(医3分担)、実践病態と治療(医5分担)、早期体験学習(医1分担)、衛生化学・放射化学実習(医3分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬剤師会、日本薬学教育学会、日本健康体力栄養学会、日本神経科学会、日本死の臨床研究会、日本サルコペニア・フレイル学会

准教授・船上 仁範 博士(薬学)
Yoshinori Funakami

担当科目：早期体験学習(医1分担)、近大ゼミ(1)、教養特殊講義B(1分担)、基礎生物学(1)、生物学入門(1)、基礎薬科学実習(1)、人体生理学1(1)、生命倫理(2)、免疫・分子生物学実習(2分担)、物理化学生物演習1(医3分担)、実践病態と治療(医5分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本神経科学会、日本心身医学会

助 教・八軒 浩子・博士(薬学)
Hiroko Hachiken

担当科目：早期体験学習(医1分担)、近大ゼミ(1)、情報科学入門(1分担)、実務実習事前学習(医4分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬剤師会、日本医療薬学会、日本医薬品情報学会、日本薬学教育学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 薬学教育における効果的な教育ツールの開発および実践
2. 薬学教育評価における有用な統計解析手法の開発
3. ビジネスインテリジェンスツールの医療分野への応用
4. 天然由来のジアリールエーテル型化合物の合成および生物活性評価
5. ストレス関連疾患(うつ・不安・慢性疼痛など)発症メカニズムの解析
6. フレイル予防 ～健康寿命を伸ばすため～ 薬局が果たせる役割について

研究業績

[原著論文]

1. 青江 麻衣, 清水 忠, 松野 純男, 大内 秀一, 長井 紀章, 長野 秀嗣, 山岡 庸介, 宮部 豪人, 青木 俊二: モバイル端末対応の「化学構造式かるた」アプリケーションを用いた有機化学教育の実践と課題.
薬学教育, 2025; **9**, e09033. 2025 年 6 月
2. Yamamoto T, Kasanami Y, Miyamoto T, Matzno S, Sakakibara M, Kawabata A: Identification of potentially inappropriate medications characteristic of older individuals with diabetes: a study using pharmacy claims data..
Journal of pharmaceutical health care and sciences 2025; **11**(1): 100. 2025 年 11 月

3. Aoe M, Shimizu T, Matzno S, Nagai N, Ouchi S, Miyabe H, Aoki S: Exploratory Analysis of Student Characteristics Contributing to Improved Learning Outcomes in Gamified Organic Chemistry Education.
Yakugaku Zasshi 2026;**146**(1):71-78. 2026 年 1 月
4. Miyazaki K, Tomohiro T, Funakami Y, Fukao A, Suzuki T, Yamamoto T, Fujiwara T: Exploratory Analysis of Student TOB Proteins Repress Translation via the CCR4-NOT Deadenylase Complex Independent of Deadenylation.
Genes Cells 2025 **30**(5):e70042. 2025 年 9 月
5. Toshima S, Satoh R, Tomohiro T, Funakami Y, Fukao A, Fujiwara T: Exploratory Analysis of Student The TAP/NXF1-Binding Region of HuD Is Required for Translation and Neuronal Differentiation..
Genes Cells 2025 **30**(6):e70057. 2025 年 11 月

[学会・シンポジウム]

1. 高林 謙太郎、大内 秀一、和田 哲幸、船上 仁範、八軒 浩子、大星 直樹、松野 純男：3D プリンタを用いた DOAC および他のセリンプロテアーゼの反応様式の比較
日本薬学会第 146 年会（大阪）、2026 年 3 月 28 日
2. 栃本 愛実、大内 秀一、和田 哲幸、船上 仁範、八軒 浩子、幸松 健二、Am an A rasy、村木 隆海、小松原 一真、平田 峻作、大星 直樹、松野 純男：個人薬局に対する在庫管理システムの構築
日本薬学会第 146 年会（大阪）、2026 年 3 月 28 日
3. 竹内 一成、松野純男、大星直樹：拡張 SEIR モデルによる COVID-19 感染予測
令和 7 年電気学会全国大会（東京）、2026 年 3 月 18 日
4. 和田 哲幸、松山 立樹、伊内 秋夫、片岡 大士、大北 篤志、吉澤 麻里奈、中越 舞子、谷川 佳那、高松 輝美、伊内 智、伊内 優里香、松野 純男：薬局来局者のフレイル予防に向けた簡易フレイルチェックシートの開発
第 64 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会（徳島）、2025 年 11 月 9 日
5. 加藤未夢、上田真理恵、大内秀一、和田哲幸、船上仁範、八軒浩子、大星直樹、松野純男：Business Intelligence (BI) ツールを用いた関西圏の感染症発生推移の可視化—Metabase と cron による自動化と情報提供—
第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会（京田辺）、2025 年 10 月 4 日
6. 松野 純男、大内 秀一、和田 哲幸、船上 仁範、前川 智弘、仲西 功、多賀 淳、細見 光一、大鳥 徹、川崎 直人：基礎薬学知識を用いた臨床症例解析演習の有用性に関する検証
第 10 回 日本薬学教育学会大会（東京）、2025 年 8 月 24 日
7. 志熊 理史、足立 博、向井 雅美、田中 和史、伊内 秋夫、大北 篤志、片岡 大士、和田 哲幸：松柳井まつり来場者を対象としたフレイル関連指標の横断的研究
第 33 回 日本健康体力栄養学会（徳島）、2026 年 2 月 22 日
8. 伊内 智、伊内優里香、片岡大士、大北篤志、伊内秋夫、和田哲幸、秋本義雄：患者の健康を守る「患者教育」の必要性
第 33 回 日本健康体力栄養学会（徳島）、2026 年 2 月 22 日
9. 伊内 秋夫、大北 篤志、片岡 大士、和田 哲幸、秋本 義雄：経過観察と適正使用判断
第 64 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会（徳島）、2025 年 11 月 9 日
10. 片岡 大士、伊内 秋夫、大北 篤志、和田 哲幸、秋本 義雄：裁判事例から学ぶ薬剤師の役割（健康食品のリスクと薬剤師の責務）
第 64 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会（徳島）、2025 年 11 月 9 日
11. 伊内 優里香、伊内 智、和田 哲幸、秋本 義雄：このような事故を薬剤師は防げるか～薬学生の視点で見た治療経過と薬剤師～
第 58 回日本薬剤師会学術大会（京都）、2025 年 10 月 12 日
12. 伊内 秋夫、片岡 大士、大北 篤志、津田 雅子、和田 哲幸、秋本 義雄：このような事故を薬剤師は防げるか？～初回面談の重要性和課題～
第 58 回日本薬剤師会学術大会（京都）、2025 年 10 月 12 日
13. 和田 哲幸：フレイルとお薬 ～高齢者の脱水と薬剤のリスク～
第 3 回 高齢者の低栄養防止コンソーシアム大阪セミナー、大阪、2025 年 4 月 13 日

[外部助成] (科研や企業の奨学研究予算など、研究タイトルの非公開も可)

1. 松野純男(分担): 薬学におけるゲーミフィケーションを活用した教育の電子アプリ化とその評価
令和 5～7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C) (代表: 青江麻衣)
2. 船上仁範(代表): 非天然型アミノ酸によるストレス誘発慢性疼痛の治療戦略に向けた基礎研究
令和 5～7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C) (代表: 船上仁範)
3. 和田哲幸(代表): 免疫に関わる治療薬、サプリメントの開発
令和 4～8 年度 株式会社ダイセル

[教育・社会活動]

1. 松野純男: 薬学共用試験センター システム検討委員会 委員長
2018 年 7 月～
2. 松野純男: 日本薬学教育学会機関誌『薬学教育』編集委員
2018 年 4 月～
3. 松野純男: 薬学教育協議会教科担当教員会議 放射薬学系教科検討委員会委員
2006 年 4 月～
4. 松野純男: 日本私立薬科大学協会 情報科学技術検討委員会 委員
2022 年 4 月～
5. 松野純男: 医療統計推進協会 理事
2019 年 4 月～
6. 大内秀一: 薬学教育協議会教科担当教員会議 有機化学系教科検討委員会委員
2006 年 4 月～
7. 大内秀一: 薬学共用試験センター CBT 実施委員会 委員
2022 年 10 月～
8. 大内秀一: 高校訪問 (初芝立命館高校 他 5 校) での大学・学部説明
2023 年 6 月 29 日
9. 大内秀一: 近畿大学出張講義 初芝立命館高等学校
2023 年 7 月 19 日
10. 大内秀一: 高校訪問 (住吉高校 他 5 校) での大学・学部説明
2023 年 9 月 5 日
11. 大内秀一: 日本私立薬科大学協会 第 43 回教務部長会に出席
2023 年 11 月 10 日
12. 和田哲幸: 第 33 回 日本健康体力栄養学会 運営委員
2026 年 2 月 22 日
13. 和田哲幸: 高齢者のための低栄養防止コンソーシアム大阪 代表
2017 年 10 月～
14. 和田哲幸: フレイル・ニュートリケア研究会 会長
2025 年 4 月～
15. 和田哲幸: 八尾市薬剤師会 講演「フレイル予防でより健康な生活を～薬剤師が果たせる役割について～」
「フレイルについて」
2026 年 2 月 15 日
16. 和田哲幸: 徳島県小松島市 市長面談「CKD 予防ならびにフレイル対策を用いた定期健康診断受診率アップについて」 市長と面談 今後の取り組みに協力することで合意する
2023 年 10 月
17. 船上仁範: 連携講義 おくすり教室 (3 年生)
近畿大学附属小学校 2025 年 12 月 4 日
18. 船上仁範: 連携講義 薬物乱用について (5 年生)
近畿大学附属小学校 2026 年 2 月 12 日
19. 船上仁範: 日本薬理学会 学術評議員
2008 年 4 月 1 日～

医薬品化学研究室

職・氏名・学位

教授・前川 智弘・博士(薬学)
Tomohiro Maegawa

担当科目：近大ゼミ(1)、基礎有機化学(創1)、医薬品化学(医3)、薬学概論(創1分担)、キャリアデザイン(創1分担)、基礎薬科学実習(1分担)、有機・生薬学実習(医2分担、創2分担)

所属学会：日本薬学会、有機合成化学協会、プロセス化学会、アメリカ化学会、国際複素環化学会、ヨウ素学会

助 教・松岡 純平・博士(薬学)
Junpei Matsuoka

担当科目：近大ゼミ(1)、基礎薬科学実習(医1、創1分担)、有機化学・生薬学実習(医2分担・創2分担)、有機反応化学(創2)、化学英語(医2)

所属学会：日本薬学会、有機合成化学協会、プロセス化学会、日本ヨウ素学会

現在行われている主な研究テーマ

1. メチレンアセタールの新規変換法の開発
2. 超原子価ヨウ素試薬を用いた転位反応
3. ハロゲン化合物の新規合成法の開発
4. フッ素系溶媒のみで脱保護可能な保護基開発
5. 硫黄化合物を用いた連続反応の開発
6. ベンゾフラン誘導体合成法の開発
7. アルカリ金属と環状エーテルを用いたアミド活性化法の開発

研究業績

[原著論文]

1. Matsumura M, Kawasaki H, Yamagami N, Izumi K, Yoshimizu T, Katagiri, T, Nakamura A, Miki Y, Matsuoka J, Maegawa T: Fluorous solvent-promoted deprotection of p-methoxybenzyl- and 2,4-dimethoxyphenylmethyl-protected alcohols with camphorsulfonic acid
Bull. Chem. Soc. Jpn. **99**, uoag085, 2026 年 6 月

[学会・シンポジウム]

1. 松岡 純平、川上 真奈、刀根 七海、山本 康友、前川 智弘: アルカリ金属塩基触媒とクラウンエーテル類を組み合わせたヒドロアミド化反応の開発
日本薬学会第146年会(大阪)、2026年3月29日
2. 松岡純平、川上真奈、山本康友、前川智弘: アルカリ金属と環状ポリエーテルを組み合わせた分子内ヒドロアミド化反応の開発
第51回反応と合成の進歩シンポジウム(広島)、2025年11月2日
3. 松岡純平、大谷津光汰、前川智弘: 超原子価ヨウ素試薬を用いたベンジルアルコールから転位反応を経由するフェノール合成法の開発
第51回反応と合成の進歩シンポジウム(広島)、2025年11月2日
4. 松岡純平、川上真奈、刀根七海、山本康友、前川智弘: アルカリ金属塩基触媒とクラウンエーテル類を用いたヒドロアミド化反応の開発
第54回複素環化学討論会(東京)、2025年10月10日

5. 松岡純平、刀根七海、川上真奈、山本康友、前川智弘: 18-Crown-6 と *t*-BuOK を用いた分子内ヒドロアミド化反応によるラクタム合成
第 75 回日本薬学会関西支部大会 (京都)、2025 年 10 月 4 日
6. 松岡純平、中田陽斗、東岡晟也、前川智弘: 温和な条件で脱保護可能な新規 PMB 型保護基の置換位置の違いによる反応性の検討
第 75 回日本薬学会関西支部大会 (京都)、2025 年 10 月 4 日
7. 松岡純平、澤田実優、矢野結菜、前川智弘: 単体硫黄(S₈)と臭素化剤を用いるビフェニルアルデヒドからのアミノフルオレン合成法の開発
第 75 回日本薬学会関西支部大会 (京都)、2025 年 10 月 4 日
8. 松岡純平、林 幸則、牧村亜美、田頭絢奈、前川智弘: セレンと NBS を用いたアルデヒド由来の環状アセタールの酸化的エステル化反応の開発
第 75 回日本薬学会関西支部大会 (京都)、2025 年 10 月 4 日
9. 松岡純平、矢野結菜、岡口莉子、山崎未雛、前川智弘: チオフェノール類と DBI を組み合わせた電子不足な芳香族化合物の臭素化反応の開発
第 75 回日本薬学会関西支部大会 (京都)、2025 年 10 月 4 日
10. 松岡純平、矢野結菜、岡口莉子、山崎未雛、前川智弘: 硫黄化合物と臭素化剤の組み合わせによる不活性な芳香環のハロゲン化反応の開発
日本プロセス化学会 2025 サマーシンポジウム (東京)、2025 年 7 月 25 日

[外部助成]

- 前川智弘 (代表): 単体硫黄を活性化剤として用いるハロゲン化反応の開発と新規ラジカル反応への展開
令和 5 年～令和 8 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
- 前川智弘 (代表): ハロゲン化合物に対する硫黄原子の潜在的な活性化能力を活かした新規合成反応の開発とその応用
令和 6 年～令和 8 年度 公益財団法人 小林財団 研究助成

[教育・社会活動]

1. 前川智弘: 薬学教育協会有機化学系教科担当教員会議委員
2. 前川智弘: 日本薬学会化学系薬学部会役員
3. 前川智弘: 日本薬学会関西支部委員
4. 前川智弘: 日本薬学会 Chemical and Pharmaceutical Bulletin 編集委員

創薬分子設計学研究室

職・氏名・学位

教授・仲西 功・博士(薬学)
Isao Nakanishi

担当科目：近大ゼミ(1)、薬学概論(創1分担)、情報科学実習(1分担)、物理化学(創2)、物理化学(医2)、医薬品物性・製剤学実習(医2分担)、キャリアデザイン(創2分担)、創薬化学(3分担)、物理学実習(3)、データサイエンス演習(創2分担)、香粧品学(創3分担)、総合演習1(医4分担)、総合薬学演習(医6分担)、総合演習2(医6分担)、治験(医6分担)、その他(臨床検査学関連科目)

所属学会：日本薬学会、日本薬学会構造活性関連部会、日本薬学会医薬化学部会、日本ケミカルバイオロジー学会、日本臨床検査学教育学会

准教授・西脇 敬二・博士(薬学)
Keiji Nishiwaki

担当科目：近大ゼミ(1)、基礎化学(創1分担)、化学入門(創1分担)、化学熱力学(創1)、化学演習(創1分担)、オープンラボ1(創1)、新創薬科学研究コース2(創2)、医薬品物性・製剤学実習(医2分担)、創薬インフォマティクス演習(創2分担)、構造活性関連(創3分担)、総合演習1(医4分担)、総合薬学演習2(医6)、総合演習2(医6)

所属学会：日本薬学会、日本薬学会医薬化学部会、日本薬学会構造活性関連部会、日本化学会、有機合成化学協会

講師・中村 真也・博士(薬学)
Shinya Nakamura

担当科目：近大ゼミ(1)、基礎物理化学(医1)、情報科学実習(1分担)、医薬品物性・製剤学実習(医2分担)、創薬化学(3分担)、創薬科学実習3(創3分担)、構造活性関連(創3分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬学会構造活性関連部会、日本化学会情報化学部会、情報計算化学生物学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 新規 Protein kinase CK2 阻害剤の創出研究
2. 新規 α -Glucosidase 阻害剤の創出研究
3. β -Cyclodextrin とバルビタール類との包接化合物の構造解析・熱力学的研究
4. Fragment Molecular Orbital 法を用いたリガンド結合エネルギーの計算法の改良研究
5. MM-PBSA 法を用いたリガンドの活性予測法の改良研究
6. ドッキング計算と分子動力学法を用いたリガンド結合様式の予測法の開発研究

研究業績

[著書]

1. 中村真也(分担執筆)「薬学情報科学 II. データサイエンス応用(新スタンダード薬学シリーズ 第6巻)」新スタ薬シリーズ編集委員会 編、第4章(§4・3～4・5)、東京化学同人、2025.10

[学会・シンポジウム]

1. 西脇敬二、中谷汐里、中川愛理、吉岡賢司、中村真也、露口正人、木下誉富、仲西功：プリン骨格を有する Protein Kinase CK2 阻害剤の構造活性関連研究
第53回構造活性関連シンポジウム、大阪、2025年9月4日(ポスター)
2. 高島 克輝、真鍋 佳帆梨、田井 利之、山下 真優、中村 真也、丸本 真輔、石川 文洋、仲西 功、森川 敏生、田邊 元三：アーユルベータ薬物“Salacia”由来 α -グルコンダーゼ阻害剤 Salacinol の構造活性関連研究: 3' 位ベンジル基への硫黄官能基の導入とその活性評価
日本薬学会第146年会、大阪、2026年3月29日(口頭発表)

3. Keiji Nishiwaki, Yasuhiro Morikawa, Shigeo Suzuki, Kazutaka Shiomi, Isao Nakanishi : Development and application of a new GC-MS method for the determination of cyanide using the highly selective derivatization reagent 1,2,3,3-tetramethyl-3H-indolium iodide (TMI).
MULTIHEALTH 2025: Global Congress on Advanced Biomedical, Clinical & Translational Sciences
2025.11.17-18.
4. 水野 友理, 緒方 文彦, 西脇 敬二, 植松 勇伍, 川崎 直人 : Mg-Al および Mg-Fe を基材とした新規複合水酸化物による 6 価クロムイオン吸着能に関する基礎研究
メタルバイオサイエンス研究会 2025(八王子) 2025 年 10 月 22 日(ポスター)
5. 水野 友理, 緒方 文彦, 西脇 敬二, 植松 勇伍, 川崎 直人 : 6 価クロムイオン除去を指向した新規複合水酸化物の創製条件の最適化
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会 (京都) 2025 年 10 月 4 日(口頭)

[教育・社会活動]

1. 仲西功: 第 110 回薬剤師国家試験問題検討委員会「物理・化学・生物」部会 委員
オンライン 2025 年 5 月 10 日
2. 仲西功: 薬学教育支援システム 国試教材 (第 110 回薬剤師国家試験問題 (物理化学分野) 解説作成)
エスエイティーティー株式会社 2025 年 4 月
3. 仲西功: 日本薬学会 構造活性相関部会 常任幹事
～2026 年 3 月
4. 仲西功: 日本医療研究開発機構 (AMED) 課題評価委員
2024 年 12 月～
5. 仲西功: 蓬庵社 選考委員
2022 年 4 月～
6. 中村真也: ケモインフォマティクス若手の会 コアメンバー
～2025 年 3 月
7. 中村真也: 科学技術・学術政策研究所(NISTEP) 専門調査員
～2025 年 3 月
8. 中村真也: 第 53 回構造活性相関シンポジウム 実行委員
2025 年 9 月 4～5 日
9. 西脇敬二: 第 53 回構造活性相関シンポジウム 実行委員
2025 年 9 月 4～5 日

分子細胞生物研究室

職・氏名・学位

教 授・山下 暁朗・博士(医学)
Akio Yamashita

担当科目：近大ゼミ(1)、薬学概論(創 1 分担)、生物学演習(創 1 分担)、分子生物学(医 2 分担)、バイオ・ゲノム薬科学(創 2 分担)、ゲノム創薬と再生医療 (2 分担)、免疫・分子生物学実習(医 2 分担)

所属学会：日本分子生物学会、日本生化学会、癌学会、日本 RNA 学会

准教授・高崎 輝恒・博士(理学)
Teruaki Takasaki

担当科目：近大ゼミ(1)、薬学概論(創 1 分担)、基礎生物学(1)、生物学入門(1)、分子生物学(医 2 分担)、バイオ・ゲノム薬科学(創 2 分担)、免疫・分子生物学実習(2 分担)、グローバル創薬科学演習 (創 3 分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本分子生物学会、酵母遺伝学フォーラム、日本プロテインホスファターゼ研究会

講 師・佐藤 亮介・博士(薬学)
Ryosuke Satoh

担当科目：近大ゼミ(1)、ゲノム創薬と再生医療 (2 分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本生化学会、酵母遺伝学フォーラム、日本分子生物学会、日本 RNA 学会、日本プロテインホスファターゼ研究会

現在行われている主な研究テーマ

1. mRNA 監視機構阻害法の開発
2. タンパク質翻訳の分子基板の解析
3. SMG1 キナーゼ活性制御剤の開発
4. 酸化ストレス制御機構の解析
5. グルタチオン合成・代謝機構の解析
6. Angiotensin II-AT1R シグナル機構の解析
7. ファンギン系抗真菌薬の耐性化回避法の開発

研究業績

[原著論文]

1. Machitani Mitsuhiro, Nomura Akira, Yamashita Taro, Yasukawa Mami, Ueki Saori, Fujita Ken-Ichi, Ueno Toshihide, Yamashita Akio, Tanzawa Yoshikazu, Watanabe Masahiko, Taniguchi Toshiyasu, Saitoh Noriko, Kaneko Shuichi, Kato Yukinari, Mano Hiroyuki, Masutomi Kenkichi: Author Correction: Maintenance of R-loop structures by phosphorylated hTERT preserves genome integrity
Nature Cell Biology, **28**, 641-641, 2026 年. doi: 10.1038/s41556-026-01884-1
2. Mo Yufeng, Ishiguro Kensuke, Miyauchi Kenjo, Sakaguchi Yuriko, Hanzawa Yosei, Akiyama Naho, Murayama Ayaka, Machida Kodai, Imataka Hiroaki, Yamashita Akio, Ohira Takayuki, Shirouzu Mikako, Suzuki Tsutomu: Translational regulation by oxidative desulfuration of tRNA modifications
Nature Communications, **17**, 2125, 2026 年. doi: 10.1038/s41467-026-70126-7
3. Taguchi Shinya, Azushima Kengo, Kitada Kento, Morisawa Norihiko, Kidoguchi Satoshi, Morita Ryutaro, Nakagawa Kazuya, Ishibe Atsushi, Endo Itaru, Kazama Keisuke, Rino Yasushi, Saito Aya, Kinguchi Sho, Kobayashi Ryu, Matsusaka Taiji, Yamashita Akio, Wakui Hiromichi, Nishiyama Akira, Tamura Kouichi: Keratinocyte-specific angiotensin II receptor-associated protein deficiency exacerbates angiotensin II-dependent hypertension via activation of the skin renin-angiotensin system
Nature Communications, **16**, 4789, 2025 年. doi: 10.1038/s41467-025-60041-8
4. Onomoto Koji, Sakai Monami, Watanabe Miyu, Fukao Akira, Sakamura Yurika, Miyao Mai, Tomohiro Takumi, Yamashita Akio, Fujiwara Toshinobu, Takahashi Tomoko, Ui-Tei Kumiko, Yoneyama Mitsutoshi: TRBP modulates RLR signaling by inhibiting PKR-mediated antiviral stress granule formation
Scientific Reports, **15**, 20678, 2025 年. doi: 10.1038/s41598-025-07121-3

5. Okami Naohito, Wakui Hiromichi, Tanaka Shohei, Kobayashi Ryu, Tsukamoto Shunichiro, Taguchi Shinya, Morita Ryutaro, Kubo Eisuke, Yamashita Akio, Azushima Kengo, Tamura Kouichi: Effects of proximal tubule-specific ATRAP enhancement on hypertension in a remnant kidney chronic kidney disease model of mice
Scientific Reports, **15**, 27391, 2025 年. doi: 10.1038/s41598-025-12168-3
6. Mizuguchi Mariko, Takahashi Yoshiaki, Tanaka Reiko, Imaizumi Naoki, Yamashita Akio, Matsushita Nobuko, Fukushima Takuya, Tanaka Yuetsu: Association Between FOXP3 and OX40 Expression in Adult T-Cell Leukemia Cells
Viruses, **17**, 1445-1445, 2025 年. doi: 10.3390/v17111445

[学会・シンポジウム]

1. 山下暁朗、藤原俊伸: 真核生物における翻訳が制御する生命現象・疾患
第 48 回日本分子生物学会年会、2025 年
2. Yamane T, Takasaki T, Sugimoto T, Yamada R, Sugiura R: The impact of FK506 Binding Protein (FKBP12) on a-Syn aggregation
Pombe meeting 2025 (Boston)、2025 年 8 月 4 日

[外部助成] (科研や企業の奨学研究予算など、研究タイトルの非公開も可)

1. 山下暁朗(代表): 生体内ネットワークの理解による難治性がん克服に向けた挑戦
令和 7 年度 内閣府 ムーンショット型研究開発制度
2. 山下暁朗(代表): 細胞ストレスによる mRNA 監視機構抑制の分子機構とがん抗原発現機構の解明
令和 7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (B)
3. 山下暁朗(分担): ゲノム編集技術を使用したヒトパピローマウイルスの感染機構に関する研究
令和 7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
4. 山下暁朗(分担): 中枢神経での受容体結合因子に着目した高血圧・腎障害の病態関連制御
令和 7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
5. 高崎輝恒(代表): キャンディン系抗真菌薬の感受性を左右するオートファジー依存的細胞死機構の解析
令和 6 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
6. 佐藤亮介(代表): RNA 相分離によるシグナル伝達スイッチを介した細胞運命制御機構
令和 6 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

薬品分析学研究室

職・氏名・学位

教授・木下 充弘・博士(薬学)
Mitsuhiro Kinoshita

担当科目：近大ゼミ(1)、分析化学 1(医分担)、分析化学 2(医・創 2)、
キャリアデザイン(創 2)、医薬品物性・製剤学実習(医 2 分担)、分析
化学・製剤学実習(創 2 分担)

所属学会：日本薬学会、日本分析化学会、日本糖質学会、日本生化学会

准教授・山本 佐知雄・博士(薬学)
Sachio Yamamoto

担当科目：近大ゼミ(1)、分析化学 1(医・創 1 分担)、化学演習(創 1
分担)、化学入門 (創)、医薬品物性・製剤学実習(医 2 分担)、分析化
学・製剤学実習(創 2 分担)

所属学会：日本薬学会、クロマトグラフィー科学会、日本分析化学会、化学とマイクロ・ナノシステム
学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 糖タンパク質糖鎖の完全自動化解析
2. 細胞増殖シグナル依存的なタンパク質糖鎖変化の解析
3. グライコームアプローチによる糖鎖バイオマーカーの探索
4. マイクロチップ電気泳動法のための高度濃縮法の開発
5. キャピラリー電気泳動における新規分離モードと分離技術の開発
6. アフィニティーキャピラリー電気泳動を使った糖タンパク質性医薬品の品質管理

研究業績

[原著論文]

1. Yamamoto S, Ueda Y, Onishi S, Kinoshita M : Twisted Nylon Monofilament Mold Microchips
for On-Line Derivatization of Oligosaccharides Utilizing 8-Aminopyrene-1,3,6-Trisulfonic Acid
Chromatography, **46**, 35-39 2025 年 2 月

[学会・シンポジウム]

1. 根本美樹、岡井咲京、國吉美杏、山本佐知雄、木下充弘：シアル酸結合様式特異的アルキ
ルアミド化による酸性糖鎖の電気泳動/クロマトグラフィー分離能の向上
第 45 回キャピラリー電気泳動シンポジウム（東京）2025 年 12 月
2. 山本佐知雄、小坂隆貴、玉利明咲、井田さくら、木下充弘：マイクロ流体デバイスによる
蛍光標識化糖鎖のフロー電解合成
第 45 回キャピラリー電気泳動シンポジウム（東京）2025 年 12 月
3. 金弦直美、山本佐知雄、木下充弘：NanoLC-MALDI-TOF/TOF MS によるプロテオーム
解析の開発
第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会（京都）2025 年 10 月
4. 湖海心咲、山本佐知雄、木下充弘：細胞内タンパク質の極性輸送と翻訳後糖鎖修飾に関す
る研究
第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会（京都）2025 年 10 月
5. 山川結菜、山本佐知雄、木下充弘：糖タンパク質糖鎖の高解像度分析のための 2 次元分離
分析法の開発
第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会（京都）2025 年 10 月

6. 林 夢仁、山本佐知雄、木下充弘: レクチン固定化アクリルアミドゲルによる糖鎖の二次元
アフィニティーマイクロチップ電気泳動法の開発
第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会 (京都) 2025 年 10 月
7. Sachio Yamamoto, Ryuki Kosaka, Asaka Tamari, Sakura Ida, Mitsuhiro Kinoshita.: On-line
electrochemical synthesis of fluorescently labeled glycans utilizing a microfluidic chip with
electrodes
20th Asia-Pacific International Symposium on Microscale Separations and Analysis
(Kyoto) 2025 年 9 月
8. 山本佐知雄、小坂隆貴、玉利明咲、井田さくら、木下充弘: マイクロ流体チップを用いた
蛍光標識化糖鎖のオンライン電解合成
第 37 回バイオメディカル分析科学シンポジウム (東京) 2025 年 8 月
9. 山本佐知雄、小坂隆貴、玉利明咲、井田さくら、坂口菜緒、木下充弘: マイクロ流体チッ
プを用いた 7-amino-4-methylcoumarin 標識化糖鎖のオンライン電解合成
第 32 回クロマトグラフィーシンポジウム (長崎) 2025 年 5 月

[外部助成]

1. 山本佐知雄: タンパク質翻訳後修飾の in situ 全自動高速解析用マイクロチップ電気泳動法
令和 5～7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
2. 山本佐知雄 (分担): 超高感度キャピラリー電気泳動技術を基盤とした次世代グライコシ
ーセンサーの開発
令和 5～8 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)
3. 山本佐知雄: 糖鎖解析に関する研究
令和 7 年～8 年度 シーエステック株式会社

[報償等]

1. 山本佐知雄: 第 21 回近畿分析技術研究奨励賞
日本分析化学会近畿支部 2026 年 3 月 13 日

[教育・社会活動]

1. 木下充弘: 日本分析化学会電気泳動分析研究懇談会 委員
2017 年 4 月～
2. 木下充弘: 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 生物薬品委員会委員
2020 年 12 月～
3. 山本佐知雄: タンパク質科学会アーカイブ編集委員
2021 年 4 月～
4. 山本佐知雄: 日本分析化学会電気泳動分析研究懇談会 委員
2019 年 4 月～
5. 山本佐知雄: 日本分析化学会近畿支部 幹事
2024 年 4 月～
6. 山本佐知雄: クロマトグラフィー科学会 評議員
2022 年 1 月～

薬用資源学研究室

職・氏名・学位

教授・遠藤 雄一・博士(薬学)
Yuichi Endo

担当科目：近大ゼミ(1)、薬用資源学(1 分担)、薬学概論(創 1 分担)、
基礎薬科学実習(1 分担)、キャリアデザイン(創 2 分担)、医薬品開発
論(創 2 分担)、有機化学・生薬学実習(2 分担)、漢方薬学(3)、インタ
ーシップ(創 3 分担)、産学連携講座(創 3 分担)

所属学会：日本薬学会、日本生薬学会、和漢医薬学会、日本東洋医学会、薬用植物栽培研究会、
日本癌学会、レギュラトリーサイエンス学会

准教授・村田 和也・博士(農学)
Kazuya Murata

担当科目：近大ゼミ(1)、基礎薬科学実習(1 分担)、天然物薬化学(3)、
医薬品開発論(創 2 分担)、薬学専門英語(創 3 分担)、香粧品学(3 分
担)、有機化学・生薬学実習(2 分担)

所属学会：日本薬学会、日本化学会、日本生薬学会、アメリカ化学会、日本農芸化学会

講師・高浦 佳代子・博士(薬学)
Kayoko Takaura

担当科目：近大ゼミ(1)、薬用資源学(1 分担)、基礎薬科学実習(1 分
担)、有機化学・生薬学実習(2 分担)、グローバル創薬科学演習(創 3
分担)

所属学会：日本薬学会、日本生薬学会、和漢医薬学会、日本東洋医学会、薬用植物栽培研究会、
日本薬史学会、文化財保存修復学会、国際園芸学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 未利用農産資源からの機能性素材開発
2. 薬用人参、インド産薬用植物の機能性探索
3. 独居性カリバチ毒液成分の構造解析
4. 柿蒂の品質研究
5. 芍薬の品質研究
6. 漢方処方における生薬配合意義の化学的解明

研究業績

[著書]

1. 遠藤雄一(分担執筆)：漢方薬の品質保証と漢方 GMP (健康食品との違い)、漢方薬・生薬
薬剤師講座テキスト (第 6 版) 1、公益財団法人日本薬剤師研修センター編
pp.200-223、公益財団法人日本薬剤師研修センター 2026 年 3 月
2. 高浦佳代子(分担執筆)：先端分析技術で鮮やかに読み解く 文化資源が秘めた歴史物語、
新知創造学際領域形成(学際ハブ)事例集編集委員会編
pp. 18-21、東北大学金属材料研究所 2024 年 10 月

[その他の刊行物]

1. 坂東桜羽：日本薬史学会優秀発表賞を受賞して

2025 年 8 月 薬史レター 95 号

[学会・シンポジウム]

1. 遠藤雄一：漢方とフレイル
第 103 回日本生理学会 シンポジウム（東京）、2026 年 3 月 10 日
2. 村田和也、遠藤雄一：独居性カリバチオオモンツチバチ毒液成分の構造解析
第 67 回天然有機化合物討論会（仙台）、2025 年 9 月 9 日
3. 中村紀映、和田佑哉、夏川美結、出口貴浩、島田紘明、遠藤雄一：*Ocimum gratissimum* の葉が有する α -amylase 阻害活性成分の検討
第 75 回日本薬学会関西支部会（京都）、2025 年 10 月 4 日
4. 桑村亮太郎、出口貴浩、遠藤雄一、中澤洋介、大竹裕子、長井紀章：ナノサスペンション技術を核としたヘスペレチン経口処方の開発とその消化管吸収評価
第 75 回日本薬学会関西支部会（京都）、2025 年 10 月 4 日
5. 森田愛梨、高浦（島田）佳代子、善利佑記、高橋京子、遠藤雄一：近畿大学所蔵の生薬標本の概況と APGIV による再分類
日本薬史学会 2025 年会（静岡）、2025 年 10 月 4 日
6. 谷本明莉、高浦（島田）佳代子、善利佑記、高橋京子、遠藤雄一：多変量解析による緒方洪庵関連史料収載生薬の史料間比較
日本薬史学会 2025 年会（静岡）、2025 年 10 月 4 日
7. 村田和也：独居性カリバチ毒液成分の網羅的解析～物取り屋の挑戦～
天然物を起点とする有機化学の挑戦（札幌）、2025 年 11 月 11 日
8. 村田和也、松井咲樹、遠藤雄一：独居性カリバチエントツドロバチ毒液由来新規ペプチドの解析
日本薬学会第 146 年会（吹田）、2026 年 3 月 27 日
9. 和田佑哉、出口貴浩、神山月咲、原昌弘、遠藤雄一：フィブリン平板法およびユーグロブリン溶解時間法を用いた三七人參エキスの線溶系における作用の検討
日本薬学会第 146 年会（吹田）、2026 年 3 月 28 日
10. 高浦佳代子、森田愛梨、近藤里咲、善利佑記、高橋京子、遠藤雄一：緒方洪庵関連薬物史料の薬史学的検証
日本薬学会第 146 年会（吹田）、2026 年 3 月 29 日

[外部助成]

1. 遠藤雄一（代表）：民間企業からの受託研究 2 件、寄附研究 1 件
2. 高浦佳代子（代表）：実験薬史学的手法と新規非破壊分析法による蘭方医薬学の実態解明
令和 5 年度 文部科学省科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)
3. 高浦佳代子（代表）：The exploration of the suites of crude drug specimens collected around early 20th century reflecting the region specific ‘medicinal culture’.
International Society for the History of Pharmacy Research Grant 2023/24

[教育・社会活動]

1. 遠藤雄一：近畿大学薬学部薬用植物園園長

2025 年 4 月～2026 年 3 月

2. 遠藤雄一：薬学教育協議会 生薬学・天然物化学関連教科担当教員
2025 年 4 月～2026 年 3 月
3. 遠藤雄一：日本薬学会関西支部委員
2025 年 4 月～2026 年 3 月
4. 遠藤雄一：株式会社ア・ファーマ近大 取締役
2025 年 4 月～2026 年 3 月
5. 遠藤雄一：日本薬剤師研修センター 漢方薬・生薬認定薬剤師研修委員会 委員
2025 年 4 月～2026 年 3 月
6. 遠藤雄一：国際標準化委員会 ISO/TC249 国内委員・WG エキスパート
2025 年 4 月～2026 年 3 月
7. 遠藤雄一：大阪医療技術学園専門学校 教育課程編成委員会委員
2025 年 4 月～2026 年 3 月
8. 遠藤雄一：大阪府民カレッジ 講演「薬用植物の観察及び知識を得る」
2025 年 5 月 27 日
9. 遠藤雄一：第 2 回全国夢健研究会全国大会 講演「三七人参の科学的解明研究」
2025 年 10 月 12 日
10. 遠藤雄一：2025 年度日本東洋医学会関西支部例会 特別講演「薬系大学における漢方教育と漢方薬・生薬認定薬剤師制度について」
2025 年 10 月 26 日
11. 遠藤雄一：大阪府高齢者大学校 講演「医薬品、健康食品になる植物」
2025 年 10 月 30 日
12. 村田和也：日本生薬学会関西支部委員
2025 年 4 月～2026 年 3 月
13. 村田和也：生薬分析シンポジウム事務局
2025 年 9 月～2026 年 8 月
14. 高浦佳代子：日本薬史学会企画委員
2025 年 4 月～2026 年 3 月
15. 高浦佳代子：日本東洋医学会生薬原料委員
2025 年 4 月～2026 年 3 月
16. 高浦佳代子：大阪大学適塾記念センター招へい教員
2025 年 4 月～2026 年 3 月
17. 高浦佳代子：森野旧薬園 2025 年春季展覧会「森野旧薬園と薬草栽培への挑戦」
2025 年 3 月 23 日～2025 年 6 月 15 日
18. 高浦佳代子：生薬原料委員会・一般社団法人日本生薬学会共同企画「国産生薬に関する展示」
〔第 75 回日本東洋医学会学術総会（東京）内展示企画〕
2025 年 6 月 7 日～2025 年 6 月 8 日
19. 高浦佳代子：神戸市立博物館 受贈記念特別展「ガラスとともに―玻璃文庫名品撰」（調査・展示協力）
2026 年 2 月 28 日～2026 年 4 月 5 日

20. 遠藤雄一、高浦佳代子：近畿大学アカデミックシアターACT プロジェクト「生薬の図書館プロジェクト」

2025 年 4 月～2026 年 3 月

21. 遠藤雄一、高浦佳代子：夏休み小学生イベント「クラシエ漢方教室～葛根湯を作ってみよう！～」(近畿大学東大阪キャンパス THE GARAGE)

2025 年 8 月 6 日

機能性植物工学研究室

職・氏名・学位

教 授・角谷晃司・農学博士
Koji Kakutani

担当科目：近大ゼミ(1)、キャリアデザイン(創2分担)、生命の科学
(KICS オンデマンド)

所属学会：日本薬学会、日本生薬学会、日本植物細胞分子生物学会、日本農芸化学学会、薬用植物栽培
研究会

講 師・中村恭子・生命科学博士
Kyoko Nakamura

担当科目：近大ゼミ(1)、生命の科学 (KICS オンデマンド)

所属学会：日本分子生物学会、日本糖尿病学会、日本薬理学会、高血圧関連疾患モデル学会、日本生薬
学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 薬用植物の優良系統の大量増殖に関する研究
2. アンチエイジング作用を有する機能性成分の開発研究
3. 国内虫草菌の培養と有効成分の探索に関する研究
4. 静電場スクリーンを用いた花粉およびウイルス粒子捕捉効果に関する研究
5. 植物廃棄物の利活用に関する研究

研究業績

[原著]

1. Takikawa Y, Matsuda Y, Kakutani K, Sonoda T, Toyoda H : A Simple Window Screen to Create Electric Discharges for Repelling and Exterminating Stable Flies and Houseflies in Cattle Barns.
Agriculture **14**(9) 1435-1435 2024 年 8 月 23 日
2. Matsuda Y, Kakutani K, Toyoda H : A Simple Electrostatic Apparatus for Controlling Weeds on Slopes without Causing Soil Erosion.
American Journal of Civil Engineering and Architecture, **12**(1), 1-7 2024 年 1 月 4 日

[その他の刊行物]

[学会・シンポジウム]

1. 角谷 晃司、福塚 悠：BICシステムによるトマチナーゼの効率的な生産
日本農芸化学会2025年度大会（札幌）3月5日（ポスター）
2. 井上歩美、西村 晴、森川実咲、高田隆矢、萬瀬貴昭、新居慶二、杉本一郎、角谷晃司、
森川敏生：国産植物染料素材ニホンアカネ（日本茜）のコラゲナーゼ阻害活性成分
第75回 日本薬学会関西支部総会・大会（京都）10月04日（ポスター）
3. 高田隆矢、與儀暁乃、長谷川暢大、角谷晃司、森川敏生：大分県産サフラン（*Crocus sativus*
L.）の血中中性脂肪上昇抑制作用
第69回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（徳島）11月1-4日

[研究報告書]

[外部助成]

1. 角谷晃司(代表): トマト茎葉廃棄物の利活用に関する研究
クレハ
2. 角谷晃司(代表): 高付加価値植物の組織培養生産技術の確立による新たな有用物質の探索
ファルマクリエ神戸
3. 角谷晃司(代表): 日本茜の栽培に関する生産効率向上と染色用途での確保と高度化に関する研究
日本茜再生機構
4. 中村恭子(代表): 高血糖状態が新型コロナウイルス感染に及ぼす影響
令和4年度～令和7年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[特許]

1. 微小粒子状物質補足装置 (特許第 7146186 号)
学校法人近畿大学、地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所、アース環境サービス株式会社、株式会社園田製作所
2. α -トマチンの製造方法 (特願 2021-098718)
学校法人近畿大学、株式会社クレハ環境、株式会社クレハ (2021 年 6 月 10 出願)
3. 空気処理装置及びその処理方法捕捉装置 (特許 7740656 号)
学校法人近畿大学、地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所、株式会社園田製作所、トワロン株式会社 (2021 年 12 月 1 日 出願)
4. 雑草抑制装置 (特許 7795164 号)
学校法人近畿大学、トワロン株式会社 (2024 年 2 月 29 日 出願)

[教育・社会活動]

1. 角谷晃司: 静電場スクリーン研究会 幹事
2016 年 4 月～
2. 角谷晃司: アンエイジングセンター 副センター長
2023 年 4 月～
3. 角谷晃司: 全学横断型研究プロジェクト
研究クラスター③環境・エネルギー・再生
静電場技術を利用した環境改善技術の開発 (提案者: 角谷晃司)
2021 年 4 月～
4. 角谷晃司: ACT プロジェクト (日本茜魅力発見プロジェクト)
2023 年 4 月～
5. 「WAZA MEET UP OSAKA」日本茜染色ワークショップ (大阪・関西万博)
2025 年 5 月 3-5 日
6. 幻の植物「日本茜」挿し木講習会 (The Garage)
2025 年 5 月 14 日
7. 日本茜染色 ワークショップ(The Garage)
2025 年 6 月 25 日

8. 第2回日本茜染色 ワークショップ(The Garage)

2025 年 8 月 6 日

9. 学校法人近畿大学創立 100 周年スペシャルイベント「海と大地を耕す」「静電気でスマート防除—草も虫もウイルスもピタッとストップ! —」EXPO メッセ「WASSE」

2025 年 9 月 20 日

食品薬学研究室

職・氏名・学位

教 授・森川 敏生・博士（薬学）
Toshio Morikawa

担当科目：近大ゼミ(1)、分析化学 3(医 2 分担)、分析化学 3(創 2)、食品薬学(創 3)、基礎薬科学実習(1 分担)、有機化学・生薬学実習(2 分担)

所属学会：日本薬学会、日本生薬学会、和漢医薬学会、有機合成化学協会、日本農芸化学会、日本栄養・食糧学会、日本油化学学会、日本薬史学会、アメリカ化学会 (American Chemical Society)、アジア植物化学協会 (Phytochemical Society of Asia)、日本食品化学学会、日本女性医学学会、日本抗加齢医学会、日本香粧品学会、日本杜仲研究会、セラミド研究会、天然香気研究会、日本ヘアケア天然素材研究協会、アジア薬科大学協会 (Asian Association of Schools of Pharmacy)、日本森林医学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 世界各地の伝統・伝承薬物の伝承薬効の科学的解明および新規機能開拓
2. 機能性食品素材からの生物活性成分の探索研究
3. 補完代替医療素材の科学的評価とその機能性成分をシーズとする食品薬学研究
4. 天然由来化合物の作用メカニズムおよび構造活性相関の解明と分子プローブの創製

研究業績

[原著論文]

1. Takashima K, Manse Y, Suzuki R, Masuda N, Fukuda Y, Fukuda R, Marumoto S, Ishikawa F, Morikawa T, Tanabe G : Synthesis and biological evaluation of γ -alkylidenebutenolides isolated from *Melodorum fruticosum*: the role of the propylidene-type side chain structure on anti-melanogenic activity
Org. Biomol. Chem., **23**, 4497–4507 (2025)、2025 年 4 月
2. Shimada H, Sasai K, Manse Y, Morikawa T, Ueno S, Iwaki M : Inhibitory effect of *Ilex latifolia* leaf extract on postprandial increase in blood glucose level.
Tradit. Kampo Med., **12**, 135–142 (2025) 、2025 年 8 月
3. Inoue N, Sakamoto Y, Manse Y, Ninomiya K, Morikawa T : Oligomeric secoiridoid glycosides with hepatoprotective activity from the flowers of *Jasminum sambac* (L.) Aiton
Phytochemistry, **237**, 114538 (2025) 、2025 年 9 月
4. Morikawa T : Novel thiosugar sulfoniums, salacinol and neokotalanol, with antidiabetic activity obtained from plants of genus *Salacia*
Phytochem. Lett., **69 Suppl.**, 103114 (2025) 、2025 年 10 月
5. Takeda S, Shimoda H, Yoneda A, Manse Y, Morikawa T : Oryzaceramides A–C, acylated glucosylceramides with epidermal barrier functions, isolated from rice bran.
Phytochem. Lett., **71**, 104086 (2026) 、2026 年 2 月

[総説]

なし

[著書]

1. 青木俊二（編）、森川敏生（分筆）：『ベーシック薬学教科書シリーズ 7 生薬学・天然物化学（第 3 版）』化学同人（東京）
2 章 薬用動植物・鉱物 2.3 節 薬用植物と生薬、2.4 節 薬用動物・鉱物と生薬、pp. 28–107、2025 年 4 月
ISBN978-4-7598-2395-0
2. 新スタ薬シリーズ編集委員会（編）、森川敏生（分筆）：『新スタンダード薬学シリーズ 第 3 巻 基礎薬学 VI. 生薬学・天然物化学・漢方療法』東京化学同人（東京）
第 11 章 保健機能食品、農薬、香粧品などで使用されている天然生物活性物質、pp. 212–222、2025 年 9 月
ISBN978-4-8079-1738-9

3. 宮澤陽夫（監修）、森川敏生（分筆）：『食品機能性成分の吸収・代謝・作用機序II』シーエムシー出版（東京）
第1編第1章生活習慣病予防に資する食品素材からの（機能性）関与成分の探索、pp. 3-12、2025年10月
ISBN978-4-7813-1873-8

[その他の刊行物]

1. （寄稿）森川敏生：Seminar モノトリ研究の重要性
ファルマシア, **61**, 994-997 (2025)、2025年11月
2. （寄稿）森川敏生：食品薬学 -近畿大学からはじまった実学研究-
香散見草：近畿大学中央図書館報, **58**, 10-15 (2026)、2026年1月

[学会・シンポジウム]

1. 高田隆矢、吉川真以、西川勝悟、大津行延、萬瀬貴昭、眞岡孝至、松田久司、森川敏生：ツバキ種子由来トリテルペンサポニン camelliasaponin B₂ の脂質吸収抑制作用
日本食品化学学会第31回総会・学術大会（滋賀）、2025年6月5-6日
（国内・口頭）
2. 木野村菜々美、濱福幸奈、宮坂賢知、下田博司、森川敏生、石塚茂宜、山崎 晶、五十嵐靖之、光武 進：新規 6-Acyl-Glucosylceramide はマクロファージ誘導性 C 型レクチン受容体（Mincle）を強く活性化する
令和7年度日本生化学会九州支部例会（宮崎）、2025年6月13-14日
（国内・ポスター）
3. 村井弘道、下田博司、宮坂賢知、竹田翔伍、光武 進、濱福幸奈、木野村菜々美、森川敏生、石塚茂宜、山崎晶、五十嵐靖之：米由来グルコシルセラミドの自然免疫賦活作用とその作用機序および機能性関与成分
第25回日本抗加齢医学会総会（大阪）、2024年6月13-15日
（国内・ポスター）
4. Takada R, Takeda S, Shimoda H, Tsukumo M, Kubota K, Yamashita M, Matsuda H, Morikawa T：Anti-hyperlipidemic effect of momordin Ic obtained from mountain caviar, a local cuisine ingredient in Japan
The 12th Asian Association of Schools of Pharmacy Conference (ASAP2025, Saitama, Japan)、2025年8月2-4日
（国際・ポスター）
5. Nishikawa S, Nagabuchi M, Nakamura M, Nagano A, Takada R, Manse Y, Morikawa T：Antiallergic principles from the roots of *Sophora flavescens* Aiton
The 12th Asian Association of Schools of Pharmacy Conference (ASAP2025, Saitama, Japan)、2025年8月2-4日
（国際・ポスター）
6. 高田隆矢、松田久司、森川敏生：地膚子に含有されるトリテルペンサポニン momordin Ic の脂質吸収抑制作用
第6回和漢医薬学会若手研究者フォーラム（広島、ハイブリット）、2025年8月22日
（国内・口頭）
7. 高田隆矢、竹田翔伍、下田博司、津雲基光、久保田和孝、山下真行、松田久司、森川敏生：“地膚子”含有 momordin Ic の脂質吸収抑制作用
第42回和漢医薬学会学術大会（広島）、2025年8月23-24日
（国内・口頭）
優秀発表賞（口頭発表の部）に選出
8. 井上歩美、西村 晴、西さくら、森川実咲、萬瀬貴昭、森川敏生：Gamboge（ガンボージ、藤黄）に含有されるポリプレニルキサントンのコラゲナーゼ阻害活性
第42回和漢医薬学会学術大会（広島）、2025年8月23-24日
（国内・ポスター）
9. 尾田好美、松田久司、森川敏生、細木るみこ、中嶋聡一：オオバゲッキツ葉部含有カルバゾール型アルカロイドの抗マラセチア菌作用について
第42回和漢医薬学会学術大会（広島）、2025年8月23-24日
（国内・ポスター）

10. 佐々木将太郎、熊内雅人、福田陽一、森川敏生、赤井周司：水耕栽培によるセンブリの効率的な生産方法の検討
第 42 回和漢医薬学会学術大会（広島）、2025 年 8 月 23-24 日
（国内・ポスター）
優秀発表賞（ポスター発表の部）に選出
11. 西川勝悟、山田遥己、中村萌笑、高田隆矢、森川敏生：苦参（*Sophora flavescens* Aiton, 根）に含有されるプレニルフラボノイドの抗炎症作用
第 42 回和漢医薬学会学術大会（広島）、2025 年 8 月 23-24 日
（国内・ポスター）
12. 二宮清文、山本優雨、森川敏生：種々の生薬抽出エキスのインスリン様糖消費亢進活性
第 42 回和漢医薬学会学術大会（広島）、2025 年 8 月 23-24 日
（国内・ポスター）
13. 森川敏生：日本の森林でみかける生薬の基原となる薬用植物
第 2 回日本森林医学学術総会（大阪）、2025 年 8 月 27-28 日
（国内・口頭）
招待講演
14. 塩崎麻里子、田淵 恵、森川敏生、峯平慎哉、小林昭雄：植物栽培を通じた他世代交流によるコミュニケーションづくり
第 2 回日本森林医学学術総会（大阪）、2025 年 8 月 27-28 日
（国内・口頭）
招待講演
15. 高島克輝、鈴木璃子、萬瀬貴昭、石川文洋、森川敏生、田邊元三：エビネ由来天然物 calanthoside を基盤とした構造活性相関研究
第 53 回構造活性相関シンポジウム（大阪）、2025 年 9 月 4-5 日
（国内・口頭）
16. 西川勝悟、山田遥己、永渕真比呂、永野彩奈、中村萌笑、高田隆矢、萬瀬貴昭、森川敏生：クジン（*Sophora flavescens* Aiton, 根）の新規プレニルフラボノイドおよび抗炎症作用成分
日本生薬学会第 71 回年会（熊本）、2025 年 9 月 14-15 日
（国内・口頭）
優秀発表賞（口頭発表の部）に選出
17. 佐々木将太郎、熊内雅人、福田陽一、森川敏生、赤井周司：ヒロハセネガの水耕栽培におけるセネガ黒根病の発生と防除
日本生薬学会第 71 回年会（熊本）、2025 年 9 月 14-15 日
（国内・ポスター）
18. 高田隆矢、吉川真以、西川勝悟、小島正明、安藤匡哉、野崎香樹、眞岡孝至、松田久司、森川敏生：ツバキ種子に含有されるアシル化トリテルペンサポニンの一斉定量分析
日本生薬学会第 71 回年会（熊本）、2025 年 9 月 14-15 日
（国内・ポスター）
19. 尾田好美、松田久司、田中舞子、諸頭佑香、森田萌子、森川敏生、細木るみこ、中嶋聡一：ヘアケア天然原料等の品質規格策定のための基礎研究その 2—*Murraya koenigii* 葉部含有成分の抗マラセチア菌作用について—
日本生薬学会第 71 回年会（熊本）、2025 年 9 月 14-15 日
（国内・ポスター）

20. 二宮清文、山本優雨、森川敏生：種々の生薬抽出エキスの糖消費亢進活性
日本生薬学会第 71 回年会（熊本）、2025 年 9 月 14-15 日
(国内・ポスター)
21. 井上歩美、西村 晴、森川実咲、高田隆矢、萬瀬貴昭、新居慶二、杉本一郎、角谷晃司、森川敏生：国産植物染料素材ニホンアカネ（日本茜）のコラゲナーゼ阻害活性成分
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京田辺）、2025 年 10 月 4 日
(国内・口頭)
22. 西川陽斗、高島克輝、栗原郁帆、寺田実央、石川洋文、森川敏生、田邊元三：天然薬物 *Mammea siamensis* 由来ゲラニル多置換クマリン Kayeassamin A の全合成研究
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京田辺）、2025 年 10 月 4 日
(国内・ポスター)
優秀ポスター発表賞に選出
23. 新田弥加、松本 悠、高田隆矢、森川敏生：カンカニクジュヨウ含有フェニルエタノイド成分の腫瘍抑制阻害活性
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京田辺）、2025 年 10 月 4 日
(国内・ポスター)
24. 服部乙葉、浮田采伽、永渕真比呂、高田隆矢、小里建喬、斎藤大輔、齋藤志穂、森川敏生：柑橘由来フラボノイド成分の抗アレルギー作用
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京田辺）、2025 年 10 月 4 日
(国内・ポスター)
25. 浦 明里、Fatemeh Raouf Fard、西川勝悟、萬瀬貴昭、村岡 修、森川敏生：*Dorema ammoniacum* に含有されるセスキテルペンクマリンの構造解析
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会（京田辺）、2025 年 10 月 4 日
(国内・ポスター)
優秀ポスター発表賞に選出
26. 高田隆矢、竹田翔伍、下田博司、津雲基光、久保田和孝、山下真行、松田久司、森川敏生：マウンテンキャビア含有オレアナン型トリテルペンサポニン momordin Ic の脂質吸収抑制作用および抗肥満作用
第 25 回天然薬物の開発と応用シンポジウム（仙台）、2025 年 10 月 11-12 日
(国内・ポスター)
27. 西川勝悟、永渕真比呂、永野彩奈、中村萌笑、高田隆矢、萬瀬貴昭、太田智絵、吉田達貞、松本崇宏、森川敏生：生薬クジン (SOPHORAE RADIX) 由来新規プレニルフラボノイドおよび抗アレルギー作用
第 25 回天然薬物の開発と応用シンポジウム（仙台）、2025 年 10 月 11-12 日
(国内・ポスター)
28. 森川敏生：薬用・食用植物資源に含まれるテルペン・芳香族化合物のモニタリング研究
第 69 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（徳島）、2025 年 11 月 1-3 日
(国内・口頭)
依頼講演
29. 西川勝悟、下元優典、森下沙羅、高田隆矢、萬瀬貴昭、森川敏生：生薬レンギョウ (FORSYTHIAE FRUCTUS) 由来新規ジテルペノイド成分および β -グルクロニダーゼ阻害活性
第 69 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（徳島）、2025 年 11 月 1-3 日
(国内・口頭)

30. 高田隆矢、與儀暁乃、長谷川暢大、角谷晃司、森川敏生：大分県産サフラン (*Crocus sativus* L.) の血中中性脂肪上昇抑制作用
第 69 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（徳島）、2025 年 11 月 1-3 日
（国内・口頭）
31. 濱福幸奈、木野村菜々美、宮坂賢知、下田博司、森川敏生、石塚茂宜、山崎 晶、宮田 健、五十嵐靖之、光武 進：米糠由来 Glucosylceramide および新規 6-Acyl-Glucosylceramide の Mincle 活性化と免疫応答への影響
第 98 回日本生化学会大会（京都）、2025 年 11 月 3-5 日
（国内・ポスター）
32. 高島克輝、中村真也、坂野美香、長山麻衣子、二宮清文、石川文洋、丸本真輔、仲西 功、森川敏生、田邊元三：アーユルベータ薬物“Salacia”由来 α -グルコシダーゼ阻害剤 Salacinol の構造活性相関 研究：側鎖部水酸基およびチオ糖環の役割について
第 42 回メディシナルケミストリーシンポジウム（徳島）、2025 年 11 月 18-20 日
（国内・ポスター）
33. 森川敏生：薬用・食用資源からの活性天然物の探索とその開発・応用に関する食品薬学研究
日本生薬学会関西支部 令和 7 年度秋期講演会 生薬に関する最近の話題（大阪）、2025 年 11 月 21 日
（国内・口頭）
招待講演
34. 上林将人、中西郁夫、松田久司、森川敏生：日本が先行してきた酸化ストレス研究と高機能ラジカル捕捉薬
第 35 回日本循環薬理学会・第 55 回日本心脈管作動物質学会 合同開催（鳥取）、2025 年 12 月 5-6 日
（国内・ポスター）
35. 岡坂 衛、石原理恵、河端昭子、田上貴臣、谷手紗也香、西尾雅世、藤田佑飛、山下真行、山本 豊、吉原司貴、酒井英二、森川敏生、松田久司：生薬品質集談会報告第 56 報ーゲンノショウコについてー HPLC によるゲラニイン分析法の検討と市場品の分析
第 53 回生薬分析シンポジウム（大阪）、2025 年 12 月 11 日
（国内・口頭）
36. 永渕真比呂、服部乙葉、永野彩葉、大津行延、高田隆矢、森川敏生：マウス耳介受動皮膚アナフィラキシーモデルを用いたフラボノイド類の抗アレルギー作用
日本薬学会第 146 年会（大阪）、2026 年 3 月 26-29 日
（国内・口頭）
37. 西川陽斗、高島克輝、栗原郁帆、寺田実央、石川文洋、森川敏生、田邊元三：天然薬物由来ゲラニル型クマリン Kayeassamin A の全合成
日本薬学会第 146 年会（大阪）、2026 年 3 月 26-29 日
（国内・口頭）
38. 高島克輝、真鍋佳帆梨、田井利之、山下真優、中村真也、丸本真輔、石川文洋、仲西 功、森川敏生、田邊元三：アーユルベータ薬物“Salacia”由来 α -グルコシダーゼ阻害剤 Salacinol の構造活性相関研究: 3'位ベンジル基への硫黄官能基の導入とその活性評価
日本薬学会第 146 年会（大阪）、2026 年 3 月 26-29 日
（国内・口頭）
39. 浦 明里、Raouf Fard Fatemeh、西川勝悟、山田玲実、萬瀬貴昭、森川敏生：*Ferula ammoniacum* 樹脂由来新規セスキテルペンクマリンの構造解析およびメラニン産生抑制活性
日本薬学会第 146 年会（大阪）、2026 年 3 月 26-29 日
（国内・口頭）
40. 下田博司、宮坂賢知、米田朱里、竹田翔伍、久保瑞希、森川敏生：アデノシン含有イエローストロベリーグアバ抽出物の育毛効果
日本薬学会第 146 年会（大阪）、2026 年 3 月 26-29 日
（国内・ポスター）

41. 高田隆矢、吉川真以、西川勝悟、小島正明、安藤匡哉、野崎香樹、眞岡孝至、松田久司、森川敏生：ツバキ品種群の種子に含まれる camelliasaponin 類の一斉定量分析
日本薬学会第 146 年会（大阪）、2026 年 3 月 26-29 日
（国内・ポスター）

[研究報告書]

1. 松田久司(代表)、森川敏生(分担)：メタボリックシンドロームに有用な総エネルギー消費促進素材の探索
2025 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 実績報告書
2. 松田久司(代表)、森川敏生(分担)：メタボリックシンドロームに有用な総エネルギー消費促進素材の探索
2023-2025年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書
3. 二宮清文(代表)、森川敏生(分担)：薬用食品からインスリン様糖消費亢進作用を機序とする新規抗糖尿病作用成分の探索
2025 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 実績報告書
4. 坂本裕介(代表)、森川敏生(分担)：成分分析による植物性天然素材の品質管理と健康食品の安全性評価に関する研究
2025 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 実績報告書
5. 森川敏生(分担)：小免疫強化作用を訴求した 3 種の機能性米セラミド食品原料の研究開発および事業化
令和 7 年度 成長型中小企業等研究開発支援事業 (Go-Tech) 研究開発成果報告書
6. 森川敏生(分担)：ミモザフラワーを原料とする社交不安障害 (SAD) 改善機能性食品原料の研究開発
2025 年度 新あいち創造研究開発補助金(研究開発(一般型)・実証実験) 成果報告書

[外部助成]

1. 松田久司(代表)、森川敏生(分担)：メタボリックシンドロームに有用な総エネルギー消費促進素材の探索
2023-2025 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
2. 二宮清文(代表)、森川敏生(分担)：薬用食品からインスリン様糖消費亢進作用を機序とする新規抗糖尿病作用成分の探索
2024-2027 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
3. 坂本裕介(代表)、森川敏生(分担)：成分分析による植物性天然素材の品質管理と健康食品の安全性評価に関する研究
2025-2027 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
4. 森川敏生(分担)：免疫強化作用を訴求した 3 種の機能性コメセラミド食品原料の研究開発および事業化
令和5-7年度 成長型中小企業研究開発支援事業 (Go-Tech事業)
5. 森川敏生(分担)：ミモザフラワーを原料とする社交不安障害 (SAD) 改善機能性食品原料の研究開発
2025 年度 新あいち創造研究開発補助金(研究開発(一般型)・実証実験)

[特許]

1. 森川敏生、米田朱里、宮坂賢知、下田博司、村井弘道：血管透過性抑制剤及びそれを用いた冷え性改善剤
特開 2 0 2 5-4 3 9 4 5、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学
(2025 年 4 月 1 日 公開)
2. 森川敏生、萬瀬貴昭、竹田翔伍、宮坂賢知、下田博司、村井弘道：新規化合物及びその用途 Novel compound and use thereof
WO 2 0 2 5 / 1 1 0 2 4 4 A 1、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学
(2025 年 5 月 30 日 公開)
3. 西田升三、椿 正寛、武田朋也、森川敏生：新規化合物およびそれを用いた末梢神経障害の予防又は改善剤
特許第 7 7 3 7 1 6 4 号、学校法人近畿大学
(2025 年 9 月 2 日)
4. 森川敏生、萬瀬貴昭、竹田翔伍、下田博司、村井弘道：新規化合物、その用途、及び新規化合物の製造方法
特開 2 0 2 5-1 3 9 2 3 3、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学
(2025 年 9 月 26 日 公開)

5. 森川敏生：ミョウガの葉部を用いた中性脂質吸収抑制剤
特許第7801717号、株式会社サンライト・リング・ブレス、学校法人近畿大学
(2026年1月8日)
6. 森川敏生、宮坂賢知、竹田翔伍、下田博司、村井弘道：メラニン生成抑制剤
特許第7811454号、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学
(2026年1月28日)
7. 森川敏生、宮坂賢知、竹田翔伍、下田博司、村井弘道：水分蒸散量抑制剤
特許第7814133号、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学
(2026年2月5日)
8. 西田升三、椿 正寛、武田朋也、田邊元三、森川敏生：自己免疫疾患の改善用組成物
特開2026-26185、学校法人近畿大学
(2026年2月16日)
9. 森川敏生、竹田翔伍、山田和佳奈、宮坂賢知、下田博司、村井弘道：エラスティックアミドの製造方法並びにそれを用いた角層セラミド生成促進剤及びTEWL減少剤
特開2026-27535、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学
(2026年2月18日 公開)

[報償等]

1. 高田隆矢、竹田翔伍、下田博司、津雲基光、久保田和孝、山下真行、松田久司、森川敏生：“地膚子”含有momordin Icの脂質吸収抑制作用
第42回和漢医薬学会学術大会（広島）、2025年8月23-24日
(国内・口頭)
優秀発表賞（口頭発表の部）に選出
2. 佐々木将太郎、熊内雅人、福田陽一、森川敏生、赤井周司：水耕栽培によるセンブリの効率的な生産方法の検討
第42回和漢医薬学会学術大会（広島）、2025年8月23-24日
(国内・ポスター)
優秀発表賞（ポスター発表の部）に選出
3. 西川勝悟、山田遥己、永渕真比呂、永野彩奈、中村萌笑、高田隆矢、萬瀬貴昭、森川敏生：クジン (*Sophora flavescens* Aiton, 根) の新規プレニルフラボノイドおよび抗炎症作用成分
日本生薬学会第71回年会（熊本）、2025年9月14-15日
(国内・口頭)
優秀発表賞（口頭発表の部）に選出
4. 西川陽斗、高島克輝、栗原郁帆、寺田実央、石川洋文、森川敏生、田邊元三：天然薬物 *Mammea siamensis* 由来ゲラニル多置換クマリルン Kayeassamin A の全合成研究
第75回日本薬学会関西支部総会・大会（京田辺）、2025年10月4日
(国内・ポスター)
優秀ポスター発表賞に選出
5. 浦 明里、Fatemeh Raouf Fard、西川勝悟、萬瀬貴昭、村岡 修、森川敏生：*Dorema ammoniacum* に含まれるセスキテルペンクマリルの構造解析
第75回日本薬学会関西支部総会・大会（京田辺）、2025年10月4日
(国内・ポスター)
優秀ポスター発表賞に選出

[教育・社会活動]

1. 森川敏生：[学会開催] 第42回和漢医薬学会学術大会 実行委員長（大会長：中島正光）
広島大学霞キャンパス（広島）、2025年8月23-24日

2. 森川敏生：[学会開催] 第 69 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会 =TEAC 創立 70 周年記念大会=（徳島）本部事務局（世話人代表：山本博文）
徳島文理大学徳島キャンパス（徳島）、2025 年 11 月 1-4 日
3. 森川敏生：[講師] 公益財団法人日本薬剤師研修センター 漢方薬・生薬認定薬剤師 2025 年度（春期）漢方薬・生薬研修会 薬用植物園実習研修
近畿大学薬学部薬用植物園（大阪）、2025 年 5 月 31 日
4. 森川敏生：[招待講演] 日本の森林でみかける生薬の基原となる薬用植物
第 2 回日本森林医学学術総会（大阪）、2025 年 8 月 28 日
5. 森川敏生：[講師] 公益財団法人日本薬剤師研修センター 漢方薬・生薬認定薬剤師 2025 年度（秋期）漢方薬・生薬研修会 薬用植物園実習研修
近畿大学薬学部薬用植物園（大阪）、2025 年 10 月 18 日
6. 森川敏生：[依頼講演] 薬用・食用植物資源に含まれるテルペン・芳香族化合物のモニタリング研究
第 69 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（徳島）、2025 年 11 月 3 日
7. 森川敏生：[招待講演] 薬用・食用資源からの活性天然物の探索とその開発・応用に関する食品薬学研究
日本生薬学会関西支部 令和 7 年度秋期講演会 生薬に関する最近の話題（大阪）、2025 年 11 月 21 日
8. 森川敏生：アンエイジングセンター センター長
2023 年 4 月～
9. 森川敏生：アンエイジングセンター 所員
2007 年 6 月～
10. 森川敏生：近畿大学大学院実学起業イノベーション学位プログラム 担当教員
2024 年 4 月～
11. 森川敏生：神戸常盤大学 医療検査学科 非常勤講師「化学Ⅱ（有機化学）」
2022 年 4 月～
12. 森川敏生：大阪大学薬学部 非常勤講師、委託講師「漢方薬学」
2020 年 4 月～
13. 森川敏生：日本薬学会 代議員
2025 年 2 月～
14. 森川敏生：日本薬学会 生薬天然物部会 常任世話人
2024 年 4 月～
15. 森川敏生：日本生薬学会 代議員
2017 年 9 月～
16. 森川敏生：日本生薬学会 学会誌編集委員
2014 年 4 月～
17. 森川敏生：日本生薬学会 学会誌副編集委員長
2022 年 4 月～2026 年 3 月
18. 森川敏生：和漢医薬学会 評議員・代議員
2014 年 9 月～
19. 森川敏生：和漢医薬学会 代議員選挙 選挙管理委員長
2024 年 9 月～2025 年 8 月

- | | |
|--|-------------------------|
| 20. 森川敏生：天然香気研究会 役員（監事） | 2023 年 4 月～ |
| 21. 森川敏生：日本抗加齢医学会 評議員 | 2023 年 6 月～ |
| 22. 森川敏生：日本薬系学会連合 総務委員会委員 | 2023 年 7 月～ |
| 23. 森川敏生：日本食品化学学会 評議員 | 2025 年 1 月～ |
| 24. 森川敏生：日本食品化学学会 編集委員 | 2016 年 1 月～ |
| 25. 森川敏生：香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会 幹事（本部事務局） | 2025 年 10 月～ |
| 26. 森川敏生：天然有機化合物討論会 世話人 | 2026 年 4 月～ |
| 27. Morikawa T : Associate Editor of <i>Journal of Natural Medicines</i> (JONM) | 2022 年 4 月～2026 年 3 月 |
| 28. Morikawa T : Editorial Board Member of <i>Molecules</i> (MDPI) | 2019 年 7 月～ |
| 29. Morikawa T : Editorial Board Member of <i>Acupuncture and Herbal Medicine</i> (Wolters Kluwer) | 2021 年 9 月～ |
| 30. Morikawa T : Associate Editor (Organic Chemistry Section) of <i>Frontiers in Chemistry</i> (Frontiers) | 2022 年 10 月～ |
| 31. 森川敏生：京都漢方研究会 理事 | 2014 年 4 月～ |
| 32. 森川敏生：日本ヘアケア天然素材研究協会 理事（学術担当理事） | 2024 年 11 月～ |
| 33. 森川敏生：生薬品質集談会 会員 | 2019 年 1 月～ |
| 34. 森川敏生：大阪国際サイエンスクラブ 学識会員 | 2023 年 4 月～ |
| 35. 森川敏生：NPO 法人 発達はじめての一步 理事 | 2020 年 2 月～ |
| 36. 森川敏生：智の木協会 学術理事 | 2025 年 10 月～ |
| 37. 森川敏生：第 42 回和漢医薬学会学術大会 実行委員長 | 2025 年 1 月～2025 年 12 月 |
| 38. 森川敏生：第 59 回日本漢方交流会 全国学術総会（京都大会） 実行委員 | 2025 年 11 月～2026 年 11 月 |

薬学総合研究所 先端バイオ医薬研究室

職・氏名・学位

准教授・森山 博由・博士(理学) 担当科目：基礎ゼミ(1)、生物学演習(創1併担)、基礎生物学英語(創2集中)、薬学専門英語(創3分担)、免疫検査学実習(創3)
Hiroyuki Moriyama

所属学会：国際幹細胞学会 (ISSCR)、国際脂肪組織治療科学会 (IFATS)、国際研究皮膚科学会 (ISDR)、欧州研究皮膚科学会 (ESDR)、日本再生医療学会、日本分子生物学会、日本皮膚科学会、日本形成外科学会、日本研究皮膚科学会、細胞再生医療学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 皮下組織にある真の間葉系間質系間葉幹細胞の同定
2. 皮膚臓器に存在する未同定の幹細胞群の探索
3. 幹細胞を用いた細胞・臓器再生を介する再生医療への橋渡し研究
4. 幹細胞の維持・多分化能のメカニズムの解明とその可塑性の研究
5. 皮膚組織の恒常性維持機構の解明
6. 毛髪へのヘアサイクル制御メカニズムの新展開
7. 新規育毛作用物質の開発とマルチプレックス作用機序の解明
8. 皮下組織を含む機能的3次元ヒト人工皮膚組織の創製
9. 歯髄間葉系幹細胞の同定と生体内機能の探求と再生医療実用化のための応用研究
10. 機能性化粧品およびスキンケア用品の開発と美容医療基盤技術の開発
11. 悪性黒色腫の発症メカニズムの解明と新規増悪性抑制法の開発
12. ヒト幹細胞の造腫瘍性における病態解明とその克服に関するレギュラトリーサイエンス研究
13. 再生医療に資する幹細胞を用いた製品開発ガイドラインのためのレギュラトリーサイエンス研究
14. 再生医療実用化加速のための幹細胞等由来製品評価に最低限必須・共通の技術要件・基準（ミニマムコンセンサスパッケージ）に関するレギュラトリーサイエンス研究

研究業績

[原著論文]

1. Kubo H, Moriyama M, Goto S, Miyake Y, Nakamura M, Ozeki Y, Nakamura Y, Moriyama H (corresponding author). Sage extract and ascorbic acid derivative inhibit melanogenesis via downregulating keratinocyte-derived GM-CSF.

Plos One. **20(6)** e0325242, 2025 年 10 月

[総説]

1. 森山博由：「3次元培養ヒト皮膚モデルの評価と応用」～第6章 コラーゲンペプチドリゲル薄膜を用いた3次元培養ヒト皮膚モデルの美白研究への応用～
3次元培養ヒト皮膚モデルの評価と応用 シーエムシー出版編集部(応用編). p47~60. 2025 年 5 月
2. 森山博由：「皮膚」～第1章 皮膚恒常性 第3節「オートファジーを介した皮膚表皮細胞の分化機構と恒常性維持」～

皮膚 (株) エヌ・ティー・エス. epub, 2025 年 6 月

[その他の刊行物]

1. 森山麻里子, 森山博由 (共同配信)：【ビタミン C 誘導体・セージエキスに関する新知見】シミの一因“慢性炎症”を防ぐ新たな作用を発見。

粧業日報 (web 広報). 2025 年 6 月 24 日

2. 森山麻里子, 森山博由 (責任著者) : ローヤルゼリーによる表皮幹細胞を介した肌機能への有効性.
コスメ・美容メディア『LIPS』 web 配信会誌. 2025 年 7 月 1 日
3. Okamoto H, Ito T, Nakagawa Y, Okumura N, Moriyama M, Moriyama H. : Mechanistic Insights into Royal Jelly's Effects on Epidermal Stem Cell Activation and Skin Function.
2025 The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists (2025IFSCC) Conference Proceedings.
2025 年 9 月 15 日
4. Kubo H, Moriyama M, Nakamura Y, Moriyama H. : How do anti-wrinkle ingredients influence cellular behavior ? The effects of cosmetic ingredients on cell shape and movement.
2025 The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists (2025IFSCC) Conference Proceedings.
2025 年 9 月 15 日
5. 森山麻里子, 森山博由: 伊藤忠が細胞・遺伝子治療などの先端医薬品製造工程で用いる国産資材の海外展開を発表 (CS テック社との共同研究配信) .
化学工業日報 (一面トップ) . 2026 年 1 月 7 日
6. オートファジー研究会, 研究皮膚科学会会報誌、学会や研究会の総会レジメ 寄稿等他 (21 報)

[学会・シンポジウム]

1. Hiroyuki Moriyama : Skin Homeostasis (口頭発表)
Harvard medical school at Cutaneous Biological Research Center Congress meeting (Spring). Plenary Lecture (web 講演). 2025 年 4 月 21 日.
2. 森山博由 : 皮膚科学研究の最前線～表皮研究と工業化学について～ (口頭発表)
ピアス社皮膚科学シンポジウム. ピアス中央研究所 (神戸) . 2025 年 6 月 20 日.
3. 森山博由.: 生命科学と口腔ケア～口腔内組織の恒常性の在り方～ (口頭発表)
UHA 味覚糖オーラルケアセミナー. 近畿大学 7 号館 (大阪) . 2025 年 6 月 26 日.
4. Asada S. Moriyama M, Moriyama H : FoxO3a Regulates Scarless Wound Healing. (口頭発表) **2025 JSID Travel Grant Award**
The European Society for Dermatological Research (ESDR), Meeting 2025 , 2025 年 7 月 11 日.
5. Asada S. Moriyama M, Moriyama H : FoxO3a Regulates Scarless Wound Healing. (e-Poster 発表) **2025 JSID Travel Grant Award**
The European Society for Dermatological Research (ESDR), Meeting 2025 , 2025 年 7 月 11 日.
6. Ogata K. Moriyama M, Moriyama H : FoxO3a Regulates Wound Healing by Controlling Mitochondrial Dynamics in Dermal Fibroblasts. (口頭発表) **2025 JSID Travel Grant Award**
The European Society for Dermatological Research (ESDR), Meeting 2025 , 2025 年 7 月 11 日.
7. Ogata K. Moriyama M, Moriyama H : FoxO3a Regulates Wound Healing by Controlling Mitochondrial Dynamics in Dermal Fibroblasts. (e-Poster 発表) **2025 JSID Travel Grant Award**
The European Society for Dermatological Research (ESDR), Meeting 2025 , 2025 年 7 月 11 日.
8. Hideto Okamoto, Takashi Ito, Yukie Nakagawa, Nobuaki Okumura, Mariko Moriyama, Hiroyuki Moriyama. : Mechanistic Insights into Royal Jelly's Effects on Epidermal Stem Cell Activation and Skin Function. (口頭発表)
2025 The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists (2025IFSCC), 2025 年 9 月 15 日.
9. Hideto Okamoto, Takashi Ito, Yukie Nakagawa, Nobuaki Okumura, Mariko Moriyama, Hiroyuki Moriyama. : Mechanistic Insights into Royal Jelly's Effects on Epidermal Stem Cell Activation and Skin Function. (ポスター発表)
2025 The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists (2025IFSCC), 2025 年 9 月 15 日.
10. Hirokazu Kubo, Mariko Moriyama, Yukio Nakamura, Hiroyuki Moriyama. : How do anti-wrinkle ingredients influence cellular behavior ? The effects of cosmetic ingredients on cell shape and movement. (口頭発表)
2025 The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists (2025IFSCC), 2025 年 9 月 15 日.

11. Hirokazu Kubo, Mariko Moriyama, Yukio Nakamura, Hiroyuki Moriyama. : How do anti-wrinkle ingredients influence cellular behavior ? The effects of cosmetic ingredients on cell shape and movement. (ポスター発表)
2025 The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists (2025IFSCC), 2025 年 9 月 15 日.
12. 原田彩月, 下条映夏, 橋本初希, 森 美紀子, 森山麻里子, 森山博由. : FoxO3a は瘢痕の少ない創傷治癒を促進する. (ポスター発表)
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会 (同志社女子大学) 2025 年 10 月 4 日.
13. 下条映夏, 原田彩月, 橋本初希, 森 美紀子, 森山麻里子, 三宅佑有子, 稲村早紀, 田村侑希, 古田梨紗, 角野麻友, 森山博由. : FoxO3a はミトコンドリアダイナミクスを制御することで皮膚の恒常性維持に寄与する. (ポスター発表)
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会 (同志社女子大学) 2025 年 10 月 4 日.
14. 橋本初希, 原田彩月, 下条映夏, 森 美紀子, 森山麻里子, 三宅佑有子, 森山博由 : セージエキスおよびビタミン C 誘導体はケラチノサイトからの GM-CSF を制御することでメラニン産生を減少させる. (ポスター発表)
第 75 回日本薬学会関西支部総会・大会 (同志社女子大学) 2025 年 10 月 4 日.
15. Moriyama, H. Moriyama, M. : FoxO3a-regulating mitochondrial dynamics affects wound healing through regulating fibroblast migration. (口頭発表 Advisory Panel Speaker)
Stem Cells and Regenerative Medicine - From Concepts to Clinic (SCRM-2025) 2025 年 10 月 28 日.
16. 森山博由 : 皮膚を識る ～皮膚臓器を統べる恒常性の探求～ (口頭発表: 教育講演)
第 1 回日本ヘアケア天然素材シンポジウム(web 開催) 2025 年 11 月 16 日.
17. 久保 嘉一, 森山 麻里子, 中村 行雄, 森山博由.: 細胞の形態や動きに対する化粧品原料の効果. (口頭発表)
第 3 回日本化粧品技術協会. 2025 年 12 月 10 日
18. Saki Asada, Mariko Moriyama, Ryoichi Mori, Hiroyuki Moriyama. : FoxO3a Promotes Scarless Wound Healing. (口頭発表)
第 48 回日本分子生物学会年会 2025 年 12 月 13 日
19. Saki Asada, Mariko Moriyama, Ryoichi Mori, Hiroyuki Moriyama. : FoxO3a Promotes Scarless Wound Healing. (ポスター発表)
第 48 回日本分子生物学会年会 2025 年 12 月 13 日
20. 緒方来実, 森山麻里子, 朝田早紀, 後藤彩文, 萬 未帆, 三宅佑有子, 森山 博由. : FoxO3a はミトコンドリアダイナミクスを制御することで皮膚の恒常性維持に寄与する. FoxO3a contributes to maintain skin homeostasis by regulating mitochondrial dynamic (ポスター発表) **MBSJ- Poster Award 2025 および MBSJ-EMBO Poster Award 2025**
第 48 回日本分子生物学会年会 2025 年 12 月 13 日
21. 森山麻里子, 森山博由. : FoxO3a はミトコンドリアダイナミクスを制御することで皮膚の創傷治癒を遅延させる (口頭発表: 招待講演)
第 55 回 日本創傷治癒学会 (55th JSWH) 2025 年 12 月 20 日
22. 下条映夏, 原田彩月, 橋本初希, 森 美紀子, 森山麻里子, 三宅佑有子, 稲村早紀, 田村侑希, 古田梨紗, 角野麻友, 森山博由. : FoxO3a はミトコンドリアダイナミクスを制御することで皮膚の恒常性維持に寄与する. FoxO3a contributes to maintain skin homeostasis by regulating mitochondrial dynamic (口頭発表)
関西 6 私大合同リトリート, (甲南大学 FIRST) 2026 年 2 月 28 日
23. 古田梨紗, 下条映夏, 原田彩月, 橋本初希, 森 美紀子, 森山麻里子, 三宅佑有子, 稲村早紀, 田村侑希, 角野麻友, 森山博由. : セージエキスおよびビタミン C 誘導体はケラチノサイトからの GM-CSF を制御することでメラニン産生を減少させる. (口頭発表)
関西 6 私大合同リトリート, (甲南大学 FIRST) 2026 年 2 月 28 日
24. 森山博由. : 皮膚が司るヒト恒常性の創護を解明. Elucidating the skin's role in creating and protecting human homeostasis. (口頭発表: 教育講演)
関西 6 私大合同リトリート, (甲南大学 FIRST) 2026 年 2 月 28 日

[研究報告書]

1. 森山博由(代表): 再生医療に資する質と量を担保できる真のヒト脂肪由来幹細胞の探求
科学研究費助成事業 基盤研究 C
2. 森山博由(分担): ヒト iPS 細胞等由来分化細胞の臨床応用に資するレシピエントの免疫状態の影響評価
AMED 委託研究費 再生医療実用化研究事業
3. 森山博由(分担): 次期パンデミックに対する水際対策 (ディフェンシブ)
政府直轄委託事業
4. 森山博由(分担): 医薬品等審査迅速化事業費補助金 (革新的医療機器等国際標準獲得推進事業: 大阪大学医学部/同大学院主管校 (特別分担研究: 外部参加機関 [脂肪由来間葉系幹細胞班・近畿大学薬学総合研究所先端バイオ医薬研究室])
AMED 委託研究費 再生医療実用化研究事業
5. 森山博由(協力分担): その他 AMED 受託研究等協力研究機関 (分担・協力研究フォーム) 報告書: 3 件

[外部助成]

1. 森山博由(代表): 再生医療に資する質と量を担保できる真のヒト脂肪由来幹細胞の探求
令和 6 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
2. 森山博由(分担): Notch シグナルによるオートファジーとストレス応答機能の役割解明
令和 6 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
3. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) ヒト表皮構造および恒常性等に関する研究、他 3 課題 [4 件]
国内化粧品企業 受託研究費及び寄付研究費
4. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 皮膚保湿維持効果に関する生薬由来抽出物等の *in vitro* ヒト皮膚評価と機能解析に関する研究、他 3 課題 [総計 4 件]
海外化粧品企業 受託研究費及び寄付研究費
5. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) ヒト皮膚の恒常性維持等に関する根本的基礎研究～臨床橋渡し研究～・他 1 課題 [総計 3 件]
海外製薬企業 受託研究費及び寄付研究費
6. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 再生医療用の新規バイオマテリアルや化学素材の開発[5 件]
工業系企業 受託研究費及び寄付研究費
7. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 再生医療 (臨床) 再生医療 (臨床) 用の間葉系幹細胞作製・保管技術の開発
ケミカル系企業 受託研究費及び寄付研究費
8. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 間葉系幹細胞を用いた急性期もしくは慢性期神経系疾患における新規再生医療法の開発
神戸市および医薬ベンチャー系企業 受託 (共同) 研究費
9. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 次世代医薬品開発に係る課題 (名称非公開)
外資系製薬企業・米国大学-コンソーシアム 委託国際研究支援費
10. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) パンデミック感染症対策に係る課題 (名称非公開)
革新的幹細胞基礎研究支援事業 (国際コンソーシアム): 招聘国際研究グラント
11. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) 次世代パンデミック対策事業 (Dry 研究) 国際支援事業: 継続課題
内閣府直轄事業研究費 (前臨床研究: 感染対策班: 研究代表一括)
12. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) 次世代パンデミック対策事業 (wet 研究) 国際支援事業
内閣府直轄事業研究費 (前臨床研究: 感染対策班: 研究代表一括)

13. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) マラリア治療のさきがけ研究; 国際支援事業
日本-タイ国 ODA 支援研究費 (班研究: 研究代表一括)
14. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) アジア-アフリカ感染症パンデミック予想支援事業 (AI 応用研究開発)
WHO 特別委託事業 (班研究: 研究代表一括)
15. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) インド・東南アジア感染症対策国際支援事業 (AI 応用研究開発)
WHO 特別委託事業 (班研究: 研究代表一括)
16. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) 歯髄幹細胞を用いた次世代医療研究開発
OECD 再生医療支援事業 (班研究: 研究代表一括)

[教育・社会活動]

1. Hiroyuki Moriyama : Skin Homeostasis 【教育講演】

Harvard medical school at Cutaneous Biological Research Center Congress meeting (Spring). Plenary Lecture (web 講演).
2025 年 4 月 21 日.

2. 森山博由 : 皮膚科学研究の最前線～表皮研究と工業化学について～ (口頭発表)
ピアス社皮膚科学シンポジウム. ピアス中央研究所 (神戸). 2025 年 6 月 20 日.
3. 森山博由.: 生命科学と口腔ケア～口腔内組織の恒常性の在り方～ (口頭発表)
UHA 味覚糖オーラルケアセミナー. 近畿大学 7 号館 (大阪). 2025 年 6 月 26 日.
4. 森山博由 : 皮膚を識る ～皮膚臓器を統べる恒常性の探求～ (口頭発表: 教育講演)
第 1 回日本ヘアケア天然素材シンポジウム(web 開催) 2025 年 11 月 16 日
5. 森山博由.: 皮膚が司るヒト恒常性の創護を解明. Elucidating the skin's role in creating and protecting human homeostasis. (口頭発表: 教育講演)
関西 6 私大合同リトリート, (甲南大学 FIRST) 2026 年 2 月 28 日

(講義・研究会講演等)

1. 今年度は研究室単位での小規模研究教育支援セミナー(web 開催) を 3 件開催した。その開催先の機関を以下に示す。国立医薬品食品衛生研究所, 神戸理化学研究所 (理研 BDR)、東京大学医科学研究所, 沖縄科学技術大学院大学 (OIST)、長崎大学, 甲南大学。

(会議・会合参加等) 以下の(公職・学外役員等)の項に挙げる学外役職について、各々につき平均 2 回/年のペースにて諸会議および関連する招集会議に web 参加した。

(公職・学外役員等)

1. 森山博由: 大阪府バイオヘッドクウォーター 広報委員
2011 年 4 月～
2. 森山博由: 生命機能研究会 組織運営委員
2012 年 4 月～
3. 森山博由: Notch シグナル研究班 班員
2011 年 4 月～
4. 森山博由: Frontiers Group [Nature Publishing Group] (Biological Science), Editorial board ASIA member
2013 年 8 月～
5. 森山博由: 細胞再生医療研究会 組織運営委員
2014 年 4 月～
6. 森山博由: 皮膚の会 執行委員
2016 年 11 月～
7. 森山博由: 再生医療臨床診査議会 責任審査員
2019 年 10 月～

8. 森山博由：ハーバード医科大学 皮膚科学研究所 客員教授
2020 年 9 月
9. 森山博由：スタンフォード大学 再生医学研究領域 在外研究員（主幹）
～ 2019 年 10
10. 森山博由：健康長寿再生医療委員会 細胞加工領域 責任審査委員
月～ 2021 年 4
11. 森山博由：神戸理化学研究所 特任研究員（非常勤）
月～ 2010 年 4
12. 森山博由：A3PA 特定認定再生医療等委員会アジア・オセアニア抗老化促進協会 細胞加工領域主席審査委員
2025 年 4 月～

教養・基礎教育部門研究室

職・氏名・学位

教授・武富 利亜・博士(比較社会文化)

Taketomi Ria

所属学会：日本英語英文学会、日本比較文化学会、新英米文学会

担当科目：英語演習3(創2)、英語演習4(創2)、英語演習1再履修(1)、近大ゼミ(1)、国際化と異文化理解(1分担)、実践科学英語演習(創分担)

准教授・ウィリアム・フィゴーニ・修士(教育学)

William FIGONI

所属学会：全国語学教育学会、映画英語教育学会

担当科目：オーラルイングリッシュ1(1)、オーラルイングリッシュ2(1)、オーラルイングリッシュ3(2)、オーラルイングリッシュ4(2)、国際化と異文化理解(1分担)、グローバル創薬科学(創4分担)

教授・田中 博晃・博士(教育学)

Tanaka Hiroaki

所属学会：全国英語教育学会、外国語教育メディア学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会

担当科目：英語演習1(創1)、英語演習2(創1)、英語演習2再(創1)、国際化と異文化理解(1分担)、近大ゼミ(1)、グローバル創薬科学(創4分担)

現在行われている主な研究テーマ

1. カズオ・イシグロの作品を中心テーマに据えた英米日文学及び文化研究
2. 多角的視座による日本のジェンダー表象研究
3. 現代社会の女性学
4. Understanding international communication
5. Presentation skills and public speaking
6. 第2言語習得に関する研究
7. 学習意欲を高める方法に関する研究
8. 映像メディアの学習効果に関する研究

研究業績

[著書]

1. 田中博晃：Fresh Eyes on Science テーマ別で読み解く科学の世界

松柏社, 2026年3月25日

[学会・シンポジウム]

1. 武富 利亜：昭和における女性表象の変遷

日本比較文化学会全国大会(相山女学園大学於)、2025年5月17日

2. Ria Taketomi：Transition of Women's Portrayals in the Japanese Cinema Between 1963 and 1988

The Bucharest Conference on Japanese Studies September, 2025

3. 武富 利亜：映画『遠い山なみの光』公開記念イベント魚ん町+カズオ・イシグロが見た長崎の原風景
ココトト合同社・長崎観光連盟、2025年9月13日

[教育・社会活動]

1. 武富利亜：日本英語英文学会 東海支部長・運営委員

2024年4月～現在

令和 8 年 9 月 10 日 発行

近畿大学薬学部活動報告集（令和 7 年度）

編集・発行

近畿大学薬学部 自己点検評価委員会・薬学部学生センター

